

# 目 次

## 総合科目等

カリキュラム一覧

総合科目 .....	1
外国語科目 .....	25

## こども学科

カリキュラム一覧

専門教育科目 .....	31
教職専門科目 .....	127



# カリキュラム一覧

授業科目名	開講期				担当者名	頁	備考
	1年次		2年次				
	前期	後期	前期	後期			
<b>総合科目</b>							
女性と文化			○		小西律	1	
子ども学概論		○			長尾和美	3	
憲法	○				東裕	5	
教養演習	○				担当教員	7	
くらしと経済			○		担当教員	9	
生命倫理			○		永井秀和	11	
環境と人間			○		藤井太郎	13	
情報リテラシーと処理技術	○	○			丸山幸三	15	
健康科学		○			森田良典	17	
スポーツ(実技)	○	○			森田良典	19	
キャリアマインド	○	○			担当教員	21	
キャリアアップ			○		担当教員	23	
<b>外国語科目</b>							
英語コミュニケーションI	○				和田憲明	25	
英語コミュニケーションII			○		和田憲明	27	



◎総合科目

◎外国語科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
女性と文化	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	小西 律
授業概要	平塚雷鳥はかつて「原始、女性は太陽であった…」と雄々しく叫びをあげました。その昔、上代、中古と女性は表舞台に立ち、政治・文学・宗教などで随分な活躍をしたこともありましたが、武士社会になると、ほんの僅かの例外を除いて表に出ることはなくなりました。その後、どのような位置に置かれたのか、女性達が作り上げ、生きてきた歴史を探究するとともに、現代社会の中で女性が抱える問題点についても調査、考察を行います。			
授業科目の目的	社会生活を営む中で女性としての人権、地位が認められ、確立をみてから時間を経た現在、性差はなくなったように見えますが、果たしてどうでしょうか。過去の歴史から学び、知識と認識をふまえ、自らが多方面から問題意識をもって思考し、現代社会に生きる女性を捉える視点を持てるようになることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性の人権、社会的地位など過去の歴史、及び身近な人たちからの歴史を学び、女性を理解できる。</li> <li>2. 具体的な女性を取り上げ、その生き方から学ぶ点を見出し、女性の理解について考えを廻らすことができる。</li> <li>3. 現代社会の女性が抱える問題点を探求し、自らの問題点として重ね合わせることができるようになる。</li> </ol>			
テキスト	授業の中で紹介するとともに、プリントも行います。			
参考書	近代日本文化論 8 女の文化／青木保他編／岩波書店／2,600円 21世紀のジェンダー論／池内靖子他編／晃洋書房／2,400円			
成績評価基準	定期試験40%、レポート・発表30%、授業・課題に取り組む姿勢30%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	これまで女性が抱えてきた性差など問題点は多くありますが、講義と映像、みなさんの調査、意見発表で授業は展開します。課題についての調べ物、レポートなしの意見発表はありませんので、その都度問題意識をもって取り組んでください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<女性の歴史> 概要
2 回	<女性の生き方から学ぶ(1)> 雷鳥と晶子
3 回	<女性の生き方から学ぶ(2)> 雷鳥と晶子 調査
4 回	<女性の生き方から学ぶ(3)> 雷鳥と晶子 意見交換
5 回	<女性の生き方から学ぶ(4)> マザー・テレサ
6 回	<女性の生き方から学ぶ(5)> マザー・テレサ 調査
7 回	<女性の生き方から学ぶ(6)> マザー・テレサ 意見交換
8 回	<現代社会における問題(1)> 性差とは 教育の中での性差、職制の中での性差
9 回	<現代社会における問題(2)> 男性と育児・家事 『クレイマー・クレイマー』①
10 回	<現代社会における問題(3)> 男性と育児・家事 『クレイマー・クレイマー』②
11 回	<現代社会における問題(4)> 女性の社会進出と家事、育児、高齢者介護① 調査
12 回	<現代社会における問題(5)> 女性の社会進出と家事、育児、高齢者介護② 意見交換
13 回	<現代社会における問題(6)> 男性と家事、育児について① 調査
14 回	<現代社会における問題(7)> 男性と家事、育児について② 意見交換
15 回	<まとめ>
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こども学概論	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	長尾和美
授業概要	<p>こども学は近年、注目を浴びながら発展している学問です。これまで、教育学、心理学、小児医学、社会学、文化人類学、など多岐にわたる学問領域において、それぞれ「こども」について取り組んできました。しかし、「こども」はひとりの人間として存在し、「こども」時代を生きています。そのため、専門領域から理解するだけでなく、総体として「こども」を理解する必要があります。こども学概論では、特定の専門領域だけでなく、様々な領域から「こども」を理解していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>誰でも「こども」であった時代があり、そしていつか「こども」ではなくなる時期を迎えます。「こども」とは、いったいどのような存在なのでしょう。この授業では、「こども」という存在にこだわって、こどもを多面的に見ることによって、こども理解を進めることを目的とします。「こども学」について概観し、こどもを中心に、養育者や保育者のあり方についても考察していきます。</p>			
到達目標	<p>①「こども」の歴史的意味や概観を理解することができます。 ②「こども」を、生物的・心理的・社会的な立場から考察します。 ③現代のこどもに関わる様々な問題を理解し、自らの考えを深めます。</p>			
テキスト	必要に応じてプリント、資料を配布します。			
参考書	授業内で、必要に応じて紹介します。			
成績評価基準	出席率・授業態度30%、課題レポート・発表等の取り組み30%、定期試験40%で、総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	こども学科で学ぶ学生として、「こども」とは何か、改めて考えてほしいと思います。「こども」とはどのような存在であり、どう育っていくのか。また、育ってほしいのか。「こども」に興味を持ち、様々な観点から「こども」について考え、共に学びあっていきましょう。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 「こども学」とは何か?
2 回	<「こども」とは?①> 「こども」とは誰か
3 回	<「こども」とは?②> こども観の変遷
4 回	<こどもの権利と法> 法律とこどもの福祉
5 回	<世界のこどもたち> 様々な状況で生きるこどもたちと多文化共生
6 回	<「こども」の「わたし」> こどもの内なる世界
7 回	<こどもの目線> こどもが見る、感じる世界
8 回	<こどもとおとな> 大人が見る「こども」と自分の「こども」時代
9 回	<こどもと文化・社会①> わが国の児童文化
10 回	<こどもと文化・社会②> 諸外国との比較：海外の家庭と子育て
11 回	<こどもと家庭> 子育てとしつけ、虐待、他
12 回	<こどもと学校> いじめ、不登校、他
13 回	<こどもをめぐる問題> 障がいとその支援、他
14 回	<こどもをとりまく環境> 少子化、消費社会、情報化社会、貧困、他
15 回	<まとめ> 「こども」とは、どのような存在か
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
憲法	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	東裕
授業概要	日本国憲法の全体像が理解できるように講義する。テキストに沿って授業を進めるので、テキストは必ず購入し授業に臨むこと。受講者の理解度に応じて講義するため、受講者に質問を投げかけるが、間違いを恐れず答えてほしい。初めのうちはやや難しいと感じるかもしれないが、休むことなく出席し、テキストを読み、講義を聴いているうちに、だんだん分かるようになってくるものです。講義内容については、条文を重視し、偏りのない解釈に基づいた解説を心がける。			
授業科目の目的	憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつくられているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保される。これが憲法の構造であり目的である。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて機能する。このことを忘れてはならない。以上を理解することが、この講義の目的である。			
到達目標	①日本国憲法の成立過程を説明できる。 ②日本国憲法の基本原理とその相互関係を説明できる。 ③日本国憲法の基本的な条文について通説・判例の見解を説明できる。			
テキスト	『日本国憲法』、上田正一著、嵯峨野書院、3,300円			
参考書	『ポケット六法』（有斐閣）、『デイリー六法』（三省堂）、『コンサイス六法』（岩波書店）などの2,000円程度の『六法』。出版社は問わないが、「ポツダム宣言」が収録されていないものは不可。			
成績評価基準	定期試験90%、平常点10%			
受講の心構えとメッセージ	高校までの憲法学習では正解がありました。例えば、「明治憲法における国民の権利は、天皇から恩恵的に与えられた臣民の権利であり人権の保障とはいえず、『法律の留保』があったため、法律でどのように権利を制限することもできた。擬似立憲主義憲法であった」といったような見解が正解とされました。しかし、この講義ではこのような歴史的背景を考慮しない見解は、必ずしも正解とはなりません。正解とされる憲法知識に疑問を投げかけ、憲法とは何か、憲法はいかにあるべきかを考える姿勢を身につけてもらいたいとおもいます。われわれ国民こそが、憲法をつくり、憲法を変える権力（＝主権）をもっているからです。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<p>〈憲法と立憲主義・日本憲法史〉</p> <p>I. 「憲法と立憲主義」として、①憲法の意味、②憲法の分類、③憲法の特質、II. 「日本憲法史」として、①明治憲法の成立・性格・運用、②日本国憲法の成立・性格・運用、について講義する。</p>
2 回	<p>〈日本国憲法の構造・基本原理・象徴天皇制〉</p> <p>I. 「日本国憲法の構造」として、①日本国憲法の法源、②前文の法的性格、II. 「日本国憲法の基本原則」として、①国民主権、②基本的人権の尊重、③平和主義、III. 「象徴天皇制」として、①天皇の地位・権能、②皇位の継承、③皇室財産、について講義する。</p>
3 回	<p>〈基本的人権の保障〉</p> <p>I. 基本的人権の歴史、II. 人権の享有主体、III. 特別権力関係、IV 私人間における人権保障、V. 包括的人権、VI. 法の下での平等、について講義する。</p>
4 回	<p>〈精神的自由権〉</p> <p>I. 思想・良心の自由、II. 信教の自由と政教分離、III. 学問の自由、IV. 表現の自由、V. 集会・結社の自由、VI. 通信の秘密、について講義する。</p>
5 回	<p>〈身体的自由〉</p> <p>I. 奴隷的拘束・苦役からの自由、II. 適正手続きの保障、III. 被疑者の権利、IV. 刑事被告人の権利、VII. 拷問及び残虐な刑罰の禁止、について講義する。</p>
6 回	<p>〈経済的自由権〉</p> <p>I. 居住・移転の自由、II. 職業選択の自由、III. 外国移住・国籍離脱の自由、IV. 財産権、について講義する。</p>
7 回	<p>〈社会権〉</p> <p>I. 生存権、II. 教育を受ける権利、III. 勤労権と労働基本権、について講義する。</p>
8 回	<p>〈参政権と国務請求権〉</p> <p>I. 参政権、II. 国務請求権、III. 国民の義務、について講義する。</p>
9 回	<p>〈統治機構の基本原則〉</p> <p>I. 権力分立、II. 代表民主制、III. 選挙、IV. 政党、について講義する。</p>
10 回	<p>〈国会と立法権〉</p> <p>I. 国会の地位、II. 国会の権能、III. 国会議員の地位・特権、IV. 国会の会期、について講義する。</p>
11 回	<p>〈内閣と行政権〉</p> <p>I. 内閣の地位、II. 内閣の組織、III. 内閣の権能、IV. 内閣の責任、について講義する。</p>
12 回	<p>〈裁判所と司法権〉</p> <p>I. 裁判所の地位、II. 裁判所の組織、III. 裁判所の権能、IV. 司法権の独立、V. 違憲審査制、VI. 憲法訴訟、について講義する。</p>
13 回	<p>〈財政〉</p> <p>I. 財政の基本原則、II. 予算・決算、について講義する。</p>
14 回	<p>〈地方自治〉</p> <p>I. 地方自治の本旨、II. 地方公共団体の組織・権能、III. 住民自治、について講義する。</p>
15 回	<p>〈憲法改正〉</p> <p>I. 憲法改正の意義、II. 憲法改正手続き、III. 憲法改正の限界、について講義する。</p>
<p>《定期試験》 (有) ・ 無</p>	

教 科 名	開 講 年 次	授 業 形 態	時 間 数 ( 単 位 )	担 当 教 員
教 養 演 習	1 年 ・ 前 期	演 習	30 時 間 ( 2 単 位 )	担 当 教 員
授 業 概 要	<p>一般教養は社会科学、人文科学、自然科学の分野から問題集等をもとに学習します。作文は、観察から文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>一般教養は社会人・保育者として必要な教養を身につけ、作文は、文章表現力とコミュニケーション力の習得を目指します。</p>			
到 達 目 標	<p>①社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。 ②文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。</p>			
テ キ ス ト	<p>授業の中で紹介します。</p>			
参 考 書				
成 績 評 価 基 準	<p>以下の3つの到達目標について、小テスト、実技とレポート提出、授業態度・意欲により理解度を評価します。 ①社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。 ②文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。</p> <p>一般教養は授業態度・意欲30% 小テスト、課題等を70%として総合的に評価します。 作文は授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。 ※総合評価基準は一般教養関係50%、作文関係50%の割合で評価します。</p>			
メ ッ ク の セ ー ジ と	<p>「一般教養」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。</p>			
の そ の 他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション <一般教養・作文の授業内容について>
2 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学①> 作文 <観察から文章表現①>
3 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学②> 作文 <観察から文章表現②>
4 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学③> 作文 <観察から文章表現③>
5 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学④> 作文 <観察から文章表現④>
6 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑤> 作文 <観察から文章表現⑤>
7 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑥> 作文 <観察から文章表現⑥>
8 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑦> 作文 <観察から文章表現⑦>
9 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑧> 作文 <作文と発表①>
10 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑨> 作文 <作文と発表②>
11 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑩> 作文 <作文と発表③>
12 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑪> 作文 <作文と発表④>
13 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑫> 作文 <作文と発表⑤>
14 回	一般教養 <社会科学・人文科学・自然科学⑬> 作文 <作文と発表⑥>
15 回	一般教養 <ふりかえり> 作文 <作文と発表⑦>
《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
くらしと経済	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	担当教員
授業概要	資本主義経済は、政府・家計・企業という3つの個別経済主体がそれぞれ有する経済資源の交換関係により成り立っている。そして、我々の生活はどれ1つが欠けても成り立たない。この講義では、これら3つの経済主体の関係を説明しながら、時折新聞記事を採りあげて解説していくことにする。したがって、授業進行は必ずしも以下のような順序で行われるとは限らない。また、家計管理のための基礎知識として家計簿の作成や金融商品の知識も交えた講義を行います。			
授業科目の目的	新聞やテレビ報道にみる経済問題を数多く採りあげることで、将来皆さんが経済問題を理解し、どのような行動をとるべきかを自ら考えることができるようになるための基礎知識を習得することを目指します。さらに、家計という側面から、将来皆さんが家計を管理出来るための基礎知識の習得も目指します。			
到達目標	①経済問題を理解し基礎知識を習得することができる。 ②経済問題を理解し、どのような行動をとるべきかを自ら考えることができる。 ③家計という側面から、将来皆さんが家計を管理出来るための基礎知識の習得ができる。			
テキスト	必要に応じて授業時にプリントを配付します。			
参考書	必要に応じて紹介します。			
成績評価基準	以下の3つの到達目標について、授業態度と期末試験の理解度により評価します。 ①経済問題を理解し基礎知識を習得することができる。 ②経済問題を理解し、どのような行動をとるべきかを自ら考えることができる。 ③家計という側面から、将来皆さんが家計を管理出来るための基礎知識の習得ができる。 ※評価基準は出席、授業姿勢：30%、期末テスト：70%などにより総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	この授業は皆さんが我が国のどこに住んでも役に立つ知識を提供すること目的としています。したがって、身近な経済問題を意識するようになるためにも、毎日、新聞を読む習慣を身につけましょう。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 経済とは何か
2 回	資本主義経済と3つの経済主体
3 回	政府の経済的役割
4 回	企業と家計の関係
5 回	我が国の経済と財政① 経済成長
6 回	我が国の経済と財政② 直接税と間接税・国税と地方税
7 回	我が国の経済と財政③ 国家予算
8 回	家計管理① 家計簿作成の意義とその方法
9 回	家計管理② 家計と将来の計画
10 回	家計管理③ 金融商品の基礎知識（預金・保険・証券）
11 回	公的年金制度・健康保険制度
12 回	環境と経済
13 回	新聞記事にみる我が国の経済① 直近に発行された新聞記事をもとに講義するので具体的内容は未定
14 回	新聞記事にみる我が国の経済② 直近に発行された新聞記事をもとに講義するので具体的内容は未定
15 回	ふりかえり・まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生 命 倫 理	2 年・前期	講義	30時間 (2 単位)	永 井 秀 和
授 業 概 要	人間を主人公とした生命科学を多角的な視点から講義し、生命に関わる人間の行為について学生諸君と共に考察する。			
授 業 科 目 の 目 的	生命現象の奥に隠されている自然の法則を理解し、生命に対する人間の責任ある関わり方について学生諸君自身の考えを表現できるようになること。			
到 達 目 標	生命の在り方について、学生諸君自身の考えが述べられるようになること。			
テ キ ス ト				
参 考 書	基礎から学ぶ生命倫理学／村上喜良／勁草書房／2,700円 生命倫理と医療倫理／伏木信次／金芳堂／2,500円			
成 績 評 価 基 準	授業態度20%、レポート15%、試験65%			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	生命現象の基本的な仕組みを理解するとともに、生命の尊さを考えながら受講してください。			
の そ の 他				

## 授業内容及び回数

1 回	生きることの証と生命（生命と物質）
2 回	生命倫理とは何か【Ⅰ】（倫理とは）
3 回	生命倫理とは何か【Ⅱ】（エコロジーや医療との関係）
4 回	生命倫理を考える【Ⅰ】 ①生殖生理（生む生まないは女性の権利か）
5 回	生命倫理を考える【Ⅰ】 ②生殖補助技術（人工授精・受精卵移植・代理母）
6 回	生命倫理を考える【Ⅰ】 ③(遺伝子操作)
7 回	生命倫理を考える【Ⅰ】 ④脳死と臓器移植
8 回	生命倫理を考える【Ⅰ】 ⑤安楽死と尊厳死
9 回	生命倫理を考える【Ⅱ】 ①生命倫理と宗教との関係(1)
10 回	生命倫理を考える【Ⅱ】 ①生命倫理と宗教との関係(2)
11 回	生命倫理を考える【Ⅱ】 ②自己存在と自己決定
12 回	議論を深める【Ⅰ】（生まれること・生むこと）
13 回	議論を深める【Ⅱ】（死ぬこと・死を看取ること）
14 回	議論を深める【Ⅲ】（死を受け入れて気遣うこと）
15 回	生命倫理と医療倫理の関係
《定期試験》 (有) ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
環 境 と 人 間	2 年 ・ 前 期	講 義	30時間 (2 単 位)	藤 井 太 郎
授 業 概 要	<p>環境と人間社会の関係を様々な観点から学び、現代社会のあり方を見直すとともに、自分の身近な問題とつなげて考えていきます。また、未来に向けて人類がどう対処すべきか、今我々に何ができるかを考え、環境問題と健康に関心を持ち、生命（いのち）を大切にする子ども達を育てる力をつけていきます。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>環境と人間に関する諸問題を学ぶ中で、その原因や背景、状況、その影響などについて考え、理解を深めます。また、自然との共生や、他者・他国との共生も視野に入れた、持続可能な社会環境や人間のあり方を考えていきます。</p>			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境の基本的な知識を学び、多角的な視点から捉えようとしています。</li> <li>○自分の身近な問題として、環境を捉えられるようになります。</li> <li>○疑問や問題意識を持って、自らの周囲に目を向け、その問題に取り組もうとしています。</li> </ul>			
テ キ ス ト	<p>「生活と環境の科学」 佐島群巳・横川洋子編著 学文社、1,800円</p>			
参 考 書	<p>レスター・ブラウン 『プランB4.0』 ワールドウォッチジャパン、2,625円 (その他、必要に応じてプリント資料を配布します)</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>出席状況・授業への参加態度20%、レポート・発表30%、期末試験50%で総合的に評価します。</p>			
メ ッ ク セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>近年、環境問題は地球規模の喫緊の課題として取り上げられています。日々の生活の中で、環境に関するニュースや情報などに関心を持って、自らの頭で考えるようにしてください。また、授業内では、各自の関心あるテーマに沿って発表し、それを基に議論してきたいと思いますので、皆さんの積極的な参加を求めます。</p>			
の そ の 他	<p>内容は学生の関心によって多少変更することもあります。</p>			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 環境とは？公害問題の歴史
2 回	大気汚染について
3 回	水の問題（水質汚濁等） 課題発表①または映像教材の視聴
4 回	ゴミ問題とリサイクル 課題発表②または映像教材の視聴
5 回	その他の環境問題 課題発表③
6 回	地球環境の温暖化とオゾン層の破壊 課題発表④または映像教材の視聴
7 回	食の問題と食の安全（食品添加物、遺伝子組み換え、環境ホルモンなど） 課題発表⑤
8 回	食の問題と食の安全（食品添加物、遺伝子組み換え、環境ホルモンなど） 課題発表⑥
9 回	アレルギー・花粉症・喫煙問題 課題発表⑦
10 回	望ましい消費者となるために 課題発表⑧
11 回	生き物の保全（自然と生態系） 課題発表⑨
12 回	環境としての情報化社会（テレビ、テレビゲーム、パソコン、携帯電話等の問題点等） 課題発表⑩
13 回	環境型社会の構築（開発と環境） 課題発表⑪
14 回	環境倫理と生命倫理
15 回	映像教材の視聴 まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報リテラシーと処理技術	1年・通期	演習	60時間 (2単位)	丸山幸三
授業概要	Windowsの基本操作やワープロソフトによる文書作成、表計算ソフトによる表やグラフの作成、インターネットの利用などの演習を通じて、コンピュータの利用技術を学習します。さらに、応用操作を身につけるため「園たより」の作成など業務に即した課題にも取り組みます。			
授業科目の目的	パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につける。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windowsの基本操作を理解する。</li> <li>• インターネットの基本概念理解し、活用する能力を身につける。</li> <li>• ワープロソフトを活用し、基本的な文書を作成する能力を身につける。</li> <li>• 表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身につける。</li> <li>• プレゼンテーションソフトを活用し、発表資料を作成する能力を身につける。</li> <li>• ホームページの仕組みを理解し、作成する能力を身につける。</li> </ul>			
テキスト	三木紘武「情報リテラシーと処理技術」近畿大学豊岡短期大学通信教育部配本テキスト／400円			
参考書				
成績評価基準	定期試験50%、提出課題40%、学習態度10%をもとに総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	課題として、演習において作成したファイルなどの提出を指示することがあります。提出された課題については、試験成績、学習態度とともに評価の対象としますので、提出忘れのないようにして下さい。この分野は成長が著しく、常に最新の動向を捉えておく必要があります。ここで習得した知識を基礎として、今後の変化に柔軟に対応する能力が求められます。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<Windowsの概要> Windowsの基本的な操作を理解する。	16 回	<表計算ソフトの概要> ブックやシートの操作、データ入力、コピー、移動方法を理解する
2 回	<日本語入力の操作> 日本語入力システムの利用方法を理解する。	17 回	<計算式の利用> 計算式の入力方法を理解する
3 回	<タイピングトレーニング> タッチタイピングトレーニングソフトを利用したのタイプトレーニング	18 回	<基本関数の利用> 関数を使って合計や平均を求める方法を理解する。
4 回	<インターネット> インターネットの仕組み、活用方法、検索エンジンの利用方法を理解する。	19 回	<応用関数の利用> 日付、条件判定、端数処理などの関数の活用方法を理解する
5 回	<電子メール> 電子メールの仕組み、メールの送受信、データの添付を理解する。	20 回	<グラフの作成①> エクセルデータを基に、基本的なグラフを作成する能力を身につける。
6 回	<ワープロソフトの概要> ワープロソフトの起動、終了、画面構成について理解する。	21 回	<グラフの作成②> エクセルデータを基に、応用的なグラフを作成する能力を身につける。
7 回	<文書作成・編集> ワードを使って簡単な文書の作成、編集する能力を身につける。	22 回	<データベース機能> データベース機能を理解し、活用できる能力を身につける。
8 回	<文書編集> ワードにて作成した文書を編集する能力を身につける。	23 回	<ブックの利用> 複数のワークシートの連携方法を理解する。
9 回	<罫線・表・図形の活用> 文書に罫線や表を追加する能力を身につける。	24 回	<シート分析と入力規則> 条件付き書式、SmartArtグラフィックス、入力規則などを理解する。
10 回	<イラスト、画像の活用> 文書にイラストや画像ファイルを追加する能力を身につける。	25 回	<総合課題①> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
11 回	<SmartArt・WordArtの活用> はがき文書を作成する能力を身につける	26 回	<総合課題②> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
12 回	<プレゼンテーションソフト> プレゼンテーションソフトを使って発表資料を作成する能力を身につける。	27 回	<総合課題③> ワード、エクセルを活用し、実際に「園だより」を作成する。
13 回	<プレゼンテーションソフト> プレゼンテーションソフトの操作方法、活用方法を理解する。	28 回	<総合課題④> ワードを使って文書を作成し、より実践的な活用方法を身につける。
14 回	<Webページ作成①> Webページの仕組みとHTMLの要素を理解する。	29 回	<総合課題⑤> エクセルを使ってワークシートを作成し、より実践的な活用方法を身につける。
15 回	<Webページ作成②> 簡単なWebページが作成できる能力を身につける。	30 回	<総合課題⑤> ワード、エクセルを組み合わせた文書作成し、より実践的な活用方法を身につける。
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
健康科学	1年・後期	講義	15時間 (1単位)	森田良典
授業概要	健康科学のテキストとスポーツに関する視聴覚教材を使つての講義と演習で科学的健康づくりを学びます。			
授業科目の目的	日々健康で勉学や仕事に打ち込むには、心身ともに健康でなければなりません。今日、私たちを取り巻く社会や環境、生活の変化は私たちの健康に多大な影響を及ぼしています。本講義では、そのことについて客観的に分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的としています。			
到達目標	自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになります。また、救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力を身につけるとともに、生涯における健康な生活設計(薬物・アルコール・たばこ・エイズ等)への自己の認識を確立し実践できるようになります。			
テキスト	健康科学(著者:長谷川定宣 発行者:近畿大学豊岡短期大学通信教育部)			
参考書	なし			
成績評価基準	成績評価の算出及び割合 意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技・定期試験60% ①意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができているか。 ②課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 ③実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識を習得・理解ができているかを評価します。			
受講の心構えとメッセージ	日頃からの自己の健康管理を考え実践する。また、予復習としては、学外でのスポーツやレクリエーションに取り組み科学的健康づくりを実践する。課題レポートは本学図書館等を活用し完成させてください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	運動処方① 運動処方について学ぶとともに、毎夏に運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ。
2 回	救命救急 救命救急処置についての知識と処置法、AEDの取り扱い方を学ぶ。
3 回	障がい者へのスポーツ指導法 ボッチャ・風船バレー・卓上バレーボール（卓球）などの障害者スポーツの科学的指導法を学ぶ。
4 回	薬物・喫煙・飲酒と健康 薬物・喫煙・飲酒が身体に及ぼす健康について理解を深め、自己のライフスタイルを確立させる。
5 回	健康日本21 「健康日本21」から自己の健康への課題を探る。
6 回	運動処方② ウォーミングアップとクーリングダウン、ストレッチについて学ぶ
7 回	運動の基礎理論 体力の概念とトレーニング理論とその方法について学ぶ
8 回	自己の健康 自己のライフスタイルでの健康づくりを学ぶ（ウォーキング）
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
スポーツ(実技)	1年・通年	実技	45時間 (1単位)	森田良典
授業概要	各種のスポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学びます。			
授業科目の目的	生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることを目的とします。講義では、健康と安全に留意しながら対人的・集団的スポーツを楽しむことができます。作戦の立て方や審判の仕方、競技運営方法を学び 各種のスポーツを仲間とともに技能面の上達を図り楽しむことができ、自己の体力・健康の保持・増進を図ることができます。また、障害者スポーツ指導員資格取得のための内容にも触れながら障がいを持つ人のスポーツを体験することで、将来、指導者としての指導力の幅を広げ、障がいを持つ人(幼児から高齢者)のスポーツ指導ができるようになります。			
到達目標	バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球を仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになります。また、障害者スポーツを理解し、障がいを持った方とともにスポーツを楽しむことができます。			
テキスト	健康科学(著者:長谷川定宣 発行者:近畿大学豊岡短期大学通信教育部) 障害者スポーツ指導教本(購入の必要なし)			
参考書	なし			
成績評価基準	成績評価の算出及び割合 意欲・関心・態度30%、課題レポート10%、実技・定期試験60% ①意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていないか。 ②課題レポートでは課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。 ③実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識を習得・理解ができていないかを評価します。			
受講の心構えとメッセージ	この講義を通して、スポーツをすることの意味をあらためて考えよう。また、スポーツの新たな魅力や関わり方を発見しよう。スポーツ(実技)は参加してこそ、そのスポーツの本来の楽しさを味わうことができます。見学・欠席しないように日頃の健康管理を実践する。また、予復習としては、余暇を使ってスポーツやレクリエーションに取り組み健康づくりを行う。課題レポートは本学の図書館等を活用し完成させてください。			
その他事項	実技では、運動のできる服装・シューズを準備し指導者(保育士)の心構えを身につけよう。			

## 授業内容及び回数

1 回	ガイダンス スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ。	16 回	バスケットボール③ リーグ戦方式でゲームを楽しみ、プレーの上達を図る。
2 回	バレーボール① 基本練習・ルール説明・障害者スポーツについて学ぶ。	17 回	バスケットボール④ リーグ戦方式でゲームを楽しみ、プレーの上達を図る。
3 回	バレーボール② 応用練習でバレーボールの技能を上達しゲームを楽しむ。	18 回	障害者スポーツ③ 障害者指導と安全管理・全国障害者スポーツ大会概要について学ぶ
4 回	バレーボール③ バレーボールの技能を上達し、チームゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	19 回	障害者スポーツ④ 障がいを持つ人とスポーツ交流を行う。(風船バレーを共に楽しむ)
5 回	バレーボール④ 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	20 回	卓球① シングルの基本練習で技能の上達を図る
6 回	バレーボール⑤ 技能を上達させ、作戦を立てゲームを楽しむ。審判も学ぶ。	21 回	卓球② シングルのルールを学び、技能の上達を図りリーグ戦方式でゲームを楽しむ。
7 回	障害者スポーツ① 障害者スポーツ概論・日本障害者スポーツ協会資格認定制度について学ぶ。	22 回	卓球③ シングルの技能の上達を図り、リーグ戦方式でゲームを楽しむ。
8 回	障害者スポーツ② 必要性と活用方法について 視覚障害者の支援の仕方を学ぶ。	23 回	卓球④ ダブルスのルールを学び、技能の上達を図り、トーナメント方式でゲームを楽しむ。
9 回	バドミントン① バドミンントンの基本練習で技能の上達を図る。	24 回	
10 回	バドミントン② ダブルスの基本練習・応用練習・ルールを学び、ゲームを楽しむ。	25 回	
11 回	バドミントン③ ダブルスでゲームを楽しみ、上達する。	26 回	
12 回	バドミントン④ ダブルスのゲームをでリーグ戦方式で楽しみ、上達する。	27 回	
13 回	バドミントン⑤ ダブルスのゲームをでトーナメント戦方式で楽しみ、上達する。	28 回	
14 回	バスケットボール① 基本練習・応用練習・障害者バスケットボールについて学ぶ	29 回	
15 回	バスケットボール② 応用練習・ルール・審判を学び、ゲームを楽しむ	30 回	
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアマインド	1年・通期	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者として必要なマナーや教養の理解を通して、必要とされる人材としての資質を高め、保育者・幼児教育者としての意識を高めていきます。</p> <p>また、実践や作業の中で必要な知識・技術を習得していきます。</p> <p>後期からの一般教養は進度別に問題集等をもとに学習し、作文は、観察から文章を書く学習と発表することを通して教養と文章表現・コミュニケーション力の習得を目指して展開していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>社会人・保育者として必要なマナー・教養を実践することにより、それらを確実に習得することを目的とします。</p> <p>一般教養は社会人・保育者として必要な教養を身につけ、作文は、文章表現力とコミュニケーション力の習得を目指します。</p>			
到達目標	<p>①保育者として必要な教養・知識・技能を習得することができます。</p> <p>②社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。</p> <p>③文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。</p>			
テキスト	授業で紹介します。			
参考書	授業で紹介します。			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について、課題発表とレポート提出により理解度を評価します。</p> <p>①保育者として必要な教養・知識・技能を習得することができます。</p> <p>②社会人・保育者として必要な教養を身につけることができます。</p> <p>③文章表現力と発表力等のコミュニケーション力の習得ができます。</p> <p>①は授業態度・意欲を40%、課題の内容・発表を60%として総合的に評価します。</p> <p>②と③は、授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。</p> <p>※総合評価基準は模マナー・保育関係60%、一般教養20%、作文20%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>少人数のグループによる実践や、講義・演習・作業・発表などを取り入れた授業を展開していきます。受講生自身が目的意識を持ち、積極的に授業に参加してください。</p> <p>一般教養と作文力、発表力は社会人・保育者として必要な教養です。主体的に学習する態度で受講してください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	社会人としてのマナーの獲得① 身だしなみ、敬語の使い方を習得する	16 回	一般教養テスト 作文 <作文と発表①>
2 回	社会人としてのマナーの獲得② 電話のマナーを習得する	17 回	保育カリキュラムの基礎理論の把握 保育指導案の必要性を探る
3 回	社会人としてのマナーの獲得③ 挨拶の仕方を習得する	18 回	一般教養（基礎）／（発展）① 作文 <作文と発表②>
4 回	社会人としてのマナーの獲得④ 掃除の仕方を習得する	19 回	月別保育カリキュラムの理解① 月別の保育（あそび）を調べる
5 回	メディアリテラシーの理解 保育における情報活用能力を習得する	20 回	一般教養（基礎）／（発展）② 作文 <作文と発表③>
6 回	保育とは何か 保育園・幼稚園の基礎知識を習得する	21 回	月別保育カリキュラムの理解② 月別の保育（あそび）を調べる
7 回	保育観察① 環境・子ども・保育者を観る	22 回	一般教養（基礎）／（発展）③ 作文 <作文と発表④>
8 回	保育園を知る 環境構成・子どもの内面・保育者の援助についての理解を深める	23 回	月別保育カリキュラムの事前研究① 模擬保育のための具体的準備をする
9 回	保育園観察実習記録の目的と意義 保育園観察実習記録の方法を理解する	24 回	一般教養（基礎）／（発展）④ 作文 <作文と発表⑤>
10 回	保育観察② 環境・子ども・保育者を観る	25 回	月別保育カリキュラムの事前研究② 模擬保育のための具体的準備をする
11 回	幼稚園を知る 環境構成・子どもの内面・保育者の援助についての理解を深める	26 回	一般教養（基礎）／（発展）⑤ 作文 <作文と発表⑥>
12 回	幼稚園観察実習記録の目的と意義 幼稚園観察実習記録の方法を理解する	27 回	月別保育カリキュラムにそった保育内容の展開① 模擬保育
13 回	実践的保育演習① 発達に応じた保育技能を習得する（手あそび）	28 回	一般教養（基礎）／（発展）⑥ 作文 <作文と発表⑦>
14 回	実践的保育演習② 発達に応じた保育技能を習得する（歌）	29 回	月別保育カリキュラムにそった保育内容の展開② 模擬保育
15 回	実践的保育演習③ 発達に応じた保育技能を習得する（絵本、紙芝居）	30 回	一般教養テスト 作文 <作文と発表⑧>
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
キャリアアップ	2年次・前期	演習	30時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>模擬保育関係は、指導案をもとに模擬保育など実践的な学びを展開します。進路別学力教養と作文は、それぞれの進路に必要な一般教養や作文の学習を通して、知識・文章表現の習得を目指して展開していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>実習・就職に必要な保育に関する知識・技能を習得すること及び、受講生それぞれの進路にあわせて必要な、知識・技能を身につけることを目的とします。</p>			
到達目標	<p>①乳幼児の発達に即した指導案作成ができるようになります。  ②指導案をもとに、模擬保育を実践し、保育技能を身につけることができます。  ③作文は、テーマをもとに文章表現力を身につけることができます。  ④進路別学力養成では、それぞれの進路に応じた知識・教養を身につけることができます。</p>			
テキスト				
参考書	<p>必要に応じて紹介していきます。</p>			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について、実技とレポート提出、授業態度・意欲により理解度を評価します。  ①乳幼児の発達に即した指導案作成の習得を図ることができる。  ②指導案をもとに、模擬保育を実践し、保育技能を身につけることができる。  ③テーマをもとに文章表現ができる。  ④進路別学力養成では、それぞれの進路に応じた知識・教養を身につけることができる。  模擬保育関係は、授業態度・意欲30% レポートを30% 実技40%として総合的に評価します。  進路別学力養成と作文は、授業態度・意欲30% 課題を70%として総合的に評価します。  ※総合評価基準は模擬保育関係50%、進路別学力養成25%、作文25%の割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習・就職に役立つ内容の授業ですが、皆さんの積極的な学習（知識・技能）姿勢が将来の実習先や職場などで能力を発揮し、信頼関係を構築できる要素となります。この授業をきっかけに各主体的にこつこつと学習を積み重ねていく習慣をつけてください。  「進路別学力養成」と「作文」は社会人・保育者として必要な教養です。主体的に学習する姿勢で受講してください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション（模擬保育関係・進路別学力養成・作文）
2 回	指導案とは何か 乳幼児期の発達を理解し、指導案作成に臨む
3 回	指導案作成 ① 0・1・2歳児の授業案の作成と検討をする
4 回	指導案作成 ② 3・4・5歳児の授業案の作成と検討をする
5 回	模擬保育とは何か 模擬保育とは何かを理解し、保育準備を行う
6 回	模擬保育の実践 0・1・2歳児の保育を展開し点検する
7 回	模擬保育の実践 3・4・5歳児の保育を展開し点検する
8 回	模擬保育の成果と課題 新たな視点で保育を考える
9 回	進路別学力養成①／作文
10 回	進路別学力養成②／作文
11 回	進路別学力養成③／作文
12 回	進路別学力養成④／作文
13 回	進路別学力養成⑤／作文
14 回	進路別学力養成⑥／作文
15 回	進路別学力養成⑦／作文
《定期試験》 有 ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
英語コミュニケーションⅠ	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	和田 憲 明
授 業 概 要	テキストは保育園での生活を題材にしたものである。保育園での1年間の様子が描かれた英文を読む。また保育者と子どもや保護者との会話に使われる表現や、連絡事項の書き方などを学習する。			
授 業 科 目 の 目 的	近頃では、幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、英語を使う機会も増えている。保育の現場で必要な英語を身につけることを目的とする。			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育園での生活に関する英文を読み、保育園に関する理解を深めることができる。</li> <li>2. 保育者と子どもや保護者との会話に使われる英語表現を身につけることができる。</li> </ol>			
テ キ ス ト	新・保育の英語／森田和子／三修社／1,995円			
参 考 書				
成 績 評 価 基 準	定期試験、小テストの成績、課題の提出状況、授業に取り組む姿勢、出欠状況などで評価する。定期試験50%、課題・小テスト20%、授業態度10%、出欠状況20%			
メ ッ ク の 心 構 え と セ ー ジ と	学習の効果を上げるためには家庭学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。			
の そ の 他				

## 授業内容及び回数

1 回	<The School Year Begins> 本文の読解、基本表現、練習
2 回	<Arrival> 本文の読解、基本表現、練習
3 回	<Playtime in the Classroom> 本文の読解、基本表現、練習
4 回	<In the Sandbox> 本文の読解、基本表現、練習
5 回	<Grammar 1> 一般動詞・be動詞
6 回	<Lunchtime> 本文の読解、基本表現、練習
7 回	<Changing Clothes and Story Time> 本文の読解、基本表現、練習
8 回	<Nap Time> 本文の読解、基本表現、練習
9 回	<A Sick Child > 本文の読解、基本表現、練習
10 回	<Grammar 2> 疑問文・否定文・命令文
11 回	<Preparation for Sports Day> 本文の読解、基本表現、練習
12 回	<Sports Day> 本文の読解、基本表現、練習
13 回	<Going for a Walk> 本文の読解、基本表現、練習
14 回	<Discovering Autumn> 本文の読解、基本表現、練習
15 回	<Grammar 3> 前置詞
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
英語コミュニケーションⅡ	1年・前期	演習	30時間 (2単位)	和田憲明
授業概要	日本とアメリカの文化や社会事情の比較に関する英文を読みながら、中学・高校で学んだ文法の復習をしたり、両国の文化・社会事情の違いについて考えを深める。			
授業科目の目的	進学・就職に向けて、総合的な英語の力を伸ばすことをめざす。			
到達目標	この授業は、英語読解力、リスニング力、ライティング力、スピーキング力など、英語の4技能の総復習・向上を図ることを目標とする。文法事項の説明も行い、基本的な英語知識の定着を図ります。			
テキスト	Basically America, Basically Japan/Charles L. Clark 他/南雲堂/1,995円			
参考書				
成績評価基準	定期試験、小テストの成績、課題の提出状況、授業に取り組む姿勢、出欠状況などで評価する。定期試験50%、課題・小テスト20%、授業態度10%、出欠状況20%			
受講の心構えとメッセージ	学習の効果を上げるためには家庭学習が不可欠です。テキストと英和辞典を持参し、積極的に授業に取り組んでください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<Cherry Blossoms (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
2 回	<Cherry Blossoms (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
3 回	<Capital Cities (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
4 回	<Capital Cities (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
5 回	<Movies (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
6 回	<Movies (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
7 回	<Transportation (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
8 回	<Transportation (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
9 回	<Advertisements (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
10 回	<Advertisements (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
11 回	<Education (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
12 回	<Education (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
13 回	<Loan Words (1)> 本文の読解、リーディング、問題演習
14 回	<Loan Words (2)> 本文の読解、リーディング、問題演習
15 回	<復習とまとめ> 総復習、学習アンケート
《定期試験》 (有) ・ 無	



# カリキュラム一覽

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
専門教育科目							
児 童 家 庭 福 祉		○			橋 本 好 広	31	
社 会 福 祉 論	○				森 合 真 一	33	
相 談 援 助			○		森 合 真 一	35	
保 育 相 談 支 援				○	森 合 真 一	37	
地 域 福 祉 論				○	森 合 真 一	39	
障 害 児 (者) 福 祉 論				○	森 合 真 一	41	
家 庭 支 援 論	○				森 合 真 一	43	
在 宅 保 育				○	担 当 教 員	45	
こ だ も と 造 形 I	○				岩 田 健 一 郎	47	
こ だ も と 造 形 II		○			岩 田 健 一 郎	49	
こ だ も と 造 形 III			○		岩 田 健 一 郎	51	
こ だ も と 造 形 IV				○	岩 田 健 一 郎	53	
こ だ も と 体 育 I	○				森 田 良 典	55	
こ だ も と 体 育 II		○			森 田 良 典	57	
こ だ も の 保 健 I			○		谷 岡 ま さ 子	59	
こ だ も の 保 健 II				○	谷 岡 ま さ 子	61	
こ だ も の 保 健 III				○	原 田 玻 瑠 美	63	
保 育 原 理	○				栗 岡 あ け み	65	
社 会 的 養 護	○				橋 本 好 広	67	
精 神 保 健			○		野 口 和 也	69	
こ だ も の 食 と 栄 養			○	○	岡 崎 典 子	71	
こ だ も の 人 権			○		東 裕	73	
障 害 児 保 育		○			橋 本 好 広	75	
こ だ も と 文 学			○		小 西 律	77	
こ だ も と 音 楽		○			茨 木 金 吾	79	
こ だ も と 音 楽 表 現 I (ピ ア ノ)	○	○			西 野 洋 子	81	
こ だ も と 音 楽 表 現 III (器 楽)			○	○	茨 木 大 江 大 谷 松 本	83	
こ だ も と 音 楽 表 現 II (声 楽 一 歌)		○			西 野 洋 子	85	
医 学 一 般			○		原 田 玻 瑠 美	87	
言 語 表 現		○			小 西 律	89	
地 域 ボ ラ ン テ ィ ア	実 習	実 習	実 習	実 習	長 尾 和 美	91	
保 育 総 合 演 習 I	○	○			担 当 教 員	93	
保 育 総 合 演 習 II			○	○	担 当 教 員	95	
保 育 総 合 演 習 III	○	○			担 当 教 員	97	
卒 業 研 究			○	○	担 当 教 員	99	

## カリキュラム一覽

授 業 科 目 名	開 講 期				担 当 者 名	頁	備 考
	1 年 次		2 年 次				
	前 期	後 期	前 期	後 期			
<b>専門教育科目</b>							
図 書 館 情 報 技 術 論					戸 邊 俊 哉	101	集中講義 〃 〃 〃 〃
情 報 サ ー ビ ス 論					原 田 安 啓	103	
情 報 サ ー ビ ス 演 習					平 野 翠	105	
図 書 館 情 報 資 源 概 論					原 田 安 啓	107	
情 報 資 源 組 織 演 習					平 野 翠	109	
生 涯 学 習 概 論	○				戸 邊 俊 哉	111	
図 書 館 概 論	○				戸 邊 俊 哉	113	
図 書 館 制 度 ・ 経 営 論			○		戸 邊 俊 哉	115	
図 書 館 サ ー ビ ス 概 論			○		戸 邊 俊 哉	117	
児 童 サ ー ビ ス 論			○		戸 邊 俊 哉	119	
図 書 館 施 設 論			○		戸 邊 俊 哉	121	
情 報 資 源 組 織 論			○		戸 邊 俊 哉	123	
図 書 館 情 報 資 源 特 論			○		戸 邊 俊 哉	125	
<b>教職専門科目</b>							
教 職 論			○		藤 井 太 郎	127	
教 育 原 理		○			赤 木 公 子	129	
教 育 心 理 学		○			野 口 和 也	131	
発 達 心 理 学	○				野 口 和 也	133	
臨 床 心 理 学			○	○	野 口 和 也	135	
こ だ も と 文 化 論	○	○			小 西 律	137	
教 育 課 程 論 (保 育 指 導 法)			○		宿 南 久 美 子	139	
保 育 内 容 総 論				○	長 尾 和 美	141	
こ だ も と 健 康		○			栗 岡 あ け み	143	
こ だ も と 人 間 関 係		○			野 口 和 也	145	
こ だ も と 環 境	○				赤 木 公 子	147	
こ だ も と 言 葉		○			小 西 律	149	
こ だ も と 言 葉 II		○			小 西 律	151	
こ だ も と リ ズ ム 表 現	○				茨 木 金 吾	153	
こ だ も と リ ズ ム 表 現 II			○		茨 木 金 吾	155	
こ だ も と 造 形 表 現	○				岩 田 健 一 郎	157	
教 育 方 法 論			○		赤 木 公 子	159	
教 育 相 談				○	藤 井 太 郎	161	
保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼 稚 園)				○	赤 木 ・ 宿 南	163	
乳 幼 児 保 育			○		長 尾 和 美	165	
社 会 的 養 護 内 容		○			橋 本 好 広	167	
教 育 実 習		実 習	実 習		宿 南 久 美 子	169	
教 育 実 習 事 前 ・ 事 後 指 導		○	○	○	宿 南 久 美 子	171	
保 育 実 習 I	実 習	実 習			栗 岡 ・ 井 上 ・ 橋 本	173	
保 育 実 習 指 導 I	○	○	○		栗 岡 ・ 井 上 ・ 橋 本	175	
保 育 実 習 II			実 習		栗 岡 ・ 井 上	177	
保 育 実 習 指 導 II			○	○	栗 岡 ・ 井 上	179	
保 育 実 習 III			実 習		橋 本 好 広	181	
保 育 実 習 指 導 III			○	○	橋 本 好 広	183	

◎專門教育科目

◎教職專門科目

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童家庭福祉	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	橋本好広
授業概要	現代社会において子どもや家庭を取り巻く環境がどのような状況にあるのかを明らかにし、子ども家庭福祉制度を概説し、具体的な支援の在り方や保育者の役割を教授する。			
授業科目の目的	子ども家庭福祉施策、子どもや家庭を取り巻く環境を概説し、具体的な支援の在り方や保育者の役割について理解をする。			
到達目標	子ども家庭福祉制度の理解ができ、子どもや保護者のニーズを把握する力を養い、保育者として適切な支援ができる力量を養う。			
テキスト	福祉の基本体系シリーズ『児童家庭福祉の理論と制度』／勁草書房／2,520円			
参考書	新保育士養成講座 第3巻『児童家庭福祉』／全国社会福祉協議会／1,900円 『児童の福祉を支える 児童家庭福祉』 萌文書林／吉田真理 著／2,000円 『相談援助論』 保育出版社／杉本敏夫・豊田志保 編、森合真一 他著／2,500円 『保育者養成シリーズ 相談援助』 一藝社／林邦雄・谷田貝公昭 編、森合真一 他著／2,200円			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 学生の主体的参加を望む。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	児童家庭福祉の理念と権利保障
2 回	児童家庭福祉の理論の歴史
3 回	児童家庭福祉の歴史
4 回	児童家庭福祉の制度と実施体系
5 回	児童家庭を取り巻く状況と福祉ニーズ
6 回	児童家庭福祉と保育
7 回	少子化と子育て支援サービス
8 回	母子保健施策
9 回	児童健全育成
10 回	児童虐待とドメスティックバイオレンス
11 回	社会的養護に関する施策
12 回	障害児と家庭の支援
13 回	少年非行に関する施策
14 回	ひとり親家庭への支援
15 回	これからの児童家庭福祉の理論と制度
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会福祉論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	森合真一
授業概要	社会福祉の意義や理念、法体系などの全体像が把握できるように、近年の社会状況を踏まえながら講義を進めていく。			
授業科目の目的	現代社会における社会福祉の意義、理念、さらには社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨を理解する。また、多様化する社会福祉にニーズに対する専門職としての役割や援助方法について学ぶ。さらに社会福祉サービスの公共性や利用者保護のあり方について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義、歴史的変遷が理解できる。</li> <li>2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の要旨が理解できる。</li> <li>3. 社会福祉における公私の役割が理解できる。</li> <li>4. 相談援助方法及び福祉専門職の役割が理解できる。</li> <li>5. 社会福祉関連領域の概要が把握できる。</li> <li>6. 利用者保護の制度、活動が理解できる。</li> </ol>			
テキスト	総合福祉の基本体系 第2版／井村圭壯・相澤譲治編著／勁草書房／2,520円			
参考書	第2版 社会福祉論／高間満・相澤譲治・津田耕一編著／2,415円 保育士養成テキスト①社会福祉／石田慎二・倉石哲也・小崎恭弘／ミネルヴァ書房／2,000円 社会福祉六法 平成20年版／ミネルヴァ書房／2,625円 エンサイクロペディア社会福祉学／岡本民夫編／中央法規出版／23,625円			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	社会福祉の理念と概念 社会福祉の理念や概念について、私たちの生活にひきつけて考える。
2 回	社会福祉の対象と主体 社会福祉における利用者とは誰を指すのか、利用者とサービス提供者との関係性がどのようなものなのかを考える。
3 回	社会福祉ニーズとは 社会福祉におけるニーズは様々な視点から捉えなければならないことを学ぶ。
4 回	社会福祉の法体系と行財政 社会福祉の法体系がどのようなものになっているのかをその歴史的変遷を交えて考えていく。さらに福祉サービスにおける行政組織や財政についても学ぶ。
5 回	社会福祉専門職の専門性と倫理 社会福祉に携わる専門職も持ち合わせていなければならない専門性とは何か、倫理とは何かを考えていく。
6 回	福祉政策およびサービスの構成要素① 福祉サービスを運用していく上で必要な視点について、「効率性と公平性」「必要と資源」をテーマに考えていく。
7 回	福祉政策およびサービスの構成要素② 福祉サービスを運用していく上で必要な視点について、「普遍主義と選別主義」「自立と依存」をテーマに考えていく。
8 回	福祉政策およびサービスの構成要素③ 福祉サービスを運用していく上で必要な視点について、「自己選択・自己決定」「ジェンダー」の視点から考えていく。
9 回	現代の福祉的課題と社会福祉① 子ども・家庭 子どもを取り巻く社会環境における諸問題を取り上げ、その問題に社会福祉がどのような関わりをするのかを考える。
10 回	現代の福祉的課題と社会福祉② 高齢者 高齢者を取り巻く社会環境における諸問題を取り上げ、その問題に社会福祉がどのような関わりをするのかを考える。
11 回	現代の福祉的課題と社会福祉③ 障がい者（身体・精神・知的） 障がい者を取り巻く社会環境における諸問題について特に身体障害、精神障害、知的障害を中心に取り上げ、その問題に社会福祉がどのような関わりをするのかを考える。
12 回	現代の福祉的課題と社会福祉④ 障がい者（発達障害） 障がい者を取り巻く社会環境における諸問題について特に発達障害を中心に取り上げ、その問題に社会福祉がどのような関わりをするのかを考える。
13 回	現代の福祉的課題と社会福祉⑤ 貧困、低所得 貧困・低所得者を取り巻く社会環境における諸問題を取り上げ、その問題に社会福祉がどのような関わりをするのかを考える。
14 回	第三者評価と苦情解決・権利擁護と人権 社会福祉の充実に向けた取り組みとして、第三者評価や苦情解決に向けた取り組みがどのように行われているのか、権利擁護の実践はどのようなものなのかを考える。
15 回	まとめ・今後の展望 社会福祉とは何かに立ち返り、社会福祉専門職が担うべき今後の課題にはどのようなものがあるのかを考える。
《定期試験》 (有) ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授 業 形 態	時 間 数 ( 単 位 )	担 当 教 員
相 談 援 助	2 年 ・ 前 期	演 習	15 時 間 ( 1 単 位 )	森 合 真 一
授 業 概 要	<p>相談援助の原理・原則などの概要や対人援助技術理論・類型について教授する。 また、事例を通じた演習（グループワーク）を行い、相談援助に関する理論と技術の関連性について理解を深める。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>本科目の目的は、保育実践に必要な相談援助の内容や具体的なスキル（技術）を学ぶとともに、対人援助職者としての基本的な姿勢を修得し、子どもの福祉を実践する現場において必要な「専門職者としての基本」を身につけることである。</p>			
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践に必要な相談援助の概要が理解できる。</li> <li>2. 相談援助の方法及び内容について理解できる。</li> <li>3. 人権の尊重、自立支援、秘密保持などの基本姿勢について理解できる。</li> <li>4. 相談援助に携わる専門職としての基本的能力が修得できる。</li> </ol>			
テ キ ス ト	『保育現場で役立つ相談援助・相談支援』 晃洋書房／西尾祐吾 監修、安田誠人・立花直樹 編、森合真一 他著／2,800円			
参 考 書	『相談援助論』 保育出版社／杉本敏夫・豊田志保 編、森合真一 他著／2,381円			
成 績 評 価 基 準	<p>定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は3回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。</p>			
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。			
そ の 他				

## 授業内容及び回数

1 回	相談援助の概要 相談援助の生成と発展、ソーシャルワークの理論・意義・機能、相談援助の専門性について
2 回	保育相談援助の方法・技術① 相談援助を行う前に…、相談援助の面接技術
3 回	相談援助の方法・技術② 相談援助の対象・プロセス、相談援助の方法と技術
4 回	相談援助の方法・技術③ 保育スーパービジョンの意義について
5 回	相談援助の具体的展開① 保育の計画・記録・評価、関係機関との連携について
6 回	相談援助の具体的展開② さまざまな専門職との連携、相談援助と社会資源
7 回	相談援助の意義 保護者に対する保育相談支援の意義について
8 回	まとめ 演習形式で相談援助を学ぶ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育相談支援	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	森合真一
授業概要	<p>保育士は単に保育サービスを子どもに提供するだけでなく、子育て家庭をも含めて子どもを支援する役割を担う。子育てに戸惑う親は多く、保育士は子育てをする親にとって身近な専門職である。子育て保育相談支援の意義と原則を学び、且つ、さまざまな保育相談支援の場面における実践的対応能力の向上を図る。</p>			
授業科目の目的	<p>保護者への支援を保育士の重要な役割として、保育者としての専門的価値の構築を図り、自己の保育観の確立することを目標とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育相談支援の意義と原則について説明できる。</li> <li>2. 保育相談支援の基本的スキルが修得できる。</li> <li>3. 保育相談支援の実際を学び、内容や方法が理解できる。</li> <li>4. 保育所などの児童福祉施設における保護者支援の実際について理解できる。</li> </ol>			
テキスト	<p>『保育者養成シリーズ 保育相談支援』 一藝社／林邦雄・谷田貝公昭 監修、高玉和子・和田上貴昭 編、森合真一 他著／2,200円</p>			
参考書	<p>ソーシャルワーク演習21 相談援助演習／福祉臨床シリーズ編集委員会／弘文堂</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	保育相談支援とは… 子どもが育つ環境と家族を取り巻く状況、保育相談支援の意義について
2 回	保育士の専門性を生かした支援 子どもと家庭の理解、発達を捉えた相談支援、家族を支える相談支援
3 回	保育相談支援の実際① 保育相談のポイント、保育相談支援の過程
4 回	保育相談支援の実際② 保育相談支援事例の分析および考察
5 回	子どもの最善の利益 子どもの最善の利益とは…、子どもの権利とは
6 回	保護者とのパートナーシップ 保護者とともに子どもを育てる…家庭との連携、ペアレンティングの教育
7 回	特別な対応を要する家庭への支援 特別な対応を要する家庭とは、相談援助の展開と考察
8 回	保護者のエンパワメント エンパワメントとは何か、エンパワメントの実践、ストレングスを引き出す
9 回	信頼関係を基本とした関わり 信頼される保育者となるために、情報の提供と共有、職業倫理について
10 回	社会資源の活用と関係機関 社会資源と関係機関とは？、保育所を中心とした地域ネットワーク、関係機関との連携・協働
11 回	要保護児童の家庭に対する支援① 保護者支援の在り方について
12 回	要保護児童の家庭に対する支援② 要保護児童家庭支援の展開、連携の在り方、事例検討
13 回	保護者に伝わる保育指導 何を伝えるのか？個別の方法、集団を通しての方法
14 回	保護者支援の方法と技術 個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について、面接技法について
15 回	保護者支援の内容 支援ニーズの発見、相談内容のアセスメント、マッピングの活用について
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
地域福祉論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	森合真一
授業概要	すべての人々が地域の一構成員として、社会生活を営んでいくことの意義について学ぶ。そして、福祉コミュニティを形成していく上での地域福祉活動の方法や社会資源の活用について習得する。			
授業科目の目的	地域福祉の理念や考え方について理解を深め、地域福祉の展開がどのような職種によって担われているのかを把握する。さらに保育、ソーシャルワークの視点から、地域福祉推進の方法について理解するとともに、地域福祉実践における問題点や課題について考える機会とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の理念や考え方について説明できる。</li> <li>2. 地域福祉の担い手について説明できる。</li> <li>3. 地域福祉推進の方法について説明できる。</li> <li>4. 地域福祉実践の問題点や課題について説明できる。</li> </ol>			
テキスト	『現代地域福祉論－地域と生活支援－』 保育出版社／高内正子 監修、高井由起子 編、森合真一 他著 ／2,500円			
参考書	自治型地域福祉の理論／右田紀久恵／ミネルヴァ書房／4,725円 社会福祉原論／岡村重夫／全国社会福祉協議会／1,325円			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	〈テーマ〉地域福祉の形成と基本理念・概念 地域福祉の形成における基本的理念・概念について学ぶ。
2 回	〈テーマ〉地域福祉活動の展開史 地域福祉活動とは何かを歴史の変遷から辿る。
3 回	〈テーマ〉地域福祉社会福祉従事者、社会福祉施設 地域福祉を形成していくうえで中心的な役割を果たす職種や福祉施設について学ぶ。
4 回	〈テーマ〉地域福祉における保育・ソーシャルワーク 地域福祉活動における保育の位置づけやソーシャルワークのあり方について学ぶ。
5 回	〈テーマ〉地域福祉を担うアクター：行政、社会福祉協議会 地域福祉を展開していく上でアクターの存在や役割を果たす行政機関や社会福祉協議会の概要や役割について学ぶ。
6 回	〈テーマ〉地域福祉における子ども家庭福祉、女性支援 地域福祉の展開における子ども家庭福祉関連サービスや女性支援関連サービスの概要について学ぶ。
7 回	〈テーマ〉地域福祉における高齢者福祉 地域福祉の展開における高齢者福祉サービスの概要について学ぶ。
8 回	〈テーマ〉地域福祉における障害児者サービス 地域福祉の展開における障害児者サービスの概要について学ぶ。
9 回	〈テーマ〉地域福祉における公的扶助 地域福祉の展開における公的扶助の概要について学ぶ。
10 回	〈テーマ〉地域福祉における保健医療サービス 地域福祉の展開における保健医療サービスの概要について学ぶ。
11 回	〈テーマ〉地域福祉の沿革① 欧米における地域福祉の歴史的展開について
12 回	〈テーマ〉地域福祉の沿革② 我が国における地域福祉の歴史的展開について
13 回	〈テーマ〉事例検討：わが町の福祉① グループごとにまとめた但馬地域における地域福祉の展開について
14 回	〈テーマ〉事例検討：わが町の福祉② グループごとにまとめた但馬地域における地域福祉の展開について
15 回	〈テーマ〉事例検討：わが町の福祉③ グループごとにまとめた但馬地域における地域福祉の展開について
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
障害児(者)福祉論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	森合真一
授業概要	障害児(者)が抱える生活課題とその背景・構造と対策を理解し、福祉従事者としての役割および援助の在り方について教授する。			
授業科目の目的	生活上の課題とその背景・構造と対策、福祉従事者としての役割および援助の在り方について理解する。			
到達目標	障害児(者)福祉をめぐる歴史、制度、理念などの基本的枠組みを理解したうえで障害児者福祉の現状を把握しつつ、障害児(者)およびその家族のニーズをどのように捉えて知識を生かしていくのかを自らの問題として理解することができることを目標とする。			
テキスト	『障害児者へのサポートガイド』 中央法規出版/新井英晴 編著/1,600円			
参考書	『差異と平等 障害とケア・有償と無償』 青土社/立岩真也・堀田義太郎 著/2,400円 『語りかける身体』 ゆみる出版/西村ゆみ 著/2,200円			
成績評価基準	定期試験を60%、平常点(講義中の態度・意欲など)を40%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席(遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う)すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。			
その他事項	本科目は、財団法人日本障害者スポーツ協会認定の「障害者スポーツ指導員(初級スポーツ指導員)」資格を取得予定の者は履修しなければならない科目である。			

## 授業内容及び回数

1 回	はじめに 障害者支援の基本原則
2 回	我が国の障害者福祉施策① 障害者施策の変遷・障害者の生活と実態について
3 回	我が国の障害者福祉施策② 障害者福祉施策とスポーツ、ボランティア論
4 回	視覚障害者への支援 視覚障害とは？、視覚障害者への支援方法
5 回	聴覚障害者への支援 聴覚障害とは？、聴覚障害者への支援方法、手話のルール
6 回	肢体不自由者への支援 肢体不自由とは？肢体不自由者への支援方法
7 回	知的障害者への支援① 知的障害とは？自閉症者への理解と支援方法
8 回	知的障害者への支援② 知的障害に関する映像ソフトの視聴
9 回	発達障害者への支援① 学習障害の理解と支援方法、ADHDの理解と支援方法
10 回	発達障害者への支援② 軽度発達障害に関する映像ソフトの視聴
11 回	内部障害者への支援 内部障害とは？内部障害者への支援方法
12 回	障害者の自立を支える支援の在り方① 「自立」とその支援について
13 回	障害者の自立を支える支援の在り方② 「共生社会」の時代、「違いを認め合う社会」を築くことについて
14 回	1リットルの涙① 難病とは？映像ソフト視聴
15 回	1リットルの涙② 脊髄小脳変性症とは？映像ソフト視聴
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
家庭支援論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	森合真一
授業概要	<p>家庭の意義と機能、今日の子育て家庭の特徴について理解し、子育て家庭が如何に課題を抱えやすいのかを考える。そのうえで、子育てを取り巻く社会的状況や子育て家庭に対する支援体制について理解し、ニーズに応じた支援機関との連携について教授する。</p>			
授業科目の目的	<p>今日における子育て家庭の特徴を理解し、子育てを取り巻く社会的状況や子育て家庭に対する支援体制およびニーズに応じた支援機関との連携について理解をする。</p>			
到達目標	<p>保育者に求められる子育て支援・保護者支援という役割や機能（保育相談支援と一部重なる部分がある）について理解し、それらに関する専門的な知識・技術・倫理を身につける。</p>			
テキスト	<p>新保育士養成講座 第10巻『家庭支援論 家庭支援と保育相談支援』 全国社会福祉協議会/1,900円</p>			
参考書	<p>『児童の福祉を支える 家庭支援論』 萌文書林/吉田真理 著/2,100円 『家族性分業論前哨』 生活書院/立岩真也 著/2,200円</p>			
成績評価基準	<p>定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	はじめに 保育における家庭支援論
2 回	家庭支援の意義と役割① 家庭の意義と機能について
3 回	家庭支援の意義と役割② 家庭支援の必要性、保育士が行う家庭支援の原理
4 回	家庭生活を取り巻く社会的状況① 現代の家族と人間関係
5 回	家庭生活を取り巻く社会的状況② 地域社会の変容と子育て支援、男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
6 回	子育て家庭の支援体制① 子育て家庭の福祉を図るための法体系と社会資源
7 回	子育て家庭の支援体制② 子育て支援施策、次世代育成支援施策の推進
8 回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連携① 子育て支援サービスの体系・内容
9 回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連携② 保育所入所児童の家庭への支援
10 回	多様な子育て家庭支援の展開と関係機関との連携③ 地域子育て家庭への支援、関係機関との連携
11 回	要保護児童およびその家族に対する支援 要保護児童とは？子どもと家族が抱える様々な課題を理解する
12 回	子育て支援の福祉を図るための措置 子育てに希望が持てる社会について、子育ての社会的支援
13 回	ウェルビーイングを重視する家庭支援 子どもの育ちを重視して子育て家庭を支援する
14 回	保育相談支援① 保育相談支援の意義について
15 回	保育相談支援② 保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
在宅保育	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>少子化が進むとともに、子育てが孤立してきている現在、子育て支援に向けて保育所保育とは異なる在宅保育の役割が重要視されてきている。そこで、ベビーシッターがカバーする領域の中の基本的な事項について学び、実践力を養う。</p>			
授業科目の目的	<p>少子化が進むとともに、子育てが孤立してきている現在、子育て支援に向けて保育所保育とは異なるベビーシッターの役割が重要視されてきている。そこで、在宅保育がカバーする広範な領域の中の基本的な事項について解説し、受講者の理解を深めるとともに、認定ベビーシッター資格の取得を目標とする。</p>			
到達目標	<p>①在宅保育がカバーする領域の理解 ②子育て支援の現状と孤立化する子育ての理解 ③ベビーシッターの役割と保育所保育の違い ④認定ベビーシッター資格の取得</p>			
テキスト				
参考書	<p>授業の中で適宜紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>授業の出席状況 20% 受講態度・姿勢 20% 期末試験 60% などにより総合的に評価する。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>こどもを取り巻く社会の変化、親の子育て意識の変化等こどもを産み育てていくという、ごく当たり前のことにも大きな変化が見られる昨今です。子育て支援としての「施設保育」に対して「在宅保育」を学び、様々な保育ニーズに対応できる付加価値をもった保育者としての学びを深めていきましょう。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	はじめに 児童家庭福祉における在宅保育
2 回	ベビーシッター概論
3 回	在宅保育における保育マインド
4 回	在宅での子育て支援
5 回	家族とのコミュニケーション・カウンセリングマインド
6 回	さまざまなベビーシッターサービス その1
7 回	さまざまなベビーシッターサービス その2
8 回	ベビーシッターの基本姿勢
9 回	ベビーシッターの仕事の実際
10 回	小児保健と子どもの発達
11 回	子どもの健康管理
12 回	在宅での事故の予防と対応
13 回	在宅における保育技術その① 乳児保育
14 回	在宅における保育技術その② 幼児保育
15 回	まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅰ	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	<p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習し、それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、合わせて用具や描画材について体験的に理解します。さらにイメージをもとにした製作体験と、素材をもとに、それらの特性を活かし工夫する製作を展開します。具体的には保育現場の教材も視野に入れ日用品や廃材を使った製作をしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。</p>			
到達目標	<p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。 ②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。 ③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。</p>			
テキスト	<p>こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学</p>			
参考書	<p>授業の中で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について提出課題（作品）と定期試験により理解度を評価します。</p> <p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できる。 ②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができる。 ③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できる。</p> <p>受講姿勢・出席率：10%、課題（作品等）の内容・提出状況：50%、定期試験40%などにより総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとセッティング	<p>造形表現は表現技術の巧拙より、素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験がこどもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現を地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p>			
その他事項	<p>テキスト、デザインセットは毎回持って来て下さい。その他の教材は短大で準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。</p>			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 授業の目的と研究の観点について学ぶ ～子どもの造形活動と製作体験の意義～（講義）
2 回	子どもの造形表現を鑑賞し理解する
3 回	形態と色彩の原理について学ぶ ～形・色・構成美の要素～（講義） 形態と色彩について学ぶ①（講義と製作）
4 回	形態と色彩について学ぶ②（製作）
5 回	形態と色彩について学ぶ③（製作）
6 回	形態と色彩について学ぶ④（製作）
7 回	形態と色彩について学ぶ⑤（製作）
8 回	造形表現を支える環境づくりについて学ぶ（講義） 子どもの発達と表現手法・材料用具について学ぶ（講義）
9 回	えがく表現と表現手法について学ぶ①（描画材料と表現研究）
10 回	えがく表現と表現手法について学ぶ②（描画材料と表現研究）
11 回	モノ（日用品・廃材等）と製作① 紙皿・紙コップによる製作
12 回	モノ（日用品・廃材等）と製作② 紙皿・紙コップによる製作
13 回	モノ（小麦粉粘土）と製作③
14 回	同上
15 回	まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅱ	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	造形遊びの手法を学習し、それらの手法体験をもとに形態、色彩、そしてテクスチャー（材質）についての美しさを体験的に学びます。さらに、壁面構成を踏まえたテーマをもとに色彩構成学習の実際をコラージュ（貼り絵）の手法で学び、合わせて材料や用具についてさらに、素材をもとにそれらの特性を活かし工夫する製作を展開します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。			
到達目標	<p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。</p>			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について提出課題（作品）と定期試験により理解度を評価します。</p> <p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できる。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができる。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できる。</p> <p>受講姿勢・出席率：10%、課題（作品等）の内容・提出状況：50%、定期試験40%などにより総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとセッティング	<p>造形表現は表現技術の巧拙より、素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常にこどもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p>			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来て下さい。その他の教材は短大で準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション（授業の目的と研究の観点） 造形あそびについて
2 回	造形遊びの手法と表現について学ぶ（手法・用具・材料研究）《版画遊び①》
3 回	（手法・用具・材料研究）《版画遊び②》
4 回	（手法・用具・材料研究）《版画遊び③》
5 回	モノ（素材）と造形的遊びについて① …（日用品・廃材等）を使った製作
6 回	壁面装飾を想定したコラージュ（貼り絵）による色彩構成①
7 回	壁面装飾を想定したコラージュ（貼り絵）による色彩構成②
8 回	壁面装飾を想定したコラージュ（貼り絵）による色彩構成③ まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅲ	2年・前期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、紙による工作に主眼をおき、基礎知識をもとにして材料や用具の取り扱いとつくる活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。また、保育における教材やそれらを展開、援助するための知識や技能を習得します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。			
到達目標	<p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。</p>			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について提出課題（作品）と定期試験により理解度を評価します。</p> <p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できる。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができる。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できる。</p> <p>受講姿勢・出席率：10%、課題（作品等）の内容・提出状況：50%、定期試験40%などにより総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとセッティング	<p>造形表現は表現技術の巧拙より、素材の特性を理解し、感じ、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常にこどもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p>			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来て下さい。その他の教材は短大で準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション（授業内容、学習の心構え） 子どもの製作活動と発達を理解する。（講義）
2 回	材料と子どもの製作活動を考える。（講義） 紙による製作について考える。～子どもの造形と紙の種類・特質～（講義）
3 回	紙による製作Ⅰ－①
4 回	紙による製作Ⅰ－②
5 回	紙による製作Ⅱ－①
6 回	紙による製作Ⅱ－②
7 回	紙による製作Ⅱ－③
8 回	日用品・廃材による製作Ⅰ－① <段ボール紙>（講義と製作）
9 回	日用品・廃材による製作Ⅰ－② <段ボール紙>（製作）
10 回	日用品・廃材による教材研究Ⅰ－① <紙コップ・紙皿等>（講義と製作）
11 回	日用品・廃材による教材研究Ⅰ－② <紙コップ・紙皿等>（講義と製作）
12 回	日用品・廃材による教材研究Ⅱ－①（講義と製作）
13 回	日用品・廃材による教材研究Ⅱ－②（講義と製作）
14 回	日用品・廃材による教材研究Ⅱ－③（講義と製作）
15 回	まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形Ⅳ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	保育内容を理解し、粘土による工作に主眼をおき基礎知識をもとにして、材料や用具の取り扱いとつくる活動等を通して造形感覚の基礎陶冶を図ります。後半は、つくる活動における教材やそれらを展開、援助するための知識や技能を習得します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して、造形感覚の基礎陶冶を図ります。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技術の習得を目的とします。			
到達目標	<p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標にします。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができることを目標にします。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標にします。</p>			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について提出課題（作品）と定期試験により理解度を評価します。</p> <p>①保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できる。</p> <p>②形や色、材質等の造形に関する基礎知識をもとに、えがくための材料や用具の取り扱いと製作活動を通して造形表現ができる。</p> <p>③子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できる。</p> <p>受講姿勢・出席率：10%、課題（作品等）の内容・提出状況：50%、定期試験40%などにより総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>造形表現は表現技術の巧拙より、素材の特性を理解し、色や形を工夫をする積極的な製作姿勢が大切です。この製作体験が子どもたちの表現の理解と共感する感性に繋がりますので、常に子どもの姿を浮かべながら思い切り元気よく製作してください。</p> <p>また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。</p>			
その他事項	テキスト、デザインセットは毎回持って来て下さい。その他の教材は短大で準備します。 絵具等を使用する授業はエプロン等を準備してください。			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 土、砂、粘土等の素材と子どもの造形活動（遊び）について考える。（講義）①
2 回	土、砂、粘土等の素材と子どもの造形活動（遊び）について考える。（講義）② 粘土による製作研究 粘土の取り扱い方・技法・製作手順について
3 回	粘土による製作① <成形>
4 回	粘土による製作② <成形>
5 回	粘土による製作③ <成形>
6 回	粘土による製作④ <成形（仕上げ）>
7 回	粘土による製作⑤ <彩色>
8 回	粘土による製作⑥ <彩色・完成・鑑賞>
9 回	自然素材（木、葉等）による製作 ～子どもの造形と自然素材について～（講義と製作）
10 回	自然素材による製作①
11 回	自然素材による製作②
12 回	遊具の教材研究と製作①（講義と製作）
13 回	遊具の教材研究と製作②
14 回	遊具の教材研究と製作③
15 回	子どもの造形表現活動についてのまとめと今後の課題（講義）
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅰ	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	森田良典
授業概要	<p>こどもの運動遊びの必要性を発育発達的面から理解しながら、安全に楽しく運動遊びを展開するための指導方法と援助の仕方を学びます。</p> <p>グループごとに色々な運動遊びを考案し、発表をとおして指導法を学ぶとともに保育士として必要な運動遊びを習得します。</p>			
授業科目の目的	<p>こどもの運動遊びは、第一に楽しくなければなりません。訓練的にならずこどもたちが能動的に取り組み、多くの体験できるような空間を設定することが大切です。この講義で多くの運動遊びの指導法を具体的に習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに指導でき、こどもの発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることができます。</p>			
到達目標	<p>こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び）などを考え、学生を園児に見立て、グループで考案した運動遊びが指導できます。</p> <p>遊具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導ができます。</p>			
テキスト	こどもと体育Ⅰ（著者：長谷川定宣 発行者：近畿大学豊岡短期大学通信教育部）			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>成績評価の算出及び割合 意欲・関心・態度20%、課題レポート20%、実技・定期試験60%</p> <p>①意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていますか。</p> <p>②課題レポートでは 課題について丁寧に記述でき、内容とともに自分の考えを述べられているか。</p> <p>③実技・定期試験では、技能の向上が見られ、指導者として運動遊びの知識を習得・理解できているかを評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>この演習は参加してこそ授業を受けた意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしよう。予復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し「こどもと体育」の課題を探ろう。課題レポートは図書館等を活用し完成させてください。</p>			
その他事項	演習のできる服装で参加し、授業を通して指導者（保育士）の心構えを身につけよう。			

## 授業内容及び回数

1 回	ガイダンス 幼児の運動あそびの必要性について考え、その環境作りや言葉かけを学ぶ
2 回	こどもの発育と遊びについて考える 3歳から5歳児の遊びを考えよう
3 回	基礎的運動を考える① 「歩・走・跳・押・引・転・登・投」を年代の個人、組、グループで動きや遊びを考えよう
4 回	基礎的運動を考える② 発育発達にあったグループでの遊びを考え・発表・体験しよう。
5 回	基礎的運動を考える③ 発育発達にあった競争遊びを考え・発表・体験しよう。
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える ボール・縄・フープ・竹馬など使って発育発達にあった運動あそびを考え・発表・体験しよう。
7 回	身近な素材を使った遊びを考える① 新聞紙を使って遊ぼう
8 回	身近な素材を使った遊びを考える② 新聞紙を使った遊びを発表しよう。
9 回	こどもの体操を考える① リズム体操・こどもの体操・親子体操を創作しよう
10 回	こどもの体操を考える② リズム体操・こどもの体操・親子体操を発表しよう
11 回	器具を使って遊びを考える① 鉄棒①、マット①の基本を学ぼう
12 回	器具を使って遊びを考える② 鉄棒②、マット②、跳び箱①の基本を学ぼう
13 回	器具を使って遊びを考える③ 鉄棒③、マット③、跳び箱②の基本を学ぼう
14 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ① 固定遊具の遊び方と安全点検を理解しよう。
15 回	固定遊具の遊びと安全点検を学ぶ② 附属幼稚園の固定遊具の安全点検を行う
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと体育Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	森田良典
授業概要	「こどもと体育Ⅰ」での学習をもとに、野外での運動あそびを考え発表・体験する。固定遊具では、鉄棒遊びや「逆上がり」について研究する。また、鬼ごっこ遊びについて研究を深めるなど、こどもたちが安全に楽しく運動遊びを展開するための指導法と援助の仕方を学びます。			
授業科目の目的	こどもの運動遊びは、異年齢で運動能力や理解度に差がある中で展開されていき、そのうえ皆が楽しくなければなりません。決まりやルールも、小さい子には大目に見るなどそのグループに集まったこどもたちの能力にあったものを年長者が決めるなどはスポーツと違うところです。保育士はこどもたちに運動遊びを指導する際、訓練的にならず、こどもたちが能動的に取り組み、多くの体験がきるような空間を設定したり、多くの運動遊びの指導法を習得し、年齢や環境に応じてこどもたちに提供できなければなりません。この講義で発育発達に即した運動遊びの指導法を身につけることができます。			
到達目標	こどもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動あそび（野外でのグループ・集団遊び、固定遊具（鉄棒）遊び、大型遊具を使った遊び、鬼ごっこ遊び）が考えられ指導できるようになります。運動遊びの指導法や必要な知識が習得できます。			
テキスト	こどもと体育（著者：長谷川定宣 発行者：近畿大学豊岡短期大学通信教育部）			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>成績評価の算出及び割合  意欲・関心・態度(出席も含む) 20%、課題レポート20%、実技・定期試験60%</p> <p>①意欲・関心・態度においては、「指示待ちでなく」授業の準備・片付けなど、自ら取り組む姿勢やグループでのリーダーや周りへの配慮ができていないか。  ②課題レポート では課題について丁寧に記述でき、自分の考えを述べられているか。  ③実技・定期試験では、技能の向上が見られ、知識が習得でき理解ができていないかを評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	演習（実践）は参加してこそ授業を受けた意味があります。見学・欠席が無いように日頃の健康管理をしよう。予復習として、授業外で家族や近隣の幼児と接し「こどもと体育」の課題を探り、課題レポートは本学の図書館等を活用し完成させてください。			
その他事項	実践は運動のできる服装・シューズを準備し、講義を通して指導者（保育士）の心構えを身につけよう。			

## 授業内容及び回数

1 回	自然での幼児の遊びを考える 幼児のあそびへのワクワク感に思いをはせ、成長過程での運動あそびの大切さを考える。「園児を野原に連れて行きました。あなたはどのような遊びを指導できますか。」
2 回	野外での幼児の遊びを考える① グループでの遊びを考え発表し体験しよう。
3 回	野外での幼児の遊びを考える② 集団での遊びを考え発表し体験しよう。
4 回	固定遊具・鉄棒での幼児の遊びを考える① 逆上がりを研究しよう（実践とDVDで研究）
5 回	固定遊具・鉄棒での幼児の遊びを考える② 逆上がりを研究しよう（研究と実践）
6 回	操作性遊具を使った遊びを考える① ボール・縄・フープ・竹馬を使って遊びを考え体験し発表しよう。
7 回	操作性遊具を使った遊びを考える② ボール・縄・フープ・竹馬を使って遊びを考え体験し発表しよう。
8 回	大型遊具を使った遊びを考える① マット・跳び箱・平均台を使って遊びを考え体験し発表しよう。
9 回	大型遊具を使った遊びを考える② マット・跳び箱・平均台を使って遊びを考え体験し発表しよう。 サーキット遊びを考える① マット・跳び箱・平均台を使ってサーキット運動あそびを考える。
10 回	サーキット遊びを考える② 絵本の物語をサーキット遊びへ展開させる。
11 回	鬼ごっこ遊びを研究する① これまで体験したことのない鬼ごっこ遊びを研究する。
12 回	鬼ごっこ遊びを研究する② これまでに体験したことのない鬼ごっこ遊びの研究を発表し体験する。
13 回	伝承遊びを研究する① 書物や高齢者から昔の遊びを知る。
14 回	伝承遊びを研究する② 書物や高齢者から昔の遊びを学ぶ
15 回	伝承遊びを研究する③ 伝承遊びを発表し・体験する。
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅰ	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	谷岡まさ子
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもの発育や身体的特徴を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。</p> <p>また、こどもの事故や安全対策について理解し基本対応について学習する。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。</li> <li>3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解する。</li> <li>4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。</li> <li>5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。</li> <li>2. こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解できる。</li> <li>3. こどもの心身の疾病等と適切な対応について理解できる。</li> <li>4. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解できる。</li> <li>5. 救急時の対応や事故防止、安全管理について理解できる。</li> </ol>			
テキスト	こどもの保健Ⅰ 新川加奈子 近畿大学豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介する。			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度、課題提出 30%</li> <li>2. 定期試験 70%</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	<p>医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかり理解してほしい。</p> <p>常に子どもの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。</p> <p>自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。</p> <p>テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	小児保健の基本
2 回	小児の健康指標と水準
3 回	小児の発育(1) 発育と発達
4 回	小児の発育(2) 身体発育の問題点
5 回	小児の生理機能(1) 中枢神経 水分代謝
6 回	小児の生理機能(2) 免疫機能 感覚機能
7 回	小児の運動機能
8 回	小児の精神機能
9 回	先天異常
10 回	家庭看護
11 回	予防接種(1) 予防接種とは
12 回	予防接種(2) 予防接種の種類と受け方
13 回	事故と安全対策(1) こどもの事故の特徴
14 回	事故と安全対策(2) 救急処置の基本対応
15 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領における小児の健康
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅱ	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	谷岡まさ子
授業概要	<p>こどもの成長過程を安全に、より健康的に手助けするために、こどもに多い病気を理解し、こどもへの接し方について総合的に学習する。</p> <p>また、こどものおかれている制度や環境を理解し、保護者支援についても学習する。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価を行う。</li> <li>2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。</li> <li>3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。</li> <li>4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こどもの健康および安全に係る保健活動の計画及び評価ができる。</li> <li>2. こどもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境が理解できる。</li> <li>3. こどもの疾病やその予防及び適切な対応について具体的に理解できる。</li> <li>4. こどもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解できる。</li> </ol>			
テキスト	こどもの保健Ⅱ 新川加奈子 近畿大学豊岡短期大学			
参考書	適宜紹介する。			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度、課題提出 30%</li> <li>2. 定期試験 70%</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	<p>医学用語や表現が難しい面がありますが、健康な子どもの発達や成長過程をしっかり理解してほしい。</p> <p>常に子どもの姿を浮かべながら意欲的に授業に取り組んでほしい。</p> <p>自分のこれからの育児や仕事に役立てる方向で取り組んでほしい。</p> <p>テキストに沿って授業をすすめるため、必ずテキストを持参してほしい。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	日常に見られる症状(1) 子どもの健康状態の観察 下痢
2 回	日常に見られる症状(2) 頭痛
3 回	小児感染症(1) 感染症の基礎知識
4 回	小児感染症(4) 発疹性疾患
5 回	小児感染症(5) 食中毒
6 回	小児感染症(6) 呼吸器疾患 保育所における感染症対策
7 回	小児感染症(7) 血液・リンパ節疾患
8 回	小児感染症(9) その他 中耳炎
9 回	アレルギー疾患
10 回	集団の保健(1) 保健活動の基本指針
11 回	集団の保健(3) 施設の特徴と保健
12 回	母子保健行政(1) 母子保健行政の組織
13 回	母子保健行政(2) 母子保健サービス
14 回	こどもの保健と生活(1) 食生活とこども
15 回	こどもの保健と生活(2) 住環境とこども
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの保健Ⅲ	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	原田 玻璃美
授業概要	<p>講義と実技演習で実践に役立つ技術を習得できるように進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児の特徴と観察点</li> <li>2. 身体測定技術と生活技術</li> <li>3. 異形の早期発見法</li> <li>4. 応急手当法と救急処置</li> <li>5. 事故防止と安全対策</li> </ol>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育を行う上で子どもの成長、発達状態、健康状態を正しく把握し、健康を守り、保育・養護する責任がある。また、病気や事故の予防や処置をたたく行うなど、実践できる応用能力と技術を習熟することを目的とする。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康上の問題となる情報を把握できる</li> <li>2. 把握した情報の理解ができる</li> <li>3. 情報がどのような影響を及ぼしているのか理解できる</li> <li>4. 安全を脅かすリスクが把握できる</li> <li>5. 応急処置と急変時の対応ができる</li> </ol>			
テキスト	後日指示します 随時資料を配布します			
参考書	授業の中で紹介します			
成績評価基準	出席状況及び課題レポートとテストにて評価します。 出席状況：30% 課題レポート：20% テスト：50%			
受講の心構えとメッセージ	保育者として重要な科目です。主体的参加を期待します			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<対象の理解> 成長と発達・機能的発達と評価・小児期の健康の特性
2 回	<観察技術> 身体計測と発育の評価：体重・身長・胸囲など
3 回	<乳幼児の生理機能の測定と評価> バイタルサインの測定と評価・視覚・聴覚
4 回	<養護技術> 乳児の抱き方・寝かせ方・食事の与え方
5 回	<養護技術> 排泄・歯の健康・身体の清潔・衣服・
6 回	<小児の看護> 症状に対する看護：不機嫌・啼泣・発熱・咳
7 回	<小児の看護> 症状に対する看護：下痢・嘔吐・脱水・腹痛・便秘
8 回	<小児の看護> 発疹・呼吸困難・けいれん・排尿痛
9 回	<病気への対応> かぜ・インフルエンザ・発疹・風疹・食中毒
10 回	<病気への対応> 気管支喘息・アトピー性皮膚炎 薬の与え方
11 回	<事故防止と安全教育> 発達段階と事故の種類・事故を予防するために
12 回	<応急処置> 意識障害・止血法・傷の応急処置・熱傷・鼻血・熱中症
13 回	<応急処置> 鼻血・熱中症・異物の誤飲・目、耳、鼻の異物
14 回	<救急法> 手当の基本・一次救命処置
15 回	<救急法> 包帯の使い方・三角布の使い方
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育原理	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	栗岡 あけみ
授業概要	保育原理では、子どもをめぐる環境をふまえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学びます。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針における保育の基本について理解し、保育の内容と方法の基本を学びます。さらに、保育の思想と歴史の変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について考察していきます。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多角的・総合的な視点から、「子ども」と「保育」に対する考え方を学ぶことを目的とします。</li> <li>2. 保育に関する幅広い視野を身に付け、子どもの発達にとってよりよい保育のあり方を考えながら、保育者としての使命感を養うことを目的とします。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義について理解します</li> <li>2. 保育所保育指針の保育の基本について理解します</li> <li>3. 保育の内容と方法について理解します</li> <li>4. 保育所の歴史的発展過程を理解します</li> <li>5. 保育の現状と課題について考察します</li> </ol>			
テキスト	保育所保育指針、保育所保育指針解説書 フレーベル館			
参考書	保育用語辞典 ミネルヴァ書房			
成績評価基準	上記の到達目標について、期末試験により理解度を評価します。 出席率・受講姿勢20%、課題・レポート等提出物20%、定期試験60%で総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	この講義は、こども学科の基幹科目であります。将来、保育分野に進む人の資格・免許の必修科目です。将来、自分が親になったとき、自分自身の子育てのために学びたい人、福祉関係の分野に進む人にも役立ちます。保育者の専門性は、近年、ますます高度なレベルが求められていますので、心して受講してください。特に、考え理解することと基礎知識の獲得(暗記)の両方が求められます。毎回、プリント・資料を配布して進めますので、ファイルして保存して行ってください。適宜、ビデオ教材を活用し、ミニ・レポート等を課します。			
その他事項	テキストは、毎回持参してください。保育所保育指針解説書並びに配布したプリントに関する予習・復習が求められます。			

## 授業内容及び回数

1 回	<保育の意義(1)> 「保育」とは何かー保育の理念と概念について学ぶ(目標1)
2 回	<保育の意義(2)> 子どもの最善の利益を考慮した保育について学ぶ(目標1)
3 回	<保育の意義(3)> 保護者との協働と保育の場について学ぶ(目標1)
4 回	<保育の意義(4)> 保育の社会的意義について学ぶ(目標1)
5 回	<保育の意義(5)> 保育所保育と家庭的保育について理解する(目標1)
6 回	<保育所保育指針における保育の基本(1)> 「保育の内容」の構造と養護と教育の一体性について学ぶ(目標2)
7 回	<保育所保育指針における保育の基本(2)> 環境を通じた保育と発達過程に応じた保育について学ぶ(目標2)
8 回	<保育所保育指針における保育の基本(3)> 保護者との連携と保育士に必要な専門性について学ぶ(目標2)
9 回	<保育の目標と方法(1)> 望ましい未来をつくりだす力を育む保育について学ぶ(目標3)
10 回	<保育の目標と方法(2)> 生活と遊びを通して総合的に行う保育について学ぶ(目標3)
11 回	<保育の目標と方法(3)> 保育における個と集団への配慮について学ぶ(目標3)
12 回	<保育思想と歴史の変遷(1)> 西洋の保育思想と歴史の変遷について学ぶ(目標4)
13 回	<保育思想と歴史の変遷(2)> わが国の保育の思想と歴史の変遷について学ぶ(目標4)
14 回	<保育の現状と課題(1)> 諸外国の保育と現状と課題について学ぶ(目標5)
15 回	<保育の現状と課題(2)> 日本の保育の現状と課題について学ぶ(目標5)
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	橋本好広
授業概要	社会的養護について理解を深め、児童養護施設の動向および課題に触れ、児童福祉施設における養護理論や実践などについて教授する。			
授業科目の目的	我が国の児童福祉施設および里親制度について理解し、児童福祉施設を基本とした養護の基本的知識の習得をはかる。そのうえで施設保育士としての在り方を理解する。			
到達目標	現代社会においては何らかの事情によって不適切な養育が行われている現状があり、そのような状況におかれている子どもたちには社会的養護が必要となる。したがって、社会的養護を中心とした基本的知識の習得を図り、施設保育士としての在り方を理解することを目標とする。			
テキスト	やさしくわかる社会的養護1 『子どもの養育・支援の原理』 / 明石書店 / 2,400円			
参考書	『図表でわかる子ども虐待』 明石書店 / 才村 純 著 / 2,500円 『子ども虐待ソーシャルワーク論』 有斐閣 / 才村 純 著 / 3,300円			
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は6回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 学生の主体的参加を望む。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	社会的養護の理念
2 回	社会的養護体系の現状
3 回	社会的養護の課題
4 回	社会的養護の新たな理念
5 回	子どもとは何か
6 回	子どもを取り巻く状況・家庭の状況
7 回	子どもの育ち・子育てのニーズ
8 回	子どもの権利
9 回	社会的養護における権利擁護の仕組み
10 回	社会的養護の歴史的展開①
11 回	社会的養護の歴史的展開②
12 回	社会養護を担う里親と施設
13 回	社会的養護の隣接領域
14 回	養育・自立支援の基本的あり方
15 回	養育・自立支援のための方法
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
精神保健	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>精神保健では、保育者がその専門活動に従事する中で関わりを持つ他機関との連携や協働を念頭に置き、基礎的な知識について学び取っていきます。</p> <p>具体的には、乳幼児期によく見受けられるこころの問題について解説を行います。また、基礎的な知識の獲得と定着がしっかりとできているか確認しながら授業を展開したいと思います。</p> <p>さらに、精神保健が取り扱う領域や内容について説明しながら、適切なアプローチ方法、周囲への対応など実践についても学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>精神保健は、こころの健康の保持・増進を目指すものであり、精神医学、身体医学、心理学、社会福祉学といった多岐にわたる領域から成り立つ科目となります。また、精神保健の実践は、単なる個人的な経験や感覚的な事柄に依拠して理解されるものではなく、系統的かつ体系的な知識の獲得が不可欠なものとなります。</p> <p>そこで、精神保健では、精神疾患をはじめとするこころの健康問題について幅広く学ぶ機会を設け、どのようなアプローチの方法があり、どのような周囲への対応があるのかについて理解できるようになることを目的とします。</p>			
到達目標	<p>①子どもの心身の健康増進を図る精神保健活動の意義を理解することができる。</p> <p>②子どもの精神機能の発達と保健について理解し説明することができる。</p> <p>③子どもの精神疾患とその予防・対応について理解し説明することができる。</p> <p>④養育者への援助と対応について理解することができる。</p>			
テキスト	精神保健／改訂・保育士養成講座編纂委員会／全国社会福祉協議会／1,890円			
参考書				
成績評価基準	授業態度10%, レポート40%, 定期試験50%			
受講の心構えとセッション	<p>こころの健康に関する問題は、特別なことではなく、程度の差はあっても誰もが抱える可能性があるものです。また、自分は問題がなくても周囲の人がこころの健康を崩すこともあります。</p> <p>現代社会の中で保育の専門家として活動する際、精神保健の活動は重要な事柄になります。ぜひとも、その活動に真摯な姿勢で向き合いながら理解を深化させ、こどもの精神保健だけでなく、養育者や周囲の精神保健についても幅広く学びを深めていけると望ましいと思います。</p> <p>予習・復習に取り組む姿勢を徹底し、さらに、自分自身のこころの健康問題とどのように向き合っていくのか考えていきましょう。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション・精神保健とは①> 精神保健のねらい
2 回	<精神保健とは②> こころの健康とはなにか
3 回	<精神保健の基礎①> 生理学的背景（脳・神経系の仕組みと機能）
4 回	<精神保健の基礎②> 心理学的背景（発達理論）
5 回	<発達と精神保健①> 胎児期・乳児期の発達と精神保健
6 回	<発達と精神保健②> 幼児期・児童期の発達と精神保健
7 回	<こどものこころの問題①> 習癖障害
8 回	<こどものこころの問題②> こどものうつ病・摂食障害（おとなと同じところと違うところ）
9 回	<こどものこころの問題③> 強迫性障害・睡眠障害
10 回	<こどものこころの問題④> 分離不安・児童虐待
11 回	<精神保健活動①> 母子の精神保健：妊娠・出産・育児をめぐる諸問題
12 回	<精神保健活動②> 子育て支援とこころの健康づくり
13 回	<精神保健活動③> 地域精神保健活動と保育：様々な診断方法、検診
14 回	<精神保健活動③> 乳幼児精神医学
15 回	<精神保健活動④> 精神保健活動における保育者の役割
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの食と栄養	2年・通年	講義	60時間 (2単位)	岡崎典子
授業概要	現場の事例や演習を交え、自らが自分の食生活も含めて食に対するあり方・態度を考えることのできる授業とする。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎栄養学をもとに、小児における栄養の特性と重要性を、現代社会における問題も含めて、理解する。</li> <li>2. 食育の重要性を理解し、食育の実践力のある保育士を養成する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 五大栄養素の栄養生理について理解すること。</li> <li>2. 小児にとって適切な食事の献立内容を理解し作成すること。</li> <li>3. 小児の栄養生理について理解すること。</li> <li>4. 母乳の意義について理解すること。</li> <li>5. 離乳の意義・実際について理解し料理作業に活かせること。</li> <li>6. 幼児期の栄養の意義について理解し、献立作成調理の実践に活かせること。</li> <li>7. 学童期・思春期の栄養意義について理解すること。</li> <li>8. 集団給食と献立について理解すること。</li> <li>9. 小児の特徴的な疾患の食の対応について理解すること。</li> <li>10. 障害を持つ子供の特徴と食の対応について理解すること。</li> <li>11. 食育の重要性を理解し積極的に進められる力をつけること。</li> </ol>			
テキスト	こどもの食と栄養演習／小川雄二編著 ヘルシーデーター食品成分表/教育図書/1,260円			
参考書				
成績評価基準	小論文・レポート作成・定期試験・授業態度を総合的に判定する。定期試験55%、提出物15%提出物15%、出席率15%			
受講の心構えとメッセージ	小児における食べ方をめぐる問題は、その子の一生だけでなく次世代、その次の世代へ続く重要な問題です。また、食育基本法も施工され、社会的にも食に対する姿勢が大きく問われています。まず、自己の食生活を見つめ、指導の実践につなげられる力をしっかりつけられるよう真剣に学んでください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	〈栄養素・生理・代謝Ⅰ〉 炭水化物の栄養生理代謝	16 回	〈学童・思春期の栄養〉 学童期と思春期の生理と食生活の実際
2 回	〈栄養素・生理・代謝Ⅱ〉 脂質・タンパク質の栄養生理代謝	17 回	〈演習 幼児期の食事〉 幼児のお弁当とおやつ調理実習
3 回	〈栄養素・生理・代謝Ⅲ〉 水とミネラルの働き・ビタミンの働き	18 回	〈演習 幼児期の食事〉 幼児のお弁当とおやつ調理実習
4 回	〈栄養摂取基準〉 栄養摂取基準を理解し使えるようになる	19 回	〈給食 理論〉 給食の目的・あり方
5 回	〈食品と食生活の基礎知識〉 食品の特性を理解するとともに食生活の基礎的な考え方を深める	20 回	〈演習 集団給食の献立〉 小児集団給食献立の作成
6 回	〈献立作成〉 献立作成演習	21 回	〈演習 集団給食の献立〉 小児集団給食献立の作成
7 回	〈献立作成〉 献立作成演習	22 回	〈障害をもつこどもの食事〉 障害の特徴と食生活の具体的対応
8 回	〈小児の栄養〉 小児をめぐる食生活の基礎知識と現代社会での問題点	23 回	〈小児の健康をめぐる問題〉 アレルギー・感染症などの食事対応と考え方
9 回	〈小児の栄養生理〉 食欲の仕組み	24 回	〈小児の健康をめぐる問題〉 若年者に多い生活習慣病の原因と食事対応
10 回	〈小児の栄養生理〉 味覚の発達と嗜好の形成	25 回	〈食育の基本と内容Ⅰ〉 食育基本法・保育所食事指針等
11 回	〈授乳期の栄養〉 母乳栄養の意義と実際	26 回	〈食育の基本と内容Ⅱ〉 食育における養護と教育・保護者支援
12 回	〈離乳期の栄養〉 離乳の意義と離乳食の実際	27 回	〈食育の実際〉 食育計画と評価
13 回	〈幼児期の栄養〉 幼児期の生理と食生活の実際	28 回	〈食育演習〉 給食だよりなど食育媒体の作成
14 回	〈演習 離乳期の食事〉 調乳および離乳食の調理実習	29 回	〈食育のための環境〉 地産地消の意義と実践・栽培の実践
15 回	〈演習 離乳期の食事〉 調乳および離乳食の調理実習	30 回	〈食をめぐる問題とこれからの課題〉 地球環境・食料自給など
《定期試験》 (有) ・ 無		《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもの人権	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	東 裕
授業概要	<p>子どもの人権に関する法規定を概観し、国内法と国際法で子どもの人権がどのように保障されているかを考察する。その際、まず「人権とは何か」について、憲法学の立場から解説し、「人権」という用語を法律学用語として厳格に使用することを明確にする。その上で、憲法の人権論の中で子ども（未成年者）の人権の位置づけを明らかにし、憲法・法律・国際法で保障される子どもの人権について整理していく。</p>			
授業科目の目的	<p>①人権論における子どもの権利の位置づけを明らかにすること。          ②法で保護される子どもの権利の種類と限界を明らかにすること。          ③子どもの権利をめぐる法制度の問題点を抽出すること。</p>			
到達目標	<p>①人権とは何かを説明できるようになる。          ②法で保護される子どもの権利について説明できる。          ③子どもの権利について法制度上どのような問題があるか説明できる。          ④子どもに限らず人権保障一般の大切さを認識できる。</p>			
テキスト	授業ごとにレジュメ・資料を配付する。			
参考書	授業の中で紹介する。			
成績評価基準	定期試験90%、平常点10%			
受講の心構えとメッセージ	<p>法律科目のためやや難解な用語もあるかもしれませんが、できるだけわかりやすく説明するように心がけますので、受講者の皆さんも分かるようとする努力をして下さい。受講者の理解度をみるため、授業中に皆さんに問いかけます。黙ったままやり過ぎしたり、分かりませんで済みますのではなく、なんとか答えるように努力して下さい。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<p>&lt;人権の概念&gt; ①人権とは何か ②日本国憲法における人権の意味 ③近代自然法思想における人権</p>
2 回	<p>&lt;人権の分類&gt; ①イエリネックによる分類 ②日本国憲法における人権の分類 ③人権の分類の相対性</p>
3 回	<p>&lt;人権の享有主体&gt; ①国民 ②天皇・皇族 ③外国人 ④法人 ⑤未成年者</p>
4 回	<p>&lt;憲法と未成年者&gt; ①成人と同等の保障を受けない権利 ②成人と同等の保障を受ける権利 ③未成年者ゆえに保障される権利</p>
5 回	<p>&lt;自己決定権と未成年者&gt; ①子どもに自己決定権は認められるか</p>
6 回	<p>&lt;民法と未成年者&gt; ①行為能力の制限 ②所有権の制限 ③婚姻年齢の制限</p>
7 回	<p>&lt;刑法と未成年者&gt; ①責任年齢(刑法41条) ②少年法</p>
8 回	<p>&lt;法律と子どもの権利(1)&gt; ①教育基本法 ②学校教育法</p>
9 回	<p>&lt;法律と子どもの権利(2)&gt; ①児童福祉法 ②労働基準法</p>
10 回	<p>&lt;法律と子どもの権利(3)&gt; ①児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律</p>
11 回	<p>&lt;国際法と未成年者(1)&gt; ①「世界人権宣言」と子どもの権利 ②「経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約」と子どもの権利</p>
12 回	<p>&lt;国際法と未成年者(2)&gt; ①「市民的及び政治的権利に関する国際規約」と子どもの権利 ②児童の権利に関する条約</p>
13 回	<p>&lt;児童の権利に関する条約(1)&gt; ①前文 ②第1条～第11条</p>
14 回	<p>&lt;児童の権利に関する条約(2)&gt; ①第12条～第16条 ②第17条～第22条</p>
15 回	<p>&lt;児童の権利に関する条約(3)&gt; ①第23条～第27条 ②第29条～第41条</p>
<p>《定期試験》 (有) ・ 無</p>	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
障害児保育	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	橋本好広
授業概要	「障がい児保育とは何か」を考え、障がい（発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病虚弱、重症心身障がいなど）についての概念や保育の仕方、親との関わり方、さらには障がい児保育の制度的変遷について学習する。また、実際の保育場面で配慮しなければならないことを学ぶ。			
授業科目の目的	「障がい児保育とは何か」を考え、障がい（発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病虚弱、重症心身障がいなど）についての概念や保育の仕方、親との関わり方、さらには障がい児保育の制度的変遷について学習する。また、実際の保育場面で配慮しなければならないことを学ぶ。			
到達目標	子どもをとりまく障がい（発達障がい、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病虚弱）の特徴を学び、様々な障がいに対応できる保育技術を習得する。また、障がい児保育の歴史的経過を学び、現在の福祉制度について理解する。			
テキスト	「障害児保育」／藤永 保 監修／萌文書林 「障害児保育」／小河 晶子 他 著／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	「保育実習指導」／戸江 茂博 他 著／近畿大学豊岡短期大学			
成績評価基準	出席態度、意欲、関心20%。 レポート20%。 プレゼンテーション（10%。） 期末試験50%。総合評価をします。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 学生の主体的参加を望む。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	障害のとらえ方と障害児保育の歴史
2 回	障害児保育の基本
3 回	肢体不自由児、視覚障害、聴覚障害児の理解と支援(1)
4 回	肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児の理解と支援(2)
5 回	知的障害児の理解と支援
6 回	発達障害児の理解と支援
7 回	障害児保育を支える記録・評価
8 回	子ども一人ひとりの発達を促す生活遊びの環境
9 回	子ども同士のかかわりと育ちあい
10 回	発達障がい児と向き合うための造形的活動
11 回	保護者や家族に対する理解と支援の方法
12 回	地域の専門機関などとの連携や子ども一人ひとりの支援計画の作成
13 回	保健・医療における現状と課題
14 回	福祉・教育における現状と課題
15 回	支援の広がりとながり
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文学	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	小西 律
授業概要	<p>具体的な作品を題材として、作者が子どもに託したメッセージ、先人の望みなどをこどもの生活経験と照らし合わせながら分析します。</p> <p>また、小学校の国語の教科書に載せられている作品も取り上げます。</p>			
授業科目の目的	<p>「子どものころの文学体験は一生消えることなく、その人の人間性にかかわる」(西本鶏介)ものであると言われます。このように言われる生涯にわたる人間性を培うこどもの文学についての理解を深め、子どもにとっての一冊となりうる文学の選択視を養うことを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学、芸術、創作と多岐にわたる子どもの文化の原点ともいえる「赤い鳥」の主張について認識し、その中の文学について、現在に至る過程が理解できる。</li> <li>2. 具体的な作品を探求することから、子どもを取り巻く生活、環境、社会問題などが認識できる。</li> <li>3. 作家たちの多様なメッセージから子どもの未来に向けての生き方、可能性に思いをはせ、作品の選択眼を養うことができる。</li> </ol>			
テキスト	こどもと文学／小西律／近畿大学豊岡短期大学／1,000円			
参考書	語ってよ子守歌のように／禪定生世／エルビス社／1,500円			
成績評価基準	定期試験40%、レポート・提出物・発表30%、授業・課題に取り組む姿勢30%			
受講の心構えとメッセージ	<p>「人生の真実は大人が教えるものでなく、子どもがみずからの力でつかみとっていくものです。その力をあたえてくれるのが文学の価」と西本鶏介は言います。授業は、講義と映像の視聴、意見発表などで進めます。幼い頃読んだ懐かしい作品も出て来ます。作者が託したメッセージを受け取り、大いに悩み、考え、感動してほしいと思っています。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<こどもと文学> 日本と世界のこどもの文学概論、「赤い鳥」について
2 回	<こどもに何を語り伝えるか> こどもの文学作家達からのメッセージ、私の好きなこどもの文学作品
3 回	<子どもと家族(1)> ワイルダー
4 回	<子どもと家族(2)> ワイルダー
5 回	<子どもの自立(1)> 角野栄子・バーネット
6 回	<子どもの自立(2)> 角野栄子・バーネット
7 回	<現代社会と子ども(1)> エンデ
8 回	<現代社会と子ども(2)> エンデ
9 回	<絵本作家からのメッセージ(1)> ディック・ブルーナー
10 回	<絵本作家からのメッセージ(2)> ディック・ブルーナー 調査
11 回	<絵本作家からのメッセージ(3)> ディック・ブルーナー 意見発表
12 回	<教科書に取り上げられている作品について(1)>
13 回	<教科書に取り上げられている作品について(2)> 調査
14 回	<教科書に取り上げられている作品について(3)> 意見発表
15 回	<まとめ>
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	茨木金吾
授業概要	<p>日々の保育に、音楽を活かすために必要な、基礎的となる知識や技術を学ぶ。幼児教育者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように、個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように、基礎力を養います。そのためには、音楽理論（基礎知識）の習得が必修条件であり、本授業は、この知識の習得を中心に、授業を展開していきます。また、グループワークとして、鍵盤楽器と小物の楽器を使ったアンサンブルを試み、グループでの作品作りの意義を考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊びを展開するために必要な、基礎的な知識や技術を学び、幼児教育者として、こども達とともに豊かな音楽経験を積み、感動が共感できるように、個々の課題を見出し、音楽の楽しさを一層こども達に伝えられるように、基礎力を養うことをその学びの目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できます。</li> <li>2. 基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる事が可能となります。</li> <li>3. 基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようになります。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 圭文社  こどもと音楽 (音楽の基礎) / 藤原俊輔著 近畿大学豊岡短期大学</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 すずき出版</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験 (音楽理論) …………… 50%</li> <li>2. 実技試験 (簡易伴奏付け) …… 20%</li> <li>3. グループワーク授業への取り組み (アンサンブル) … 20%</li> <li>4. 学習態度、意欲…………… 10%</li> </ol> <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各自、五線ノートとプリント保管用ファイルを用意してください。</li> <li>2) 時間があれば、楽譜を声を出して読む練習しましょう。</li> <li>3) 授業外での自主練習、自主学習を怠らないでください。</li> <li>4) 授業への積極的な取り組みを期待します。</li> </ol>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 音楽理論① (譜表・音名・音符・休符・拍子)
2 回	音楽理論② (演奏記号・楽語など)
3 回	音楽理論③-1 (音程 <長・短> )
4 回	音楽理論③-2 (音程 <完全・増・減> )
5 回	音楽理論④-1 (音階 <長音階> )
6 回	音楽理論④-2 (音階 <短音階> )
7 回	音楽理論⑤-1 (和音・コードネーム1)
8 回	音楽理論⑤-2 (和音・コードネーム2)
9 回	音楽理論⑤-3 (和音・コードネーム3)
10 回	簡易伴奏の手法 (長調構成の楽曲)
11 回	簡易伴奏の手法 (短調構成の楽曲)
12 回	簡易伴奏の手法 (実技試験)
13 回	こどもの身近な楽器と、その演奏方法 (鍵盤楽器・小物の楽器等) アンサンブル① (アンサンブル譜の読み方についての理解と簡単なアンサンブル譜を作成)
14 回	こどもの身近な楽器と、その演奏方法 (鍵盤楽器・小物の楽器等) アンサンブル② 簡単なアンサンブル譜の演奏練習 (グループワーク)
15 回	こどもの身近な楽器と、その演奏方法 (鍵盤楽器・小物の楽器等) アンサンブル③ アンサンブルの発表 (グループワーク)
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽表現Ⅰ(ピアノ)	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	西野 洋子・大江美歩子 大谷妃早子・松本 裕子
授業概要	<p>ピアノ奏法を学びます。独奏曲、伴奏法(弾き歌い)、ピアノソルフェージュではスケールとカデンツを中心に学習します。また、理論では保育現場に必要な音楽的知識を深めます。</p> <p>演奏については各学生の習熟度に応じた指導を実現するため、個別指導とします。</p> <p>理論については内容により一斉に、または少人数授業で行う場合があります。</p> <p>具体的な指導内容は各自がもつレッスンカルテに沿ってすすめます。</p> <p>前期・後期ともに授業内で発表を行い、後期には定期試験も行います。</p>			
授業科目の目的	保育内容に沿ったこどもの音楽表現活動を援助できる演奏技術、音楽的知識の習得を目的とします。			
到達目標	保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得ができることを目標とします。			
テキスト	<p>こどもと音楽表現(原敏行 鎌田直美 黒北多恵子共著/近大豊岡短期大学)</p> <p>こどものうた[簡易伴奏曲付](田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著/2,800円 圭文社)</p> <p>授業の中で適宜プリント等を配布します。</p>			
参考書	授業内で適宜紹介します。			
成績評価基準	<p>保育内容を理解し、適切な演奏ができる知識と理解がされているかを評価基準とします。</p> <p>発表の成果 70%</p> <p>知識理解 20%</p> <p>学習意欲 10%</p>			
受講の心構えとセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピアノの演奏技術を習得するには目的意識をもった毎日の練習が欠かせません。一度、手に入れた技術・知識は決して手放さない、という明確な意思が必要です。</li> <li>2. 様々な教材曲に共通する事柄(和声進行、リズムパターン、フレーズ構造)などに注目し、記憶に留めておく習慣をつけましょう。演奏力だけでなく保育現場で役立つ初見奏や伴奏法の向上にもつながります。</li> <li>3. 音楽を視覚的なものなどの音楽以外のものと関連付けてみたり、言葉で説明をしてみれば更に表現力、即ち、こどもへ音楽を伝える力も向上します。音楽は『考えて行う』ことが最も大切です。</li> <li>4. 質問は大歓迎です。</li> </ol>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明	16 回	発表 音楽理論
2 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ 音楽理論	17 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
3 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ	18 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
4 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ	19 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
5 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	20 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
6 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	21 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
7 回	発表	22 回	発表
8 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い 音楽理論	23 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌いの指導
9 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	24 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
10 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	25 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
11 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	26 回	ピアノ曲 こどもの歌の弾き歌いの こどもの発達と音楽的能力
12 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	27 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
13 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	28 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
14 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い	29 回	ピアノ曲 ピアノソルフェージュ こどもの歌の弾き歌い
15 回	発表 および夏期休暇中の課題発表	30 回	発表
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽表現Ⅲ(器楽)	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	茨木 金吾・大江美歩子 大谷妃早子・松本 裕子
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノ演奏技術の習得と子どもの歌の弾き歌いは、個人指導(レッスン)形式で行います。</li> <li>・教材に関しては、テキストを中心に進めますが、弾き歌いは中級レベル以上の演奏力を習得するものとし、試験については必ず原譜にて対応します。また、ピアノ曲についてはバイエル100番以上の習得やマーチ、スキップ等の各種リズムに対応した奏法の習得を目指し、演奏技術の向上を図ります。</li> <li>・弾き歌いについては、原譜を弾きこなす力を付けるとともに、豊かな声量で表情豊かに歌う力を付け、保育士及び、幼稚園教諭の採用試験突破に向けて力を付けていきます。</li> <li>・グループワークとして、歌唱と伴奏法を取り入れた取り組みを行い、集団での構成力(特に歌唱力と伴奏力)をつけていきます。</li> <li>・詳細な授業進行は、レッスンカルテにより進めていきます。</li> </ul>			
授業科目の目的	<p>音楽に関する基本的な知識と技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽表現Ⅰ(ピアノ)」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者にとって必要な音楽的基礎技能の養成を目指した「こどもと音楽表現Ⅰ(ピアノ)」に続き、より高度な目標を持って、授業を展開することにより、ピアノ演奏技術の習得や弾き歌いする力の習得ができるようになると同時に、それを保育現場に活かす応用力、音楽的感性を培うことができます。</li> <li>2. 近年、多くの保育士及び、幼稚園教諭の採用試験で課題として課せられる、「原譜による弾き歌い」や「初見視奏」に対応しているため、原譜を弾きこなす力や即興力がつきます。</li> <li>3. グループワークを導入することにより、個々の演奏力を集結したグループでの演奏力、表現力が体験でき、グループ内での役割と責任を通して、作品を完成させる喜びと、その手法が習得できます。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 圭文社 授業の中でプリント等を適宜配布します。</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 すずき出版</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前・後期に実施される計4回の課題習得度確認試験の内容 → 70%</li> <li>2. レッスンカルテの習得状況 → 20%</li> <li>3. 学習態度、意欲 → 10%</li> </ol>			
受講の心構えとメッセージ	<p>地道で精一杯の努力は、必ず実を結びます。子どもたちの嬉しい顔を思い浮かべながら、一曲でも多く自信を持って、弾き歌いや演奏ができるように頑張ってください。</p> <p>また、この教科は、努力の履歴がそのまま結果として現れる教科です。最低でも、1日1時間の練習を重ねると同時に、合格した楽曲についてもふり返りをおこなってください。</p>			
その他	<p>授業の中でプリント等を適宜配布します。</p> <p>こどもと音楽表現Ⅲ(器楽)専用ファイルを必ず作ってください。</p>			

## 授業内容及び回数

1 回	前期オリエンテーション 教材課題選択及び模範演奏と解説	16 回	後期オリエンテーション 夏期休暇中の課題曲の習得度確認
2 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	17 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）
3 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	18 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）
4 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	19 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）
5 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	20 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）
6 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	21 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 歌唱法と伴奏法の習得（グループワーク）
7 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	22 回	課題習得度確認試験③ ※（グループワークでの楽曲演奏）
8 回	課題習得度確認試験① ※（ピアノ曲と弾き歌い曲）	23 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
9 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	24 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
10 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	25 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
11 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	26 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
12 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	27 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
13 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	28 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
14 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得	29 回	ピアノ曲による演奏技術の習得 こどもの歌の弾き歌い力の習得 採用試験曲への取り組みと習得
15 回	課題習得度確認試験② ※（ピアノ曲と弾き歌い曲） 夏期休暇中の課題曲の選定	30 回	課題習得度確認試験④ ※（ピアノ曲と弾き歌い曲）
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと音楽表現Ⅱ(声楽・歌)	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	西野洋子
授業概要	<p>発声法、ソルフェージュなど声楽の基礎を学びます。また、楽譜から音楽を正しく読み取るために欠かすことの出来ない基礎的な音楽理論を学びます。</p> <p>音楽理論の勉強は実作品を通して行うことが妥当でありますので、教材曲には幼稚園教諭などの採用試験を視野にいたした既成曲を使用します。</p> <p>ソルフェージュの教材にはコーリューブンゲンを使用し、理論の教材には周知の歌曲、バイエル教則本、ブルクミュラー25の練習曲などを使います。定期試験のほか授業内で確認テストをします。</p>			
授業科目の目的	<p>対象となるこどもの音楽的能力の発達を理解し、それぞれの段階に応じて様々な音楽表現活動が援助できる技術と知識の習得を目的とします。</p>			
到達目標	<p>教材曲の意図することを理解し、保育内容に沿って適切に歌唱できることを目標にします。</p>			
テキスト	<p>こどもと音楽(藤原俊輔著/近畿大学豊岡短期大学)</p> <p>こどもと音楽表現(原敏行・鎌田直美・黒北多恵子共著/近畿大学豊岡短期大学)</p> <p>そのほか授業内でプリントを適宜配布します</p>			
参考書	<p>必要があれば授業内で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>歌唱をするうえで必要な基礎技術、基礎知識の理解がされているかを評価基準とします。</p> <p>試験 70%</p> <p>知識理解 20%</p> <p>学習意欲 10%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>歌う、奏すとは、大まかにいうと、楽譜に関する約束ごとを知り、その中に盛り込まれた内容を正しく読みとり音(声)にするという一連の作業です。そして最も大切にしなければならないことは、これらは決して別々のものではなく、音楽をするという次元で同じでなくてはならないということです。これは初心者であろうが熟練者であろうが変るものではありません。</p> <p>授業を有効なものにするために予習・復習を欠かさないようにしましょう。</p> <p>質問は大歓迎です。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 授業内容、教材と学習法の説明
2 回	歌唱 コリユーブンゲン：四度音程まで 音楽理論：基礎知識 教材曲 バイエル教則本より
3 回	歌唱 コリユーブンゲン：四度音程まで 音楽理論：基礎知識(音程)
4 回	歌唱 コリユーブンゲン：六度音程までとシンコペーション 音楽理論：音階と三和音(主要三和音の機能と進行) 教材曲 バイエル教則本より
5 回	歌唱・コリユーブンゲン：六度音程までとシンコペーション 音楽理論：主要三和音の機能と進行・V→I、情緒の和音IV・終止形・音楽の「揺れ」 主な教材曲 シューベルトとブラームスの「子守唄」バイエル教則本、童謡「春が来た」 その他
6 回	歌唱 コリユーブンゲン：七度音程までと付点音符 音楽理論：伴奏付け 教材曲 聖歌「きよしこの夜」
7 回	歌唱 コールーブンゲン：近親調への転調を伴うもの 音楽理論：アナリーゼ(分析) 教材曲 ブルクミュラー25の練習曲より「バラード」
8 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのまとめ</li> <li>・こどもの音楽的能力の発達</li> </ul>
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
医学一般	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	原田 玻璃美
授業概要	<p>人体の基本的な構造・機能を概説し、健康を保つための仕組みや、人がよりよく生きるために大切な知識を教授します。</p>			
授業科目の目的	<p>障害児・者や要援護者・病弱者だけではなく高齢者が、生活の質を保ちながら、地域で暮らしていくために貢献しようとする者は、医療、保健関係者との連携が求められる。医学的な知識の習得により、医療に関する知識を深めることを目的とする。</p>			
到達目標	<p>人体の基本的な構造を記述し、重要な器官名とその働きを述べることができる。また、病気の成り立ちや予防・治療について述べるができる。リハビリテーションについて概説できる。</p>			
テキスト	<p>社会福祉学習双書 2011 医学一般／全国社会福祉協議会／2,520円</p>			
参考書	<p>必要に応じ授業内で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>出席状況及び課題レポートとテストにて評価します。 出席状況：30% 課題レポート：20% テスト：50%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>新聞やテレビの医療情報に関心を持ち、授業に反映させてください。</p>			
その他事項	<p>学習内容を生活に取り入れ、体調管理をしてください</p>			

## 授業内容及び回数

1 回	〈現代医学の歴史と意義〉 歴史の中の感染症・現代医学の発達について
2 回	〈人体の基本的構造と機能〉 人間固有の構造：骨格・筋肉・細胞・血液について
3 回	〈器官系別構造と機能〉 循環器系：肺循環と体循環について      呼吸器系：外呼吸と内呼吸について
4 回	〈器官系別構造と機能〉 消化器系：消化管と消化腺      消化と吸収について
5 回	〈器官系別構造と機能〉 泌尿器系：尿の排泄について      内分泌系：ホルモン分泌器官とホルモンの働きについて
6 回	〈器官系別構造と機能〉 神経系：中枢神経（脳の構造と働き）      末梢神経：（脊髄の構造と働き）
7 回	〈器官系別構造と機能〉 運動器系：骨格筋と関節・運動の仕組みについて      感覚器系：皮膚。眼・耳について
8 回	〈病気の起きる仕組み〉 ホメオスタシスの破綻とは      病気の診断と治療について
9 回	〈代表的な疾病の理解〉 生活習慣病：がん・心臓病・脳卒中・糖尿病・アルルハイマー      感染症：インフルエンザ
10 回	〈代表的な疾患の理解〉 神経疾患：神経難病      感染症：インフルエンザ
11 回	〈医学的リハビリテーション〉 理学療法・作業療法・言語聴覚療法
12 回	〈介護予防〉 介護保険：介護予防3つの柱について
13 回	〈障害者スポーツの意義と理念〉 基本理念・用語の理解・障害者とスポーツ
14 回	〈公衆衛生の動向〉 医療保険制度・健康日本21
15 回	〈医療サービス体制の動向〉 医療提供の仕組み・患者権利擁護について
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
言語表現	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	小西 律
授業概要	「言葉は人なり」と言われますが、言葉はその人を映し出しているものです。書き言葉（文章表現）、話し言葉の両面から理論と実践の学習を行い、保育現場で使用する実用文にも取り組み、言語力をつけていきます。			
授業科目の目的	保育者としてどのような言葉を使用して、子どもに指導し、保育者、保護者に対して対応していけばよいのか、言葉のきまりをわきまえた基本的な言語の習得を目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話し言葉、書き言葉について学習することから基本的な知識を得ることができる。</li> <li>2. 保育者として話し言葉を主としたあいさつ、敬語など基本的な言葉のマナーを身に付けることができる。</li> <li>3. 保育現場で使用する具体的な文章を作成することから、保育者として必要な文章力を身に付けることができる。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じ、プリントを用いて授業を進めます。			
参考書	信頼関係が築ける保護者との話し方／わたなべめぐみ／ひかりのくに／1,400円 キラッと光る保育者のマナー／米谷美和子・福田勝恵／ひかりのくに／1,400円			
成績評価基準	定期試験40%、レポート・課題（提出物）・小テスト30%、授業・課題に取り組む姿勢30%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	毎日使用しているものだけに、安易に捉えやすい面がありますが、言葉を欠く生活はありえないものです。具体的な事例も含め学習しますので、常時新聞のコラム欄など目を通して、分かりやすい文章とはどのようなものか学習する必要があります。また、毎時間、敬語・慣用句・送りがな等日常用語、漢字などの小テストを実施しますが、言葉に興味、関心を持つようにしてください。配布するプリントは紛失することなく、授業時に持参すること。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<言葉とは何か> 文章表現と会話表現について、読むことと書くこと
2 回	<会話表現 1> 話し方の基礎 音声、視線、聞く、あいさつの仕方
3 回	<会話表現 2> 敬語の使用法(1) 敬語とは、敬語の種類
4 回	<会話表現 3> 敬語の使用法(2) 日常の会話
5 回	<会話表現 4> 日常の会話、簡単な自己紹介、電話のかけ方、受け方
6 回	<文章表現 1> 読むことと書くこと、文章を書く心得、手順、技術
7 回	<文章表現 2> 基礎文法(1) 主語と述語、助詞、接続詞
8 回	<文章表現 3> 基礎文法(2) 重言、副詞、敬語
9 回	<文章表現 4> 単語3個、5個を入れた短文の作成
10 回	<文章表現 5> 課題に合う文章の作成
11 回	<文章表現 6> 実用文(1) 連絡帳(1) 連絡帳とは、連絡帳の書き方
12 回	<文章表現 7> 実用文(2) 連絡帳(2) 連絡帳の書き方の実践
13 回	<文章表現 8> 実用文(3) お便り帳(1) お便り帳とは、お便り帳の書き方
14 回	<文章表現 9> 実用文(4) お便り帳(2) お便り帳の書き方の実践
15 回	<まとめ>
《定期試験》 (有) ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授 業 形 態	時 間 数 ( 単 位 )	担 当 教 員
地域ボランティア	1～2年・通年	演習	30時間 (1単位)	長尾和美
授 業 概 要	<p>地域交流の行事や、福祉施設等での補助・援助、また各種団体・企業等において、30時間以上のボランティア活動を行います。初めに1年前期の事前指導で留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項について説明します。活動は様々ですので、自分が参加したいと思う場所や日時、活動内容などを決め、本学の担当者に事前申請した上で、実際に活動します。活動後は必ず所定の活動日誌を作成し、確認印を受けて提出してください。その後、2年後期に事後指導を受けながら活動の成果や課題について考察し、活動報告書を本学に提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定します。</p>			
授 業 科 目 の 目 的	<p>本学ではこれまで、課外活動や公開講座等を通じた地域交流や、社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティアを奨励してきました。社会の一員として学生の人間力を培う活動に対し、また、学生のこうした努力に報いるために、これらの活動を単位として認定し、一層の推進を図ります。</p>			
到 達 目 標	<p>①ボランティア活動を通じて、将来地域社会を担っていく力の基礎を養います。 ②他者や社会の利益のために活動することが、同時に学生自身の楽しさや喜びにつながることを実感します。</p>			
テ キ ス ト	<p>必要に応じて、プリント等資料を配布します。</p>			
参 考 書	<p>安藤雄太監修『ボランティア まるごとガイド』ミネルヴァ書房、2002年、1,500円+税 岡本榮一監修『ボランティアのすすめー基礎から実践までー』ミネルヴァ書房、2005年、2,520円 その他、必要に応じて、授業内で紹介します。</p>			
成 績 評 価 基 準	<p>ボランティア活動事前・事後指導の授業への出席および授業態度20%、ボランティア活動合計時間70%、活動日誌と活動最終報告書10%により評価を行います。</p>			
メ ッ セ ー ジ と 受 講 の 心 構 え	<p>ボランティアは、誰か人のためにするものと思われがちです。でも、社会と関わることで初めて、自分の中の新しい思いや感情に出会ったり、今までとは違った自分に気づいたりするのではないのでしょうか。ボランティア活動は、卒業後、社会に出られる皆さんの大きな力となると思います。皆さんの自主的で、楽しい活動を期待します。</p>			
の そ の 他				

## 授業内容及び回数

1 回	<ボランティア活動事前指導1> ボランティア活動の意義について ボランティア活動の基本的性格・定義について
2 回	<ボランティア活動事前指導2> ボランティア活動の事例について 活動日誌と報告書の書き方について
3 回	ボランティア活動（各自）
4 回	ボランティア活動（各自）
5 回	ボランティア活動（各自）
6 回	ボランティア活動（各自）
7 回	ボランティア活動（各自）
8 回	ボランティア活動（各自）
9 回	ボランティア活動（各自）
10 回	ボランティア活動（各自）
11 回	ボランティア活動（各自）
12 回	<ボランティア実習事後指導1> ボランティア活動の感想と振り返り
13 回	<ボランティア実習事後指導2> ボランティア活動の成果の確認と課題の考察
14 回	<ボランティア実習事後指導3> ボランティア実習報告書の作成
15 回	<ボランティア実習事後指導4> まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育総合演習	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（オペレッタ・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、こどもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。また、子どもの成長に欠くことのできない食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、おやつ作りの実践も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>各グループでの作品づくりを通して、保育士に必要な資質・能力を育成します。</p> <p>①企画・創造力……グループで一つの作品を構想・計画し創り上げていくことができるようになります。</p> <p>②協力・コミュニケーション……課題を認識し、グループで協力して取り組むことができるようになります。</p> <p>③表現力……グループでの演技や演奏などの表現技術を身につけることができるようになります。</p> <p>④責任感・使命感……グループの役割を最後までやり遂げることができるようになります。</p>			
到達目標	<p>保育現場で実際に行われている具体物に1年当初より取り組むことにより、下記の習得を目指します。</p> <p>①現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得できます。</p> <p>②実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。</p> <p>③実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことができます。</p> <p>④異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことができます。</p>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>①関心・意欲・態度（出席態度や企画、日々の提出物など）：25%</p> <p>②思考・判断（創造力・活動姿勢など）：25%</p> <p>③協調性・指導性（協力・責任感など）：25%</p> <p>④課題（制作物などの）内容や発表（表現力・使命感など）：25%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>作品制作には自らの考えを述べるとともに、意欲的に取り組むことで保育士としての基本的な技能・技術が身に付きます。積極的に取り組み一人ではできない作品を仲間とともに創り上げてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：オペレッタ Bグループ：人形劇 Cグループ：運動遊び Dグループ：紙芝居)	16 回	Aグループ：オペレッタの実演練習① B・Dグループ：練習① Cグループ：作品の準備、練習⑥
2 回	Aグループ：テーマの設定・台本作り① B・Dグループ：テーマの設定 Cグループ：運動遊びの研究①	17 回	Aグループ：オペレッタの実演練習② B・Dグループ：練習② Cグループ：作品の準備、練習⑦
3 回	Aグループ：台本作り② B・Dグループ：作品決定 Cグループ：運動遊びの研究②	18 回	Aグループ：オペレッタの実演練習③ B・Dグループ：練習③ Cグループ：作品の準備、練習⑧
4 回	Aグループ：衣装・道具の製作① B・Dグループ：脚本づくり① Cグループ：運動遊びの研究③	19 回	A・B・C・Dグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ：衣装・道具の製作② B・Dグループ：脚本づくり② Cグループ：運動遊びの研究④	20 回	Aグループ：オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ：振り返り・手直し Cグループ：発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ：衣装・道具の製作③ B・Dグループ：製作① Cグループ：運動遊びの研究⑤	21 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅱ (自然素材②)
7 回	Aグループ：衣装・道具の製作④ B・Dグループ：製作② Cグループ：運動遊びの研究⑥	22 回	Aグループ：リズムの練習① B・Dグループ：パネルシアター製作① Cグループ：作品の練習①
8 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑤ B・Dグループ：製作③ Cグループ：発表作品決定	23 回	Aグループ：リズムの練習② B・Dグループ：パネルシアター製作② Cグループ：作品の練習②
9 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅰ (自然素材①)	24 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 オープニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑥ B・Dグループ：製作④ Cグループ：作品の準備、練習①	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル①
11 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑦ B・Dグループ：製作⑤ Cグループ：作品の準備、練習②	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル②
12 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑧ B・Dグループ：製作⑥ Cグループ：作品の準備、練習③	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演①
13 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑨ B・Dグループ：製作⑦ Cグループ：作品の準備、練習④	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演②
14 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑩ B・Dグループ：製作⑧ Cグループ：作品の準備、練習⑤	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 記録映像の鑑賞と反省会 A・B・C・Dグループ：報告集づくり①
15 回	A・B・C・Dグループ：まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ：報告集づくり② A・B・C・Dグループ：報告会・まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育総合演習Ⅱ	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（オペレッタ・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、こどもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。また、子どもの成長に欠くことのできない食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、おやつ作りの実践も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>各グループでの作品づくりを通して、保育士に必要な資質・能力を育成します。</p> <p>①企画・創造力……グループで一つの作品を構想・計画し創り上げていくことができるようになります。</p> <p>②協力・コミュニケーション……課題を認識し、グループで協力して取組むことができるようになります。</p> <p>③表現力……グループでの演技や演奏などの表現技術を身につけることができるようになります。</p> <p>④責任感・使命感……グループの役割を最後までやり遂げることができるようになります。</p>			
到達目標	<p>1年次での体験をもとに保育士に必要な下記の習得を行います。</p> <p>①現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得できます。</p> <p>②実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。</p> <p>③実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことができます。</p> <p>④異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことができます。</p>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>①関心・意欲・態度（出席態度や企画、日々の提出物など）：25%</p> <p>②思考・判断（創造力・活動姿勢など）：25%</p> <p>③協調性・指導性（協力・責任感など）：25%</p> <p>④課題（制作物などの）内容や発表（表現力・使命感など）：25%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>作品制作には自らの考えを述べるとともに、意欲的に取り組むことで保育士としての基本的な技能・技術が身に付きます。積極的に取り組み一人ではできない作品を仲間とともに創り上げてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：オペレッタ Bグループ：人形劇 Cグループ：運動遊び Dグループ：紙芝居)	16 回	Aグループ：オペレッタの実演練習① B・Dグループ：練習① Cグループ：作品の準備、練習⑥
2 回	Aグループ：テーマの設定・台本作り① B・Dグループ：テーマの設定 Cグループ：運動遊びの研究①	17 回	Aグループ：オペレッタの実演練習② B・Dグループ：練習② Cグループ：作品の準備、練習⑦
3 回	Aグループ：台本作り② B・Dグループ：作品決定 Cグループ：運動遊びの研究②	18 回	Aグループ：オペレッタの実演練習③ B・Dグループ：練習③ Cグループ：作品の準備、練習⑧
4 回	Aグループ：衣装・道具の製作① B・Dグループ：脚本づくり① Cグループ：運動遊びの研究③	19 回	A・B・C・Dグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ：衣装・道具の製作② B・Dグループ：脚本づくり② Cグループ：運動遊びの研究④	20 回	Aグループ：オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ：振り返り・手直し Cグループ：発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ：衣装・道具の製作③ B・Dグループ：製作① Cグループ：運動遊びの研究⑤	21 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅱ (自然素材②)
7 回	Aグループ：衣装・道具の製作④ B・Dグループ：製作② Cグループ：運動遊びの研究⑥	22 回	Aグループ：リズムの練習① B・Dグループ：パネルシアター製作① Cグループ：作品の練習①
8 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑤ B・Dグループ：製作③ Cグループ：発表作品決定	23 回	Aグループ：リズムの練習② B・Dグループ：パネルシアター製作② Cグループ：作品の練習②
9 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅰ (自然素材①)	24 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 オープニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑥ B・Dグループ：製作④ Cグループ：作品の準備、練習①	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル①
11 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑦ B・Dグループ：製作⑤ Cグループ：作品の準備、練習②	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル②
12 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑧ B・Dグループ：製作⑥ Cグループ：作品の準備、練習③	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演①
13 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑨ B・Dグループ：製作⑦ Cグループ：作品の準備、練習④	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演②
14 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑩ B・Dグループ：製作⑧ Cグループ：作品の準備、練習⑤	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 記録映像の鑑賞と反省会 A・B・C・Dグループ：報告集づくり①
15 回	A・B・C・Dグループ：まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ：報告集づくり② A・B・C・Dグループ：報告会・まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育総合演習Ⅲ	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	全教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（オペレッタ・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、こどもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。また、子どもの成長に欠くことのできない食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、おやつ作りの実践も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>各グループでの作品づくりを通して、保育士に必要な資質・能力を育成します。</p> <p>①企画・創造力……グループで一つの作品を構想・計画し創り上げていくことができるようになります。  ②協力・コミュニケーション……課題を認識し、グループで協力して取り組むことができるようになります。  ③表現力……グループでの演技や演奏などの表現技術を身につけることができるようになります。  ④責任感・使命感……グループの役割を最後までやり遂げることができるようになります。</p>			
到達目標	<p>保育現場で実際に行われている具体物に1年当初より取り組むことにより、下記の習得を目指します。</p> <p>①現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得できます。  ②実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。  ③実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことができます。  ④異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことができます。</p>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>①関心・意欲・態度（出席態度や企画、日々の提出物など）：25％  ②思考・判断（創造力・活動姿勢など）：25％  ③協調性・指導性（協力・責任感など）：25％  ④課題（制作物などの）内容や発表（表現力・使命感など）：25％</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>作品制作には自らの考えを述べるとともに、意欲的に取り組むことで保育士としての基本的な技能・技術が身に付きます。積極的に取り組み一人ではできない作品を仲間とともに創り上げてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：オペレッタ Bグループ：人形劇 Cグループ：運動遊び Dグループ：紙芝居)	16 回	Aグループ：オペレッタの実演練習① B・Dグループ：練習① Cグループ：作品の準備、練習⑥
2 回	Aグループ：テーマの設定・台本作り① B・Dグループ：テーマの設定 Cグループ：運動遊びの研究①	17 回	Aグループ：オペレッタの実演練習② B・Dグループ：練習② Cグループ：作品の準備、練習⑦
3 回	Aグループ：台本作り② B・Dグループ：作品決定 Cグループ：運動遊びの研究②	18 回	Aグループ：オペレッタの実演練習③ B・Dグループ：練習③ Cグループ：作品の準備、練習⑧
4 回	Aグループ：衣装・道具の製作① B・Dグループ：脚本づくり① Cグループ：運動遊びの研究③	19 回	A・B・C・Dグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ：衣装・道具の製作② B・Dグループ：脚本づくり② Cグループ：運動遊びの研究④	20 回	Aグループ：オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ：振り返り・手直し Cグループ：発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ：衣装・道具の製作③ B・Dグループ：製作① Cグループ：運動遊びの研究⑤	21 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅱ (自然素材②)
7 回	Aグループ：衣装・道具の製作④ B・Dグループ：製作② Cグループ：運動遊びの研究⑥	22 回	Aグループ：リズムの練習① B・Dグループ：パネルシアター製作① Cグループ：作品の練習①
8 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑤ B・Dグループ：製作③ Cグループ：発表作品決定	23 回	Aグループ：リズムの練習② B・Dグループ：パネルシアター製作② Cグループ：作品の練習②
9 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅰ (自然素材①)	24 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 オープニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑥ B・Dグループ：製作④ Cグループ：作品の準備、練習①	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル①
11 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑦ B・Dグループ：製作⑤ Cグループ：作品の準備、練習②	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル②
12 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑧ B・Dグループ：製作⑥ Cグループ：作品の準備、練習③	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演①
13 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑨ B・Dグループ：製作⑦ Cグループ：作品の準備、練習④	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演②
14 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑩ B・Dグループ：製作⑧ Cグループ：作品の準備、練習⑤	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 記録映像の鑑賞と反省会 A・B・C・Dグループ：報告集づくり①
15 回	A・B・C・Dグループ：まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ：報告集づくり② A・B・C・Dグループ：報告会・まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
卒業研究	2年・通年	演習	60時間 (2単位)	担当教員
授業概要	<p>保育者に求められる資質、能力が身につくような授業内容を展開します。学生各人の経験を大切にするために、4グループ（オペレッタ・人形劇・運動遊び・紙芝居）に分け、複数の教員が各グループを担当し、こどもの文化について理論的に捉え、保育方法や技術を習得します。また、子どもの成長に欠くことのできない食育についても取り上げ、認識を深めるとともに、おやつ作りの実践も行います。</p>			
授業科目の目的	<p>各グループでの作品づくりを通して、保育士に必要な資質・能力を育成します。</p> <p>①企画・創造力……グループで一つの作品を構想・計画し創り上げていくことができるようになります。</p> <p>②協力・コミュニケーション……課題を認識し、グループで協力して取り組むことができるようになります。</p> <p>③表現力……グループでの演技や演奏などの表現技術を身につけることができるようになります。</p> <p>④責任感・使命感……グループの役割を最後までやり遂げることができるようになります。</p>			
到達目標	<p>保育総合演習・保育総合演習Ⅱ、保育総合演習Ⅲでの体験をもとに保育士に必要な下記の習得を行います。</p> <p>①現場に興味を持ち、保育職に就くことへの意欲の向上と知識を習得できます。</p> <p>②実践的取り組みによる経験知の蓄積を図ることができます。</p> <p>③実践活動を通して保育専門職としての基本的資質を培うことができます。</p> <p>④異世代間コミュニケーションをとりながら保育者としての資質を養うことができます。</p>			
テキスト	必要に応じてプリントします。			
参考書	なし			
成績評価基準	<p>次の条件を総合的に検討して評価します。</p> <p>①関心・意欲・態度（出席態度や企画、日々の提出物など）：25%</p> <p>②思考・判断（創造力・活動姿勢など）：25%</p> <p>③協調性・指導性（協力・責任感など）：25%</p> <p>④課題（制作物などの）内容や発表（表現力・使命感など）：25%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>作品制作には自らの考えを述べるとともに、意欲的に取り組むことで保育士としての基本的な技能・技術が身に付きます。積極的に取り組み一人ではできない作品を仲間とともに創り上げてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション グループ分け (Aグループ：オペレッタ Bグループ：人形劇 Cグループ：運動遊び Dグループ：紙芝居)	16 回	Aグループ：オペレッタの実演練習① B・Dグループ：練習① Cグループ：作品の準備、練習⑥
2 回	Aグループ：テーマの設定・台本作り① B・Dグループ：テーマの設定 Cグループ：運動遊びの研究①	17 回	Aグループ：オペレッタの実演練習② B・Dグループ：練習② Cグループ：作品の準備、練習⑦
3 回	Aグループ：台本作り② B・Dグループ：作品決定 Cグループ：運動遊びの研究②	18 回	Aグループ：オペレッタの実演練習③ B・Dグループ：練習③ Cグループ：作品の準備、練習⑧
4 回	Aグループ：衣装・道具の製作① B・Dグループ：脚本づくり① Cグループ：運動遊びの研究③	19 回	A・B・C・Dグループ：「育ち合いのなかまづくり」上演リハーサル
5 回	Aグループ：衣装・道具の製作② B・Dグループ：脚本づくり② Cグループ：運動遊びの研究④	20 回	Aグループ：オペレッタの振り返り・手直し B・Dグループ：振り返り・手直し Cグループ：発表作品の振り返り・手直し
6 回	Aグループ：衣装・道具の製作③ B・Dグループ：製作① Cグループ：運動遊びの研究⑤	21 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅱ (自然素材②)
7 回	Aグループ：衣装・道具の製作④ B・Dグループ：製作② Cグループ：運動遊びの研究⑥	22 回	Aグループ：リズムの練習① B・Dグループ：パネルシアター製作① Cグループ：作品の練習①
8 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑤ B・Dグループ：製作③ Cグループ：発表作品決定	23 回	Aグループ：リズムの練習② B・Dグループ：パネルシアター製作② Cグループ：作品の練習②
9 回	A・B・C・Dグループ：食育研究・調理実習Ⅰ (自然素材①)	24 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 オープニング、エンディングの練習
10 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑥ B・Dグループ：製作④ Cグループ：作品の準備、練習①	25 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル①
11 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑦ B・Dグループ：製作⑤ Cグループ：作品の準備、練習②	26 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 上演リハーサル②
12 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑧ B・Dグループ：製作⑥ Cグループ：作品の準備、練習③	27 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演①
13 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑨ B・Dグループ：製作⑦ Cグループ：作品の準備、練習④	28 回	A・B・C・Dグループ・「こどもフェスタ2013」 にて上演②
14 回	Aグループ：衣装・道具の製作⑩ B・Dグループ：製作⑧ Cグループ：作品の準備、練習⑤	29 回	A・B・C・Dグループ：「こどもフェスタ2013」 記録映像の鑑賞と反省会 A・B・C・Dグループ：報告集づくり①
15 回	A・B・C・Dグループ：まとめ	30 回	A・B・C・Dグループ：報告集づくり② A・B・C・Dグループ：報告会・まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館情報技術論	2年・集中	演習	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	図書館業務に必要な基礎的情報技術を習得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説し、必要に応じて演習を行う。			
授業科目の目的	技術に振り回されるのではなく、自分なりに使用できるようにする。それにより今後も進歩する技術に対応できるようにする。			
到達目標	情報社会とは「情報を制する者が社会を制する」と同義である。この情報社会を支えるものが機器とその技術である。ICT技術の中で図書館に特に関係の深い部分を正確に学び、情報社会にふさわしい司書となることをめざす。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『情報検索の知識と技術』 小野寺夏生他著、情報科学技術協会、2010			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	コンピュータとネットワークの基礎
2 回	情報技術と社会
3 回	情報ニーズの変化
4 回	図書館における情報技術活用の現状
5 回	図書館業務システムの仕組み（ホームページによる情報発信を含む）
6 回	ネットワークの仕組み（インターネット）
7 回	構造化文書 htmlの理解
8 回	データベースの仕組み
9 回	検索エンジンの仕組み
10 回	インターネットと図書館
11 回	電子資料の管理技術
12 回	コンピュータシステムの管理（ネットワークセキュリティ、ソフトウェア及びデータ管理）
13 回	ウェブページの評価
14 回	デジタルアーカイブ
15 回	最新の情報技術と図書館 まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報サービス論	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	原田安啓
授業概要	教科書による講義を中心として、Webからの情報やパワーポイントを用いて、現実の情報環境の理解を深めつつ、日進月歩で進化する情報サービス現場を体験する。			
授業科目の目的	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等の方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて学ぶ。			
到達目標	図書館業務の中核を占める「情報サービス」について、そのさまざまな形態を把握し、運用できる能力を養う。そしてネットワーク情報資源や発信型情報サービスなど新しい分野のサービスについても理解を深める。			
テキスト	原田安啓著『情報サービス論』近大姫路大学における教科書を使用する。無料			
参考書	毛利和弘著『文献調査法』第4版 日本図書館協会 平成22年 ¥1,900			
成績評価基準	出席は当然のこととして、授業態度、理解度及び確認テストにより、総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	情報サービス論は、伝統的メディアから最新の情報資源までを扱い、学ぶ範囲は広いが要点を整理し、わかりやすい授業に務めるので、授業中において不明な点があれば、いつでも質問してください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	情報社会と図書館における情報サービス
2 回	読書相談・利用案内
3 回	レファレンスサービス
4 回	レフェラルサービスとカレントアウェアネスサービス
5 回	その他のサービス（コンテンツサービス等）
6 回	レファレンスサービスの理論（利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、評価等）
7 回	レファレンスサービスの体制づくり・実施・普及、現状と問題点
8 回	情報検索サービスの理論と方法(1)
9 回	情報検索サービスの理論と方法(2)
10 回	各種情報源の特質と利用法
11 回	参考図書の解説と評価（付属図書館を利用します）
12 回	ネットワーク情報資源の評価
13 回	各種情報源の組織化（二次資料の作成、情報発信等）
14 回	発信型情報サービスの意義と方法
15 回	図書館利用教育、情報リテラシー育成、まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報サービス演習	1年・集中	演習	30時間 (2単位)	平野 翠
授業概要	図書館における様々な情報サービスの中核であるレファレンスサービス、情報検索サービスについて、サービス設計や情報源の評価、また受付から回答までを実践形式で演習する。また、新しいサービスである発信型情報サービスのひとつ、調べ方案内「パスファインダー」を作成する。面接事業では、シラバスに沿って基礎的部分を学習し、それぞれの応用部分を印刷学習にありあてる。			
授業科目の目的	情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービス（パスファインダー作成）の演習を通して、実践的な能力を養成する。			
到達目標	(1) 図書館を取り巻く環境を考えながら情報サービス・レファレンスサービスの設計計画ができる。 (2) レファレンスサービス・情報検索サービスについて、的確な情報源を選択して回答できる能力を身に付ける。 (3) 新しいサービス形態であるパスファインダー（調べ方案内）を作成することによって、より発展した情報サービス（情報発信型サービス）について理解する。			
テキスト	『情報サービス論及び演習』（ライブラリー図書館情報学） 中西裕ほか著 学文社 2012.11 ISBN978-4-7620-2318-7			
参考書	『図書館で使える情報源と情報サービス』 木本幸子著 日外アソシエーツ 2010 『文献調査法 調査・レポート・論文作成必携(情報リテラシー)』第5版 毛利和弘著 日本図書館協会(発売) 2012.6			
成績評価基準	授業に取り組む態度 20% 授業中の課題（レポート）20% 定期試験（文書質問にたいする回答）60%			
受講の心構えとメッ	事前に、大学の図書室や、豊岡市立図書館の参考図書コーナーに行って、どのような図書が書架にならんでいるかを眺めておくこと。また、国立国会図書館のホームページを閲覧し、どのような情報発信をしているかを確認しておくこと。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	情報サービスの設計	16 回	各種情報源の適正・迅速な選択③ 事実検索－地理・地名を調べる
2 回	レファレンスサービス体制づくり	17 回	各種情報源の適正・迅速な選択④ 事実検索－人名・団体を調べる
3 回	情報源の種類（印刷媒体資料と電子情報源）	18 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑤ 事実検索－事典・年鑑
4 回	レファレンスコレクションの整備① レファレンスブックスの評価	19 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑥ 事実検索－図鑑・白書・便覧
5 回	レファレンスコレクションの整備② 館内作成の二次資料	20 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑦ 事実検索－統計・法令
6 回	レファレンスサービスの技法と実際① レファレンスインタビュー	21 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑧ 文献検索－図書①
7 回	レファレンスサービスの技法と実際② レファレンス事例集の作成	22 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑨ 文献検索－図書②
8 回	情報検索の技法と実際① 情報検索システムと検索方法	23 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑩ 文献検索－雑誌①
9 回	情報検索の技法と実際② 図書・雑誌の所蔵検索	24 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑪ 文献検索－雑誌②
10 回	情報検索の技法と実際③ 雑誌記事索引（CiiNii-Articles）	25 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑫ 文献検索－新聞①
11 回	情報検索の技法と実際④ 新聞記事索引と新聞の所在	26 回	各種情報源の適正・迅速な選択⑬ 文献検索－新聞②
12 回	情報検索の技法と実際⑤ 統計、法令	27 回	発信型情報サービスの理解
13 回	情報検索の技法と実際⑥ その他のデータベース	28 回	パスファインダーの作成①
14 回	各種情報源の適正・迅速な選択① 事実検索－言葉を調べる	29 回	パスファインダーの作成②
15 回	各種情報源の適正・迅速な選択② 事実検索－歴史情報を調べる	30 回	情報サービスの評価
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館情報資源概論	2年・集中	講義	30時間 (2単位)	原田安啓
授業概要	教科書に従って、講義を中心としますが、必要に応じてWebの活用やパワーポイントまたはDVDも視聴しながら授業を進めます。			
授業科目の目的	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を学ぶ。			
到達目標	個別具体的な情報資源について、その特徴と取り扱い、そして流通について理解するとともに、情報資源には大きく分けて4つの分野のあることを学ぶ。また資料の図書館での受入れから除籍に至るまでの流れを知り、情報資源全体の概略を把握する。			
テキスト	馬場俊明著『図書館情報資源概論』JLA図書館情報学シリーズⅢ日本図書館協会 2012年			
参考書	必要に応じてプリントを配布します。			
成績評価基準	出席は当然のことですが、授業態度や理解度及び確認テストにより総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	身近な公共図書館や大学図書館をあらかじめ見学して、情報資源の全容を調べておくと、授業の理解度が高まります。また自分が図書館員になったと仮定して授業に取り組むのも効果的です。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	印刷資料・非印刷資料の類型と特質（図書・雑誌・新聞，主要な一次・二次資料，資料の歴史含む）
2 回	電子資料，ネットワーク情報資源の類型と特質
3 回	地域資料の特質，身近な図書館の例
4 回	行政資料（政府刊行物），灰色文献その流通と収集の方法
5 回	情報資源の生産（出版）
6 回	情報資源の流通と再販制度，商品と図書の違い
7 回	図書館業務と情報資源に関する知識
8 回	コレクション形成の理論 価値論と要求論含む
9 回	資料の選択・収集，コレクションの評価
10 回	コレクション形成の方法（選択ツールの利用，選定，評価）
11 回	人文・社会科学分野の情報資源とその特性
12 回	科学技術分野，生活分野の情報資源とその特性
13 回	資料の受入・除籍・保存・管理
14 回	資料の装備・補修・排架・展示・点検
15 回	図書館情報資源の拡大      まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報資源組織演習	1年・集中	演習	30時間 (2単位)	平野 翠
授業概要	<p>「日本目録規則」1987年版改訂3版にしたがって、書誌データを作成する。また、作成した書誌データから主題分析し、「日本十進分類法」新訂9版や「基本件名標目表」にしたがって、分類作業し、件名を付与する。また、NIIの教育研修事業を利用して、現在大学図書館で実施されている「集中化・共同化による書誌データ作成」を体験する。ネットワーク情報源を組織化する「メタデータ」についても、国立国会図書館や国立情報学研究所の事例を参考に、インターネット情報源のメタデータを作成する。</p>			
授業科目の目的	<p>多様な情報資源に関する書誌データの作成、作成した書誌データについて、主題分析をし、「日本十進分類法」新訂9版により分類し、「基本件名標目表」改訂4版にしたがって件名付与することによって、情報資源組織化の基礎を身につける。また、実際にNIIのNACSIS-CATの教育サーバーに接続して書誌を作成することにより、目録の共同化（書誌ユーティリティ）を実体験する。インターネット情報源のメタデータを作成することにより、新しい情報資源の組織化について理解を深める。</p>			
到達目標	<p>(1) 書誌データを作成することにより、目録の集中化・共同化の際の同定識別する能力を養う。  (2) 分類や件名付与することにより、図書の主題による検索についての能力を養う。  (3) NIIの教育サーバーに接続して、「登録」「流用」「新規登録」作業を体験することにより、「目録分担作業」「書誌ユーティリティ」ということについて理解する。  (4) ネットワーク情報源（インターネット情報）について、データを作成することにより、図書館の新しい情報資源についての組織化について、理解を深める。</p>			
テキスト	印刷プリントにて対応する。			
参考書	<p>『情報資源組織論及び演習』（ライブラリー図書館情報学9） 那須雅熙著 学文社 2012.1  『資料組織演習』（JLA図書館情報学シリーズII） 吉田憲一編 日本図書館協会 2007</p>			
成績評価基準	授業に取り組む態度20% 授業中の課題20% 定期試験60%			
受講の心構えとメッ	<p>面接授業時には、該当の『日本十進分類法』と『基本件名標目表』を持参してください。受講事前には、国立国会図書館の「NDL-OPAC」や、「CiiNii-Books」などを検索し、どのような内容なのかを知っておいてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	書誌データ作成の実際① 総則	16 回	分類作業⑤ 分類記号付与の実際－人文科学
2 回	書誌データ作成の実際② 単行図書－タイトルと責任表示	17 回	分類作業⑥ 分類記号付与の実際－社会科学
3 回	書誌データ作成の実際③ 版次	18 回	分類作業⑦ 分類記号付与の実際－自然科学
4 回	書誌データ作成の実際④ 出版事項	19 回	件名作業① 「基本件名標目表」第4版の概略
5 回	書誌データ作成の実際⑤ 形態・シリーズ	20 回	件名作業② 細目表も使い方
6 回	書誌データ作成の実際⑥ 注記事項	21 回	件名作業③ 件名付与の実際
7 回	書誌データ作成の実際⑦ 標準番号・入手条件、標目	22 回	書誌データ管理・検索システムの構築
8 回	書誌データ作成の実際⑧ 標目・著者典拠コントロール	23 回	集中化・共同化による書誌データ作成① 所蔵登録
9 回	書誌データ作成の実際⑨ 継続資料①	24 回	集中化・共同化による書誌データ作成② 書誌流用①
10 回	書誌データ作成の実際⑩ 継続資料②	25 回	集中化・共同化による書誌データ作成③ 書誌流用②
11 回	主題分析	26 回	集中化・共同化による書誌データ作成④ 新規登録①
12 回	分類作業① 「日本十進分類法」新訂9版の概略	27 回	集中化・共同化による書誌データ作成⑤ 新規登録②
13 回	分類作業② 形式区分	28 回	メタデータの作成①
14 回	分類作業③ 地理区分、海洋区分	29 回	メタデータの作成②
15 回	分類作業④ 言語区分、言語共通区分、文学共通区分	30 回	メタデータの作成③
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
生涯学習概論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	戸 邊 俊 哉
授業概要	生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、並びに社会教育施策、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本を解説する。			
授業科目の目的	自己の充実・啓発や生活の向上のために、自律的に学ぶ内容を選び取り、生涯にわたって学習を行う際に図書館は大きな役割を果たす。図書館の専門職である司書として、援助・指導できるようになることを目的とする。			
到達目標	<p>児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生涯学習に関する基本的知識の修得</li> <li>2 学校教育、社会教育と生涯学習との関係の理解</li> <li>3 生涯学習と社会との関係の理解</li> </ol> <p>これらの内容について学修し、生涯学習の可能性について理解を深めていく。</p>			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『テキスト生涯学習—学びがつむぐ新しい社会』 田中雅文他著、学文社、2013			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	生涯学習・生涯教育論の展開と学習の実際
2 回	生涯教育から生涯学習の考え方の系譜と学校教育の在り方について
3 回	生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
4 回	生涯学習振興施策の立案と推進
5 回	生涯学習推進計画の意義と種類、生涯教育推進計画の企画の視点と手順について
6 回	教育の原理とわが国における社会教育の意義・発展・特質
7 回	社会教育行政の意義・役割と一般行政との連携
8 回	生涯学習施設の機能と役割について
9 回	生涯学習推進施策と社会教育行政について及び生涯学習ネットワークについて
10 回	社会教育の内容・方法・形態（学習情報の提供と学習相談、評価と活用）
11 回	学習への支援と学習成果の評価と活用
12 回	社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
13 回	社会教育指導者の役割
14 回	生涯学習における学習成果の評価、学習成果の活用などについて
15 回	今後の生涯学習の方向 授業内容の要点の整理
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館概論	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を学ぶ。			
授業科目の目的	司書資格に関する講義のイントロダクションにあたる。図書館に対する視座の転換を目的とする。			
到達目標	人類が長い歴史を費やし、成長させてきた図書館という仕組みの持つ意味をできるだけ広い視野で捉え、知的文化を支えるその役割を理解し、図書館が社会に必要な不可欠な施設であることを知る。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『図書館概論』 塩見昇編、日本図書館協会、2008			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	図書館の現状と動向 日本
2 回	米国等先進地域の動向
3 回	図書館を構成するもの
4 回	図書館の機能
5 回	図書館の社会的意義 ユネスコ公共図書館宣言
6 回	地域社会と図書館
7 回	知的自由と図書館 図書館の自由に関する宣言
8 回	図書館の歴史 古代、中世
9 回	図書館の歴史 近代
10 回	公立図書館の成立とその展開
11 回	館種別図書館と利用者ニーズ
12 回	図書館職員の役割と資格
13 回	図書館員の倫理
14 回	類縁機関・関係団体（文書館含む）
15 回	図書館の課題と展望
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館制度・経営論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について学び、企業経営やNPM理論との関係の比較、財務・会計の面をふくめて考察する。			
授業科目の目的	図書館経営にかかわる組織、管理・運営、各種計画について理解を深めてもらう。			
到達目標	図書館の制度・経営について、近年図書館法および関連法規の改正が行われたことに鑑み、多くの変革・可能性を内包するようになってきた。図書館経営にも、新しい概念や考え方の導入を図りながら、住民の暮らしや文化の向上に資することが使命であることを確認した上で、現代に即した管理・運営法を体得する。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『図書館経営論』 柳与志夫他著、学文社、2007			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	逐条解説図書館法
2 回	他館種の図書館に関する法律 (学校図書館法、国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)
3 回	図書館サービス関連法規 (子ども読書活動推進法、著作権法等)
4 回	図書館学の5法則
5 回	行政制度
6 回	図書館政策(国・地方公共団体)
7 回	図書館における経営の観点
8 回	公共機関・施設の経営法(マーケティング、危機管理を含む)
9 回	図書館の組織・職員(館長、人事管理等)
10 回	図書館の施設・設備
11 回	図書館のサービス計画と予算の確保
12 回	図書館サービスの調査及び望ましい基準とPDCAサイクル
13 回	図書館の評価(1) その歴史
14 回	図書館の評価(2) アウトカムとパフォーマンス
15 回	図書館の管理形態の多様化 まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館サービス概論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	図書館サービスの考え方と構造の理解を図り、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者・高齢者・多文化サービス等の各種サービス、著作権、接遇・コミュニケーション等の基本を学ぶ。			
授業科目の目的	図書館サービスの対象者のニーズにこたえるために必要な知識を体得する			
到達目標	図書館のサービス形態は大きく変化を遂げ、常に拡大してきた。そこで図書館サービス全体の概要を把握し、個々のサービスの特徴・歴史を掘り下げ、今日に至る経過を学ぶことによって、現在のサービスの実体を捉える。司書として、そのサービスの正確な理解を得ることを目標とする。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『図書館サービス論』 小田光宏、日本図書館協会、2010			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	図書館サービスの考え方と構造
2 回	図書館サービスの変遷（図書館法制定以降）(1) 中小レポートを中心として
3 回	図書館サービスの変遷(2) 市民の図書館を中心として
4 回	資料提供サービスの基本（利用案内・貸出・予約サービスの流れと相互の関係）
5 回	図書館サービスの連携協力（自治体等機関）
6 回	レファレンスサービス
7 回	情報発信、講座・セミナー
8 回	課題解決支援サービス
9 回	障害者サービス
10 回	高齢者サービス、多文化サービス
11 回	児童サービス YAサービス
12 回	図書館サービスと著作権
13 回	図書館サービス無料の意義
14 回	インターネットと図書館サービス
15 回	接遇・コミュニケーション、広報
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
児童サービス論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせ、学校との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。			
授業科目の目的	図書館は生涯利用し続ける教育機関であり、その利用の端緒である児童サービスの基礎的知識を身に着ける。			
到達目標	児童サービスは幼児から児童・生徒まで、その発達段階を把握しながら適切な資料の提供を図るという点で、専門性の高い業務である。子どもが好きであると共に、そのニーズを的確につかみとれる児童図書館員となる。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『児童サービス論』 堀川照代編、日本図書館協会、2009			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	発達と学習における読書の役割
2 回	児童サービスの意義・理念
3 回	児童サービスの歴史
4 回	絵本
5 回	物語と伝承文学
6 回	知識の本、触る絵本（障害者用）
7 回	児童サービスの実際 資料の選択と提供
8 回	ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトーク等
9 回	乳幼児サービス（ブックスタート等）と資料
10 回	ヤングアダルトサービスと資料
11 回	学習支援としての児童サービス、図書館利用指導等
12 回	児童のためのレファレンスサービス
13 回	学校、学校図書館の活動
14 回	学校、家庭、地域との連携・協力
15 回	インターネットと児童 まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
図書館施設論	2年・後期	講義	15時間 (1単位)	戸邊俊哉
授業概要	図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その他構成要素等について学ぶ。			
授業科目の目的	図書館施設は実際に人々が集う場所であり、そこがどのような施設であることが望まれるのかを考える。			
到達目標	図書館は建築学的にも魅力のある施設である。外観から内部、閲覧室、事務室、書庫をはじめとする諸配置に創意工夫を凝らす必要があるからである。施設としての図書館全体の理解をはかる。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『よい図書館施設をつくる』 植松貞夫著、日本図書館協会、2010			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	住民と図書館サービス
2 回	サービス計画の立て方 住民の生活動線等と図書館の位置 規模 情報資源量の観点
3 回	図書館計画 サービス指標の観点から
4 回	地域の歴史、産業、人口等の分析と行政の地域計画との整合性
5 回	図書館の建築 コンペ方式等、設計者の観点、利用者の観点、ミッション（使命）の確定
6 回	館長及び職員
7 回	図書館の財政
8 回	まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
情報資源組織論	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	戸邊俊哉
授業概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を学ぶ。			
授業科目の目的	膨大な数の図書館の情報資源がどのように組織化されているのかを理解する。			
到達目標	図書館が扱うあらゆる情報資源の組織化を視野に入れた上で、その特徴を理解し、組織化にあたっての必要な知識や技術を取得し、演習で実際にそれを活かし、確実なものにできるための能力を養う。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『資料組織概説』 柴田正美、日本図書館協会、2008			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	情報資源組織化の意義と理論
2 回	書誌コントロールと標準化
3 回	国立国会図書館及び国際レベルの書誌コントロール
4 回	書誌記述法（主要な書誌記述規則）
5 回	主題分析の意義と考え方
6 回	主題分析と分類法（主要な分類法）
7 回	主題分析と索引法（統制語彙）
8 回	件名標目表とシソーラス
9 回	書誌情報の作成と流通 MARC
10 回	書誌ユーティリティ
11 回	書誌情報の提供（OPACの管理と運用）
12 回	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13 回	多様な情報資源の組織化（地域資料、行政資料）
14 回	多様な情報資源の組織化（その他の資料）
15 回	多様な情報資源の組織化（その他の資料） まとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教 科 名	開 講 年 次	授業形態	時間数(単位)	担 当 教 員
図書館情報資源特論	2年・後期	講義	15時間 (1単位)	戸 邊 俊 哉
授業概要	情報資源全体を広く深く見渡し、幅広い図書館の情報資源に対応できる能力を涵養する。また生涯学習全体に目配りを効かせた内容も盛り込む。			
授業科目の目的	図書館の情報資源について理解するとともにその扱いについても習熟する。			
到達目標	情報化社会の今日といえども、図書館は人類が過去から積み上げてきた文化・情報の保存としての使命も重要である。古典籍の理解及びその扱いについても習熟することも必要である。また、災害の多い日本において図書館もその対策法、リスクマネジメントを確立することが急がれる。			
テキスト	適宜授業中に提示、配布する。			
参考書	『資料保存の調査と計画』 安江明夫著、日本図書館協会、2009			
成績評価基準	出席状況、受講態度、レポート、試験等を勘案して総合的に評価する。			
受講の心構えとメッセージ	授業中に意見を聞いたり、ディスカッションの時間を設けます。 率直な意見を期待します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	学習・研究活動に役立つ情報へのアクセス（書誌の活用・デジタル情報の活用）
2 回	日常の生活情報の取り扱い
3 回	生涯にわたって学ぶとは（情報リテラシーの習熟を含む）
4 回	図書館と古典資料
5 回	写本 著作権の考え方の無い時代、オリジナルと異本
6 回	古典資料の収集・整理、補修・保存、利用
7 回	図書館と災害 阪神・淡路、東日本大震災と図書館 災害を乗り越えて
8 回	リスクマネジメント まとめ
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教職論	2年・前期	講義	30時間 (1単位)	藤井太郎
授業概要	<p>本授業では、望ましい教育者・保育者となるために、教育者・保育者とは何か、どのような事を理解し、身につけておかなければならないか、職務内容とは何かなどについて学びます。つまり、教育者・保育者の資質、専門性、制度的位置づけ、仕事（子ども理解、保育内容と遊び、計画と相互的な指導、援助のあり方、保育者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門的機関・小学校との連携、専門性の向上）などを理解する。あるべき教育者・保育者像の形成に向かって意欲、態度、自覚を養います。</p>			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の学習、生活に対する姿勢を見つめ直し、自己課題を見つけることを目的とします。</li> <li>2. 教育者・保育者の役割、あるべき姿について学び、自分が目指す教師像・保育者像について描けるようになることを目的とします。</li> <li>3. 教育者・保育者がおかれている現状を知り、専門性について学ぶことを目的とします。</li> <li>4. 現代における教育・保育の課題に関心を持ち、共に成長を続ける意味を考えることを目的とします。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育者・保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>2. 教育者・保育者の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>3. 教育者・保育者の専門性について考察し、理解する。</li> <li>4. 教育者・保育者の協働について理解する。</li> <li>5. 教育者・保育者の専門職的成長について理解する。</li> </ol>			
テキスト	<p>保育所保育指針・解説書・幼稚園教育要領・解説書 フレーバル館 プリント教材及び視聴覚教材を利用し授業をおこないます。</p>			
参考書	<p>保育用語辞典 ミネルヴァ書房</p>			
成績評価基準	<p>上記の到達目標について、期末試験により理解度を評価します。 出席率・受講姿勢20%、課題・レポート等提出物20%、定期試験60%で総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>真に優れた教育者・保育者は、優れた社会人でもあります。この授業は教育者・保育者はいかにあるべきかを考えながら、教育者・保育者となる自分自身を見つめる時間にしてください。幼稚園教諭・保育士を志望する人はもちろんこと、志望しない人も「人間論」「子育て論」として学び、有意義な授業を作り上げていきましょう。自分自身を客観的に把握したり、他者の考えを受け止めながら、主体的に学ぶことを期待しています。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 「教職論」の目標と概要
2 回	<教職及び保育職の制度的位置付け> 保育者の資格と要件と責務について理解する
3 回	<教師・保育士の専門性(1)> 養護と教育を理解したうえで、保育者に求められる資質・知識・技術及び判断能力について学ぶ
4 回	<教師・保育士の専門性(2)> 人類の教師（釈迦・孔子・ソクラテス・キリスト）
5 回	<教師・保育士の専門性(3)> 西洋の教師（ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・モンテッソーリ）
6 回	<教師・保育士の専門性(4)> わが国の教師（吉田松陰・緒方洪庵・福沢諭吉）
7 回	<教師・保育士の専門性(5)> わが国の教師（倉橋惣三・大村はま・東井義雄・水谷修など）
8 回	<教師・保育士の協働(1)> 同僚との協働、他の専門職及び専門機関との連携について具体的事例から学ぶ
9 回	<教師・保育士の協働(2)> 保護者と向き合う教師・保育士として、園と家庭との連携を進める具体的方策を学ぶ
10 回	<教師・保育士の協働(3)> 地域社会の中の教師・保育士のあるべき姿勢を捉える
11 回	<教師・保育士の理念> 教師・保育士の使命と役割・適性について、今までの学びを振り返って考える。
12 回	<教師・保育士の専門職的成長(1)> 教師・保育士としてのキャリア・アップについて（研修の具体的方法とその意義について）学ぶ
13 回	<教師・保育士の専門職的成長(2)> 教師・保育士の基礎となる人間性について学ぶ
14 回	<教師・保育士の専門職的成長(3)> 教師・保育士の基礎となる人間性について学ぶ
15 回	<教師・保育士の専門職的成長(4)> 教師・保育士としてのアイデンティティについて学ぶ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育原理	1年・後期	講義	30時間 (2単位)	赤木公子
授業概要	「教育・保育とは何だろう」の問いかけからスタートし、学び、教え、育てることの意味についての理解を深めます。幼稚園・保育所・小学校との連携や生涯学習社会を視野に入れながら幼児教育の役割に触れることにより教職への関心意欲を高めるとともに、教育についての基本知識の習得を図ります。			
授業科目の目的	教育の思想と歴史的変遷や幼稚園と保育所の歴史や教育制度についてなどの理論を習得した上で、現状教育のさまざまな取り組みについての理解を深めることにより、専門職として求められている保育者の資質についてを認識します。幼稚園や保育所、学校、地域社会において、「育てるとは、学ぶとは、教えるとは」を問い、その答えを探究していくことを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解できます。</li> <li>2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できます。</li> <li>3. 教育の制度について理解できます。</li> <li>4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解できます。</li> <li>5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できます。</li> </ol>			
テキスト	子どもの教育の原理 ―保育の明日をひらくために―/古橋和夫編著/萌文書林/1,995円			
参考書	教育原理/小田豊、森眞理 編/北大路書房/1,700円+税 など 幼稚園教育要領解説/文部科学省/フレーベル館/190円+税 保育所保育指針解説書/厚生労働省/フレーベル館/190円+税			
成績評価基準	以下の5つの到達目標について小テストと期末試験により理解度を評価します。 ①教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解できます。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できます。 ③教育の制度について理解できます。 ④教育実践のさまざまな取り組みについて理解できます。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できます。 定期試験(小テスト含む) 70% 意欲・態度30% などにより総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	教育の基本原理を習得し、教育の諸問題に対し自分自身の生活経験と比較しながら意欲的に解決の糸口を模索し、学び・教え・育てることの真の意味の追求に努めてください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	教育・保育とは何か (1) 教育の意義
2 回	教育・保育とは何か (2) 教育の目的
3 回	教育・保育とは何か (3) 教育と児童福祉の関連性
4 回	教育・保育とは何か (4) 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性
5 回	教育の思想と歴史的変遷 (1) 諸外国の教育思想と歴史
6 回	教育の思想と歴史的変遷 (2) 日本の幼児教育思想と保育の歴史
7 回	教育の思想と歴史的変遷 (3) 児童観と教育観の変遷
8 回	教育・保育の制度 (1) 教育・保育制度の基礎
9 回	教育・保育の制度 (2) 教育・保育法規・教育・保育行政の基礎
10 回	教育・保育の制度 (3) 諸外国の教育・保育制度
11 回	教育・保育の実践 (1) 教育・保育実践の基礎理論－内容、方法、計画と評価
12 回	教育・保育の実践 (2) 教育・保育実践の多様な取り組み
13 回	生涯学習社会における教育 (1) 生涯学習社会における幼児教育と保育
14 回	生涯学習社会における教育 (2) 現代の教育課題
15 回	生涯学習社会における教育 (3) 専門職としての保育者
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育心理学	1年・後期	演習	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>教育心理学の主な領域は、発達、学習、集団・適応、評価から成り立っています。その領域に満遍なく触れながら、本講義では、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え、捉え方を紹介します。学習や動機付け、人間関係、教育評価といった教育心理学の中心となる内容とともに、信頼関係の基礎となるカウンセリングマインドなどについても発展させていきます。心理学という枠組みからの理解や考え方を学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>教育心理学は、教育や人の発達について心理学的に理解していく心理学のひとつの領域です。学習・発達・人格・教育評価など教育心理学の基礎的知識の習得することを目指します。</p> <p>また、現代に生きる子どもたちの教育に関して心理学の観点から考察を深めながら、基礎的知識をもとに専門家として保育実践に生かしていける力量の担保を目的とします。</p>			
到達目標	<p>①学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項の理解し、その特徴を説明することができる</p> <p>②教育・保育場面を心理学の観点から見つめ分析することで、理解を深めることができる。</p>			
テキスト	<p>学びと教えて育つ心理学—教育心理学入門—/小林芳郎編著/保育出版社/2,381円+税</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>授業態度10%、ミニレポート10%、小テスト20%、定期試験60%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>「学ぶこと」「教えること」そして「育てること」は、「保育」「教育」に向き合う人々にとって、とても身近でとても大きい重要な活動になります。ぜひ、そのひとつひとつについて、一緒に一步一步、考えていければと思います。また、教育心理学で皆さんが学ぶ事柄は、日々の生活の中にも多くのことが含まれています。ひとつひとつ確かな実感をもって、学んでほしいと願っています。</p> <p>保育・教育に限らず人生にきっと役立つことも含まれているはずで。(予習・復習を行う中で、生きた知識と実践になることを心から期待しています。)</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 教育心理学の領域と目的・研究方法
2 回	<こどもの発達①> 発達の原理と段階
3 回	<こどもの発達②> 発達の諸相と教育／遊びの発達
4 回	<こどもの学び①> 学習理論／条件付け
5 回	<こどもの学び②> 動機づけ／原因帰属
6 回	<どのように教えるか①> 学習指導と教授法／適性処遇交互作用
7 回	<どのように教えるか②> 発見学習／プログラム学習
8 回	<学級集団での学び> 学級集団の働きとその指導
9 回	<パーソナリティ> 類型論／特性論／精神分析理論
10 回	<適応①> 適応とは何か／欲求とその種類
11 回	<適応②> 欲求不満と機制
12 回	<評価する①> 教育評価の意義と方法
13 回	<評価する②> いつ評価するか：診断的評価・形成的評価・総括的評価
14 回	<発達とところへの援助①> 発達の障害とその支援
15 回	<発達とところへの援助②> カウンセリングとカウンセリングマインド
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
発達心理学	1年・前期	講義	30時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>保育において心理学という学問を扱う意味とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、保育における心理学を学ぶ意義について解説していきます。</p> <p>人の生涯発達という視点に立ち、心やからだ、ことば、考える力の発達を学び、くわえて保育実践を行う上での重要なトピックについて学びを深めていきます。また、子どもたちひとり一人に寄り添えるより良い保育を提供するために、特別な支援を必要とする子どもへの支援・援助についても解説します。</p>			
授業科目の目的	<p>はじめに、「心理学」とはどのような学問であるかを理解するところから始めていきます。</p> <p>発達心理学では、子どもたちが、取り巻く環境と密接な相互の関わりを通じて発達していくことを理解していくことが要です。そのために、心理学におけるものの見方、考え方を学びことを目的とします。</p> <p>保育は子どもたちとの関係とともに養育者との関係にも触れていきたいと思えます。保育者として発達に見合った適切かつ的確な保育を行うために、生涯発達の観点から人間の発達機序や過程と特徴について理解していきます。</p>			
到達目標	<p>①保育実践にかかわる心理学の知識を習得し説明することができる。</p> <p>②心理学的理解を行うための心理学的なものの見方、考え方を学び、それらを基礎とした子ども理解や人間発達に関する理解を深めることができる。</p> <p>③生涯発達の観点から、誕生から死までの人間の発達について心理学の観点から理解することができる。</p>			
テキスト	保育の心理学Ⅰ／柳生崇志・梅崎高行編著／大学図書出版			
参考書				
成績評価基準	授業態度10%、ミニレポート10%、小テスト20%、定期試験60%			
受講の心構えとメッセージ	<p>発達心理学は私たち、誰もが歩んできた人生と重なり関係するトピックが多くある授業になります。そして、心理学という人を学ぶ学問では、自らも振り返り考えを巡らし、“確かに感じ得る”ことが肝心要となります。</p> <p>授業では、私たち人の発達に関する、知識とともに各段階での特徴が提供されていきます。ぜひとも、私たちの幼少の頃などを思い返し、その時の感覚も再現しながら、これからの歩みも想像しながら、一緒に学んでいきましょう。(確かな学びに向けて、予習・復習を習慣づけて下さい。)</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 保育とは何か／保育の中の心理学
2 回	<保育と心理学> 保育における心理学の位置づけ
3 回	<初期経験の重要性> 気質と環境／文化
4 回	<発達とは何か①> 誕生から乳幼児期まで
5 回	<発達とは何か②> 児童期から老年期まで
6 回	<生涯発達の諸理論> 心の理論／心理社会的発達理論／発達課題
7 回	<愛着の形成> 愛着とはなにか／ホスピタリズム
8 回	<心の育ち> 情動の発達
9 回	<からだの育ち> 身体発育／原始反射からはじまる運動発達
10 回	<考える力の育ち> ピアジェの認知発達理論／同化・調整・表象・操作
11 回	<ことばの育ち> 喃語・幼児語・共同注視と言語発達の臨界期
12 回	<関係のなかでの育ち> 関係発達理論
13 回	<発達と学習> 観察学習／動機づけ／発達の最近接領域
14 回	<発達をつまづきと援助> 特別な支援を要するこどもへの援助
15 回	<よりよい保育のために> 指導計画／自己評価／第三者評価
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
臨床心理学	2年・通年	講義	60時間 (2単位)	野口和也
授業概要	<p>保育者として他の関係機関と連携を行うためには、共通言語である基礎的な知識の習得が必須です。そのため、さまざまな精神疾患の病態・原因論を多面的に理解していきます。そして、それぞれの精神疾患に対する介入方法について学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>現代日本では、300万人以上の方が何らかの精神疾患に罹患しており、現代社会においてこころの問題を抱えることは珍しいことではありません。臨床心理学では、「こころの健康」とは何かを考え、健康的に生きていくとはどのようなことか理解していくことを目的とします。</p> <p>また、臨床心理学の視点からこころの問題を理解し、どのように付き合っていくのかを考察できるようになることを目的とします。</p>			
到達目標	<p>①臨床心理学の基礎的な事項を習得することができる  ②こころの問題について心理学的に理解することができる  ③精神疾患の予防と適切な対応について理解することができる</p>			
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。			
参考書				
成績評価基準	授業態度10%，ミニレポート20%，小テスト20%，定期試験50%			
受講の心構えとメッセージ	<p>臨床心理学は、こころの健康と生活への「適応」を中心に考えていきます。</p> <p>どんな人が精神疾患を患いやすく、どのように治療するのかという医療モデルとともに、どのようにすれば精神疾患に罹患しにくいのか、症状が軽くなるのかという生物心理社会的モデルの考え方を理解していきましょう。</p> <p>精神疾患は決して珍しいことではありません。自分のこととして学んでください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 臨床心理学を学ぶために	16 回	<精神病理の理解⑥> 気分障害
2 回	<臨床心理学の基礎> 異常心理学：何が異常なのか	17 回	<精神病理の理解⑦> 統合失調症 I
3 回	<臨床心理アセスメント①> アセスメントでつなずかないために	18 回	<精神病理の理解⑧> 統合失調症 II
4 回	<臨床心理アセスメント②> 異常行動の分類と診断 (DSMとICD)	19 回	<精神病理の理解⑨> 物質関連障害：依存症の理解
5 回	<臨床心理学的介入方法①> 人間中心主義	20 回	<精神病理の理解⑩> こどもの障害 I ADHD・CD・LD
6 回	<臨床心理学的介入方法②> 学習理論	21 回	<精神病理の理解⑪> こどもの障害 II 知的障害・自閉性障害
7 回	<臨床心理学的介入方法③> 認知理論	22 回	<精神病理の理解⑫> パーソナリティ障害 I
8 回	<臨床心理学的介入方法④> 精神分析	23 回	<精神病理の理解⑬> パーソナリティ障害 II
9 回	<臨床心理学的介入方法⑤> 生物学パラダイム	24 回	<精神病理の理解⑭> 性障害と性同一性障害
10 回	<臨床心理学的介入方法⑥> 家族療法・グループ療法	25 回	<精神病理の理解⑮> 老化と心理的障害
11 回	<精神病理の理解①> 不安障害 I	26 回	<心理療法①> 認知行動療法
12 回	<精神病理の理解②> 不安障害 II	27 回	<心理療法②> 来談者中心療法
13 回	<精神病理の理解③> 身体表現性障害と解離性障害	28 回	<心理療法③> 精神分析療法
14 回	<精神病理の理解④> 摂食障害	29 回	<心理療法④> 家族療法
15 回	<精神病理の理解⑤> 心理生理的障害	30 回	<まとめ> 発達精神病理学という考え方
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと文化	1年・通年	演習	60時間 (2単位)	小西 律
授業概要	理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身につけることと、子ども達が文化によって夢や希望を与えられるだけでなく、自らが文化を創り出す活動や表現が出来るようにすることも視野に入れ学習を行います。また、絵本、紙芝居、パネルシアター、折り紙など文化財、伝統遊びなどの実践に重きをおいた授業を展開します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども達の生活に組み入れられている文化について、その歴史、内容などを理解し、豊かに育ち行く子どものために好ましい文化のあり方を理解することを目的とします。</li> <li>2. 保育現場で使用される文化財の中で、言語に関わる教材を取り上げ、実践することから保育技術の習得を図り、それらが子ども達の生活の中で経験と深く関係していることを理解することを目的とします。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 絵本、紙芝居、劇あそびなど保育の場で使用される子どもの文化財の持つ意義が理論的に理解できる。</li> <li>2. 保育の場で使用される文化財についてその内容及び保育技術を獲得できる。</li> <li>3. 絵本、紙芝居などから子ども達の情緒を豊かに育てることの意義・意味を認識できる。</li> </ol>			
テキスト	こどもと文学／小西律／近畿大学豊岡短期大学／1,000円			
参考書	親子で遊ぶおりがみとラッピング／煤孫勇夫編／パッチワーク通信社／1,470円 読み聞かせ この素晴らしい世界／ジム・トレリース、亀井よし子訳／高文研／1,365円			
成績評価基準	定期試験30%、授業、課題、提出物に取り組む姿勢30%、実践40%で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	保育の場でこどもの文化の占める範囲、位置は広く重いものです。毎日、使用される絵本、紙芝居、折り紙などは一見すると、その場で簡単に出来そうですが、たやすく出来るものではありません。これらは、こどもの日々の生活や成長を考えながら心して選択し、準備しておくことが大切なのです。子ども達の育みを豊かにするためどのような文化が必要なのかを常に考え、常時絵本などを準備する姿勢を持って授業に臨んでください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<こどもと文化の関わり(1)> 意義、歴史、内容、文化活動	16 回	<紙芝居 2> 上演の仕方、手直し、練習
2 回	<こどもと文化の関わり(2)> 成長・発達と遊び、玩具	17 回	<紙芝居 3> 紙芝居の上演(1)
3 回	<伝統文化 1 折り紙(1)> 意義、折り紙の基礎、小動物を折る	18 回	<紙芝居 4> 紙芝居の上演(2)
4 回	<伝統文化 2 折り紙(2)> 季節の植物を折る	19 回	<紙芝居 5> 紙芝居の上演(3)
5 回	<伝承あそび> おはじき、あやとり、おてだま	20 回	<紙芝居 6> 紙芝居の上演(4)
6 回	<絵本 1> こどもと絵本、絵本の種類	21 回	<お話> 意義、選び方 語り聞かせの方法と留意点
7 回	<絵本 2> 絵本の選び方、読み聞かせの方法と留意点	22 回	<パネルシアター 1> パネルシアターと人形劇、意義、作成の仕方と留意点
8 回	<絵本 3> 絵本の読み聞かせ(1) 実践	23 回	<パネルシアター 2> 作成
9 回	<絵本 4> 絵本の読み聞かせ(2) 実践	24 回	<パネルシアター 3> 上演の仕方、練習
10 回	<絵本 5> 絵本の読み聞かせ(3) 実践	25 回	<パネルシアター 4> パネルシアターの上演(1)
11 回	<絵本6> 絵本の読み聞かせ(4) 実践	26 回	<パネルシアター 5> パネルシアターの上演(2)
12 回	<視聴覚教材について> テレビ、ゲーム、コンピュータの効用と課題	27 回	<パネルシアター 6> パネルシアターの上演(3)
13 回	<伝統文化 3> 五節句の歴史、意義	28 回	<伝統文化 4 折り紙(3)> 折り紙で遊ぶ 紙鉄砲、飛行機
14 回	<七夕飾り> 実践	29 回	<伝統文化 5 折り紙(4)> 節分、ひな祭り
15 回	<紙芝居 1> 歴史、特徴、作成の仕方	30 回	まとめ
《定期試験》 有 ・ (無)		《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育課程論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	宿南久美子
授業概要	<p>どのようなことを大切にして(教育・保育目標)、どのような方法で(教育・保育方針)どのようなことを(教育・保育内容)、どの時期に(教育・保育期間)していくかという全体計画が教育課程・保育課程です。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにしていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>幼児教育・保育を理解するための基礎的・基本的な理念をしっかりと捉え、教育課程・保育課程とは何か、なぜ必要であるのかを理解することを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解します。</li> <li>2 教育課程・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に習得します。</li> <li>3 編成・実践・点検・評価・改善の過程について、その全体構造を動的にとらえ理解します。</li> <li>4 保護者や関係機関との連携について学びます。</li> </ol>			
テキスト	<p>教育課程・保育計画総論／田中亨胤・佐藤哲也／ミネルヴァ書房／2,000円＋税</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>上記の到達目標について期末試験により理解度を評価します。          期末試験60％・受講態度・意欲(出席状況も含む)30％、レポート10％、</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>教育課程・保育課程は、教育・保育の内容やあり方を定めるものです。保育者としての意識を高めるよう積極的・主体的な授業参加をしてください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	〈教育課程・保育課程とは何か〉 教育課程・保育課程編成の基本的な考え方
2 回	〈保育カリキュラムの基礎理論〉 保育カリキュラムの意義と必要性
3 回	〈保育カリキュラムの構造〉 保育カリキュラム編成の前提・基盤
4 回	〈幼稚園の教育課程〉 時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方
5 回	〈保育所の保育課程〉 保育計画の基本
6 回	〈保育所の特性をふまえて〉 3歳未満児の発達と保育内容
7 回	〈長期の指導計画〉 園生活と長期の指導計画
8 回	〈短期の指導計画〉 短期指導計画の意義・作成
9 回	〈保育の計画と評価〉 保育の実践と観点表
10 回	〈幼・保・小の連携カリキュラム〉 学びをつなぐ幼・保・小連携のカリキュラム
11 回	〈開かれた園生活のカリキュラム〉 幼稚園を開く・拓く・幼稚園教育を啓く
12 回	〈危機管理保育のカリキュラム〉 危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性
13 回	〈時代の変化と新たな保育内容〉 (1) 多文化保育のカリキュラム
14 回	〈時代の変化と新たな保育内容〉 (2) 総合施設におけるカリキュラム
15 回	〈時代の変化と新たな保育内容〉 (3) 信頼される園づくりと学校評議員制度
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育内容総論	2年・後期	演習	30時間 (1単位)	長尾和美
授業概要	<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示される保育内容と、保育内容の基本的な考え方について学びます。また、視聴覚教材、実践事例、グループ協議などを通して、あそびを中心とした保育内容や総合的な指導のあり方、保育者のかかわりなどについて学んでいきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育所や幼稚園における保育の全体構造について学び、各領域の保育内容を総合的に理解することを目的とします。こどもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開することを理解し、保育の多様な展開について学びます。</p>			
到達目標	<p>①「保育の目標」「こどもの発達」「保育の内容」を関連づけて、保育内容の全体的な構造を理解します。 ②保育の基本を踏まえた子ども理解と、それに基づいて保育内容の展開を考える基本的能力を身につけます。</p>			
テキスト	<p>豊田和子（編）『実践を創造する 演習・保育内容総論』みらい、2010年、2,100円 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年、190円＋税 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成20年10月）』フレーベル館、2008年、190円＋税</p>			
参考書	<p>塩美佐枝（編）『保育内容総論』同文書院、2003年、2,205円 森上 史朗（編）『保育用語事典』ミネルヴァ書房、2010年、2,415円 その他、必要に応じて、授業内で紹介します。</p>			
成績評価基準	<p>出席率・授業態度20%、課題・レポート・発表等30%、定期試験50%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>今まで皆さんが、教育課程、教育方法や各領域などで学んできたことと、実習等で経験したことを少しずつ関連づけながら、保育の内容について考えていきましょう。視聴覚教材や実践事例からのグループ協議なども行いますので、皆さんの積極的な参加を望みます。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 保育内容とは
2 回	<子どもの社会環境> 子どもを取り巻く社会環境の変化と保育内容
3 回	<保育所保育指針にみる保育内容> 保育所の役割と保育内容
4 回	<幼稚園教育要領にみる保育内容> 幼稚園の役割と保育内容
5 回	<子どもの発達と保育内容①> 0～2歳児の保育内容とその展開
6 回	<子どもの発達と保育内容②> 3歳児の保育内容とその展開
7 回	<子どもの発達と保育内容③> 4, 5歳児の保育内容とその展開
8 回	<環境を通しての保育> 保育環境の意義 物的環境と人的環境、目に見えない環境
9 回	<あそびを通して行う保育> 子どもの生活の中心としてのあそび
10 回	<子どもの生活の中の活動と経験> 生活の営みに関わる活動、行事・題材による活動
11 回	<保育内容を展開するプロセス> 保育の計画と評価・反省
12 回	<保育内容の変遷> わが国における保育内容の変遷
13 回	<諸外国の保育内容> 世界の動向と保育カリキュラム
14 回	<これからの保育内容の課題> 多様な保育ニーズ、保幼小連携、多文化共生等を踏まえた保育内容
15 回	<まとめ>
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと健康	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	栗岡 あけみ
授業概要	<p>保育は実践によって成り立つものです。それを実りあるものにするためには理論的学習が必要です。乳幼児期の健康に対する幅広い知識と個々の発育発達の状態に対する配慮の仕方、こどもが健康でたくましく育つための具体的方法について現代社会のこどもを取り巻く生活環境にも目を向けながら、こどもの積極的な健康指導を目指す。</p>			
授業科目の目的	<p>乳幼児期は、生涯にわたって必要となる健康な心と身体の基礎をつくる重要な時期です。こどもの健康を守り育てるためには、実際の保育面で子どもの発達をどのように捉え、どのような内容について、どのように指導し援助するのが効果的かについて積極的に関与し、こどもの個々の健康状態を評価する能力を養うことを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになる。</li> <li>2. 運動遊びを理解し、発達に合わせて適切な内容を選ぶことができる。</li> <li>3. 子どもが基本的な生活習慣を獲得するための援助および指導ができるようになる。</li> <li>4. 安全教育を理解し管理および指導の方法が分かるようになる。</li> <li>5. 健康に関する内容について、指導案を作成することができる。</li> <li>6. 健全な発育・発達を阻害している健康問題を認識・考察し、健康維持の生活についてアプローチしようとする力を養う。</li> </ol>			
テキスト	<p>子どものこころと体を育てる保育内容「健康」 編著 高内正子 保育出版社</p>			
参考書	<p>幼稚園教育要領解説／フレーベル館／文部科学省          保育所保育指針解説書／フレーベル館／厚生労働省          保育用語辞典 ミネルヴァ書房 月間保育とカリキュラム ひかりのくに</p>			
成績評価基準	<p>到達目標の1～6までは、筆記試験、レポート、グループディスカッションなどにより、知識態度の修得を確認する。          受講姿勢・出席率、意欲：10% レポート、グループディスカッション 40%          筆記試験 50%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>日ごろから乳幼児の健康に関するニュースや新聞記事などに関心をもち、現在のこどもたちがどのような健康状態にあるのかを把握しながら受講してください。心と体の健康は相互に関連しあっていることを認識し、実践と理論の結びつきをはかりながら、意欲的に保育者としての感性を磨いてください。</p>			
その他	<p>必要に応じて参考になるプリントを配布しますので、ファイルしておいてください。講義の終わりに次回までの予習する内容と講義の振り返り内容などを示します。予習復習を行って講義にのぞんでください。</p>			

## 授業内容及び回数

1 回	<領域「健康」の理解> 「健康」とは何か（保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容の理解）
2 回	<行事と健康> ① 伝統的民族行事と子どもの健康
3 回	<行事と健康> ② 保育行事と子どもの健康な育ち
4 回	<子どもの遊びと健康> ① 子どもの健康と自然環境
5 回	<子どもの遊びと健康> ② 子どもの遊びと健康
6 回	<子どもの遊びと健康> ③ 子どもの健康と土踏まず
7 回	<健康な成長を促す運動> ① 子どもの運動発達について
8 回	<健康な成長を促す運動> ② 子どもの健康と運動指導（指導案作成）
9 回	<子どもの心の健康> ① 子どものこころの発達
10 回	<子どもの心の健康> ② 子どもの健康と虐待
11 回	<子どもの健康と喫煙教育> 子どもを取り巻く喫煙環境と害
12 回	<愛情あふれる「いのち」の教育> わが国における性教育といのちをめぐる問題点
13 回	<保育環境の安全性> ① 子どもの健康と食生活
14 回	<保育環境の安全性> ② 子どもの安全教育
15 回	子どもと保育内容「健康」のまとめ
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育指導法) こどもと人間関係	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	野口和也
授業概要	<p>こどもを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々な活動をととした人間関係の発達について解説していきます。また、人と人が接し共に理解し合い協働で活動を展開していく保育においても、「保育者の人間関係」を視野に入れながら、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していきます。人は人のとの中で生きその関係の中で育ちゆくという視点を中心に、「保育内容における人間関係」の基礎の習得を目指します。</p>			
授業科目の目的				
到達目標	<p>①保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できる。 ②人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子ども深く理解し説明することができる。 ③養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性についても考察することができる。</p>			
テキスト	保育内容 人間関係／小田 豊・奥野正義編／北大路書房／1,700円			
参考書				
成績評価基準	授業態度10%、レポート40%、定期試験50%			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育内容の「こどもと人間関係」という領域は大変身近かつ日常的なものとなります。保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域を確実に理解するとともに、実践活動を意識しながら基礎的な知識を積み上げていきましょう。</p> <p>また、この授業で取り上げる「人間関係」は広範囲に渡りますので、それは私たち自分自身のことを考える機会になりえるかも知れませんし、私たちが出会えた大切な人々、仲間との人間関係についても考察を深めていく時間になれば良いと思います。(予習・復習を行い授業に臨むことが知識として、実践技術として身に付くための必要条件となります。)</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 保育内容における「人間関係」の位置づけ
2 回	<現代社会とこどもの人間関係①> 人間関係の始まりと愛着
3 回	<現代社会とこどもの人間関係②> 最初の社会としての家族
4 回	<領域「人間関係」の考え方①> 領域「社会」から「人間関係」へ
5 回	<領域「人間関係」の考え方②> 現在の領域「人間関係」の考え方
6 回	<「人間関係」の展開①> つまずきと葛藤の中で育つ力
7 回	<「人間関係」の展開②> ルール・決まり事の意味・意義
8 回	<「人間関係」の発達> 道徳性の発達
9 回	<「人間関係」の発達> 共感性の発達
10 回	<保育者とこどもの「人間関係」①> 「遊び」の中で育つもの
11 回	<保育者とこどもの「人間関係」②> 人間関係を育てる保育者の役割
12 回	<保育者の人間関係①> 保育者－養育者：育児支援者としての保育者
13 回	<保育者の人間関係②> 保育者－保育者：チーム保育と園内協力体制
14 回	<保育者の人間関係③> 保育者－関係機関：発達支援システムと関係機関との連携
15 回	<地域子育て支援にかかわる人間関係> 地域子育て支援センターとしての幼稚園・保育所
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育内容の研究) 子どもと環境	1年・前期	演習	30時間 (1単位)	赤木 公子
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「環境」から、人的・物的・社会的環境及び自然環境のもつ役割や意味、こどもの発達と豊かな環境とのかかわりについて、知識の習得を図ります。保育者として具体的な活動や事例を通して理解を深めていきます。また、植物の栽培や、物・自然物とかかわる保育演習を通して、子どもに生命への畏敬の念や、探究心を養っていくことの重要性を習得します。			
授業科目の目的	「環境を通して行う」という幼稚園・保育所の保育の特質を踏まえ、子どもをとりまく環境とのかかわりについて実践的に学びます。保育における環境の重要性やその意味を考えるとともに、幼児期の発達の特性を踏まえた環境構成や援助の在り方についての理解を深めることを目的とします。			
到達目標	①幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいや内容について理解します。 ②子どもを取り巻く環境とのかかわりと、それに伴う子どもの発達のあり方の理解を深めます。 ③保育実践における環境構成と援助のあり方についてを習得します。			
テキスト	演習 保育内容 環境 柴崎正行 編著 建帛社 1,470円			
参考書	新 子どもと環境 小田 豊 編著 三晃書房 2,310円 保育内容 環境 日名子 太郎・細野 一郎・藤樫 道也 共著 1,700円 こども環境から考える保育内容 大橋喜美子・三宅茂夫 編著 2,310円			
成績評価基準	以下の3つの到達目標について、課題発表とレポート提出、期末試験により理解度を評価します。 ①幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「環境」のねらいや内容について理解します。 ②子どもを取り巻く環境とのかかわりと、それに伴う子どもの発達のあり方の理解を深めます。 ③保育実践における環境構成と援助のあり方についてを習得します。 定期試験を60% 課題・発表20% レポートを20% として総合的に評価します。			
受講の心構えとメッセージ	この科目は「演習」科目です。従ってテスト成績が良いだけでは不十分です。保育者として、子どもとどのように関わり、どのように成長・発達を支援するかを考えて、保育力・教師力を身につけることを目指して授業に参加してください。こどもと同じ目線にたって指導することを念頭におき、ひとつの事例に対して自分ならばどのように誘導・指導するかを常に具体的に考えて積極的に取り組んでください。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 「こどもと環境」を学ぶことの意義
2 回	保育の基本とは何か
3 回	領域「環境」の位置づけ
4 回	こどもと環境のかかわり(1) 自然環境
5 回	植物の栽培実習 ミニトマトや夏野菜を植える
6 回	自然物とかかわる保育演習 草花でつくる色水遊び・シャボン玉遊び
7 回	こどもと環境のかかわり(2) 物的環境
8 回	物とかかわる保育演習 紙飛行機・折り紙
9 回	こどもと環境のかかわり(3) 人的環境
10 回	こどもと環境のかかわり(4) 社会環境
11 回	「環境」に関する指導計画作成 長期計画（年間計画・期案）の作成演習
12 回	「環境」に関する指導計画作成 中期・短期計画（週案・日案）の作成演習
13 回	文字・数量への興味、関心の育成
14 回	領域「環境」と保育方法
15 回	領域「環境」と保育の実際 思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつ保育
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育指導法) こどもと言葉	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	小西 律
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、相互の意見交換や文字への興味、言葉の持つ楽しさや、言語教材についても実践的な取り組みを行い、言葉を獲得するとはどういうことなのかを探求します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とします。</li> <li>2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢などについて理解することを目的とします。</li> <li>3. こどもの豊かな言葉を育む保育者の言葉のあり方について認識し、理解することを目的とします。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉の獲得過程を理解できる。</li> <li>2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友だち、保護者との関係から認識し理解できる。</li> <li>3. ヘレンケラーの事例から人間の言葉の持つ意味を捉え、認識できる。</li> <li>4. こどもの手本となる保育者の言動のあり方を認識し、理解できる。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントを作成します。			
参考書	保育内容 実践と研修シリーズ「ことばの育ち」／村石昭三／フレーベル館／1,800円 魅力ある保育者たち／高石自子／ひかりのくに／1,200円			
成績評価基準	定期試験 50%、レポート・作品・実践 20%、授業・課題に取り組む姿勢 30% で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	人は人に生まれ人としての成長をします。その人との関わりの過程から言葉は獲得されるものです。言い換えれば、言葉を通して人は成長していくといえましょう。言葉はその人の人間性を表現するもの、こども達の言葉の発達を豊かに育むことを目指して授業にのぞんでください。授業の中で子ども達のことばの聞き取りを毎時の課題とします。詳しくは授業中に説明します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<言葉の位置付けと他領域との関わり／言葉と生活(1)> 言葉とは何か 聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと
2 回	<言葉と生活(2)> 領域「言葉」について 「言葉」の意義
3 回	<言葉と生活(3)> 領域「言葉」について 「言葉」の内容
4 回	<乳幼児期の言葉の発達 1> 0歳～2歳
5 回	<乳幼児期の言葉の発達 2> 3歳
6 回	<乳幼児期の言葉の発達 3> 4歳～就学前
7 回	<『奇跡の人』視聴> サリバンの教育と言葉のもつ意味
8 回	<『奇跡の人』視聴> サリバンの教育と言葉のもつ意味
9 回	<言葉から文字へ 1> 文字への関心、文字による環境、文字体験としてのカルタ、絵カード製作
10 回	<言葉から文字へ 2> 文字体験としてのカルタ、絵カード製作
11 回	<言葉から文字へ 3> 製作したカルタ、絵カードによる実践あそび
12 回	<言葉の環境 1> 母親との関わり、母親の言葉掛け
13 回	<言葉の環境 2> 保育者との関わり、保育者の言葉のあり方
14 回	<言葉をめぐる問題> 言葉のおくれや障碍、標準語と地域語、外国のこどもとの対応
15 回	<幼稚園、保育園と小学校との関連> 「言葉」と小学校、小学校の文字指導に繋ぐには <まとめ>
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育指導法) こどもと言葉Ⅱ	1年・後期	演習	30時間 (1単位)	小西 律
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、相互の意見交換や文字への興味、言葉の持つ楽しさや、言語教材についても実践的な取り組みを行い、言葉を獲得するとはどういうことなのかを探求します。			
授業科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解することを目的とします。</li> <li>2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話聞く姿勢などについて理解することを目的とします。</li> <li>3. こどもの豊かな言葉を育む保育者の言葉のあり方について認識し、理解することを目的とします。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の言葉の獲得過程を理解できる。</li> <li>2. 子ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友だち、保護者との関係から認識し理解できる。</li> <li>3. こどもの手本となる保育者の言動の在り方を認識し、理解できる。</li> </ol>			
テキスト	必要に応じてプリントを作成します。			
参考書	保育内容 実践と研修シリーズ「ことばの育ち」／村石昭三／フレーベル館／1,800円 魅力ある保育者たち／高石自子／ひかりのくに／1,200円			
成績評価基準	定期試験 50%、レポート・作品・実践 20%、授業・課題に取り組む姿勢 30% で評価します。			
受講の心構えとメッセージ	人は人に生まれ人としての成長をします。その人との関わりの過程から言葉は獲得されるものです。言い換えれば、言葉を通して人は成長していくといえましょう。言葉はその人の人間性を表現するもの、こども達の言葉の発達を豊かに育むことを目指して授業にのぞんでください。授業の中で子ども達のことばの聞き取りを毎時の課題とします。詳しくは授業中に説明します。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<生活とことば> 人間と言葉、こどもと言葉
2 回	<乳幼児期の言葉の獲得と発達の持つ意味 1> 言葉獲得の過程 ①
3 回	<乳幼児期の言葉の獲得と発達の持つ意味 2> 言葉獲得の過程 ②
4 回	<言葉の障碍> 言葉のおくれ、障碍についての要因とその指導
5 回	<保育者と言葉> こどもとの信頼を築く保育者の言葉のあり方と課題
6 回	<言葉の環境> 家庭、園、友達
7 回	<幼稚園教育要領と保育所保育指針を学ぶ> ねらいと内容、他領域との関連
8 回	<「言葉」指導案作成 1>
9 回	<「言葉」指導案作成 2>
10 回	<「言葉」指導案作成 3>
11 回	<言葉と文化財 1> ことばと言語教材のもつ意義、絵本・お話・パネルシアター・紙芝居など
12 回	<言葉と文化財 2> パネルシアターの製作 ①
13 回	<言葉と文化財 3> パネルシアターの製作 ②
14 回	<言葉と文化財 4> パネルシアターの実践
15 回	<まとめ>
《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育指導法) こどもとリズム表現	1年・前期	演習	15時間 (1単位)	茨木金吾
授業概要	<p>子どもの活動は、一つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識や技能と関連させながら、子どもにとっての表現とは何か、保育の中でどのような意味を持つのか、表現する力を育てるとはどのような事なのかを、ドラマにおける表現方法、幼児用楽曲等を使用しての音楽表現、ごっこ遊びや劇遊び等の遊びを通しての身体表現から、その理論と実践方法を学習し、指導援助者としてのあるべき姿を追求していきます。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を、自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現的領域、言語表現的領域から見だし、保育指導法を習得していくことを目的とします。また、子どもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識をもあわせて習得します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術が習得できます。</li> <li>2. 表現する力を育てるための手法を、身体表現、音楽表現の分野から実践を通して習得できます。</li> <li>3. 表現する力を育てるための保育者の役割と援助のあり方を、ごっこ遊び、劇あそびを展開する中で考察し、そのきっかけをつかむことができます。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 圭文社</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 すずき出版</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験(習得した実践内容+講義内容を合わせた試験)……80%</li> <li>2. 学習態度、意欲……20%</li> </ol> <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>積極的に動き、グループ内での協調性を大切にしていき、幼稚園教諭及び、保育士を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	領域「表現」についての基本的な考え方 幼稚園教育要領・保育所指針における領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定の理解 (この回のみ、45分授業)
2 回	表現する力を育てるための実践方法……① 表現活動をのびのびと行える環境作りについて、その重要性と実践方法について
3 回	表現する力を育てるための実践方法……② 身体的表現(歩く、走る、スキップ、ギャロップの基本リズムパターンの理解とその応用)
4 回	表現する力を育てるための実践方法……③ 身体的表現(ムーブメント(動くこと)について)
5 回	表現する力を育てるための実践方法……④ 音楽的表現(打楽器の取り扱い方から演奏を主とした表現活動について)
6 回	表現する力を育てるための実践方法……⑤ 音楽的表現(手作り楽器の製作から、演奏を主とした表現活動について)
7 回	表現する力を育てるための保育者の役割と援助……① ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現
8 回	表現する力を育てるための保育者の役割と援助……② ごっこ遊び、劇遊びを主とした表現 その発表とふりかえり
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
(保育指導法) こどもとりズム表現Ⅱ	2年・後期	演習	15時間 (1単位)	茨木金吾
授業概要	<p>子どもの活動は、一つの領域にとどまるのではなく、他領域での知識や技能と関連させながら、子どもにとっての表現とは何か、保育の中でどのような意味を持つのか、表現する力を育てるとはどのような事なのかを保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方から考察していきます。また、保育における伴奏法のあり方を、理論と実践方法を通して学習することにより、指導援助者としての付加技能の重要性を追求します。</p>			
授業科目の目的	<p>保育の内容を理解し、子どもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を、保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方を考察することにより、この領域における保育指導法を探究し、子どもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識を習得することを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所指針における、領域「表現」(特にリズム表現(含む身体表現))の位置づけと設定が理解できます。</li> <li>2. 保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方を、実践を通して習得できます。</li> <li>3. 保育における伴奏法のあり方を、理論と実践から習得できます。</li> <li>4. グループワークを展開することにより、他者と協調した身体表現を作成することができます。</li> </ol>			
テキスト	<p>こどものうた [簡易伴奏曲付] / 田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・小杉裕子編著 圭文社</p>			
参考書	<p>たのしく遊べるこどものうた[改訂版] / 大山美和子・田中常雄・磯貝静江・茨木金吾著 すずき出版</p>			
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験……50%</li> <li>2. レポート発表……20%</li> <li>3. グループワーク発表……20%</li> <li>4. 学習態度、意欲……10%</li> </ol> <p>上記に示した割合で評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>積極的に動き、グループ内での協調性を大切にしていき、幼稚園教諭及び、保育士を目指して学習しているのだという目的意識を持って、授業に望むことが大切です。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	領域「表現」についての基本的な考え方の整理 こどもとリズム表現の講義内容の再認識（この回のみ、45分授業）
2 回	保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方……① わらべ歌と童謡について
3 回	保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方……② 季節、行事ごとに使用される楽曲について
4 回	保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方……③ アニメソングについて
5 回	保育における幼児用楽曲の種類と、その楽曲を用いた表現教材のあり方……④ 表現教材についての分析と、その結果のレポート作成
6 回	保育における伴奏法のあり方について 表現教材を生かすための伴奏法のあり方
7 回	表現教材を取り入れた身体表現の作成と発表……グループワーク 作成
8 回	表現教材を取り入れた身体表現の作成と発表……グループワーク 発表とふりかえり
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
こどもと造形表現	1年・前期	演習	15時間 (1単位)	岩田 健一郎
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をします。さらに遊びとモノとの関わりから、「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験を関連づけながらの学習も展開します。			
授業科目の目的	保育内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、子どもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識と、さらに材料・用具の操作体験など実践学習を通して、体験的に技術的なことも学習します。			
到達目標	①保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本的なことが理解できることを目標にします。 ②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標にします。 ③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標にします。			
テキスト	こどもと造形Ⅰ／岩田健一郎・船井武彦／近畿大学豊岡短期大学 こどもと造形表現Ⅰ／船井武彦／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	授業の中で紹介します。			
成績評価基準	以下の3つの到達目標について提出課題（作品等）と定期試験により理解度を評価します。 ①保育指導法「表現」のねらいと内容等にもとづいた保育の基本的なことが理解できる。 ②乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 ③乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。 受講姿勢・出席率：10%、課題（作品等）の内容・提出状況：40%、期末試験50%などにより総合的に数量化して評価します。			
受講の心構えとメッセージ	乳幼児がモノに触れ、それらを通した表現活動は、子どもたちの豊かな育ちのために重要不可欠なことです。乳幼児の表現を理解し、これからの時代を生きていくための基礎的な力、人間としての土台を培っていく保育者の役割を自覚し、保育の展開と援助のための力を身につけてください。 また、授業時間外の学習として、子どもの造形表現のありようを地域の子どもたち、幼稚園等の現場での造形物や遊ぶ姿を観察し、発達段階と表現の関係を理解していくことも心がけてください。			
その他	「こどもと造形Ⅰ」「こどもと造形表現Ⅰ」のテキストと「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説書」を毎回持ってきてください。			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション（学習の進め方と心構えについて） 子どもの表現について
2 回	保育所保育指針・幼稚園教育要領における「感性」と「表現」について 乳幼児期の発達区分と造形活動の特徴と領域について
3 回	子どもの造形表現の環境づくりと援助について①（おおむね1歳未満児から2歳児）
4 回	子どもの造形表現の環境づくりと援助について②（おおむね2歳児から3歳児）
5 回	子どもの造形表現の環境づくりと援助について③（おおむね4歳児から6歳児） 小学校との連携について
6 回	教材研究 指導計画と教材について（講義と実践的な学習）
7 回	同 上
8 回	同 上 保育内容の課題について
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育方法論	2年・前期	講義	30時間 (2単位)	赤木公子
授業概要	<p>現今の教育現場の諸問題について考える時、ここに至るまでの、長い教育方法の歴史の変遷が見えてきます。本授業では、保育・教育方法の変遷をみつめながら、現在の幼稚園・小中学校の学級経営に関する領域までの保育・教育方法の基礎概念を習得します。テキストを中心としながら、教育現場の諸問題と保育・教育方法の関連性に着眼しつつ保育・教育方法の基礎理論の習得を目指します。</p>			
授業科目の目的	<p>教育方法の定義・意義・守備範囲など大きな概念についての基礎知識を習得し、更に教育の目標・教育内容・評価との関係性についての理解を深めます。また、教育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な教授方法や活用方法についての理解を深めることを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義・意義・守備範囲・教育目標・教育内容・教育評価との関係について理解できます。</li> <li>2. 教育方法の歴史的展開について理解できます。</li> <li>3. 教育メディアの発達と教育技術の革新について理解できます。</li> <li>4. 授業の概要と学習指導の形態について理解できます。</li> <li>5. 生徒指導の原理・方法・実際について学び、授業と生徒指導のかかわりについて理解できます。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育の方法について理解できます。</li> </ol>			
テキスト	教育の原理／林 勲／法律文化社／2,300円			
参考書	教育方法学／佐藤学／岩波書店／2,200円など			
成績評価基準	<p>以下の6つの到達目標について小テストと期末試験により理解度を評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育方法の定義・意義・守備範囲・教育目標・教育内容・教育評価との関係について理解できます。</li> <li>2. 教育方法の歴史的展開について理解できます。</li> <li>3. 教育メディアの発達と教育技術の革新について理解できます。</li> <li>4. 授業の概要と学習指導の形態について理解できます。</li> <li>5. 生徒指導の原理・方法・実際について学び、授業と生徒指導のかかわりについて理解できます。</li> <li>6. 幼児の発達と幼児教育の方法について理解できます。</li> </ol> <p>定期試験（小テスト含む）70%、意欲・態度30%などにより総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>基本となる理論を踏まえた上で、実際に授業や保育を進める場面を想定しながら、諸問題に対しての有効な保育・教育方法であるかどうか、自分ならどうするかと主体的に考える姿勢で授業に臨んでください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	教育方法とは何か(1) 教育方法の定義・意義
2 回	教育方法とは何か(2) 教育方法の守備範囲、教育目標・教育内容・教育評価との関係
3 回	教育方法の歴史的展開(1) 近代の教育方法
4 回	教育方法の歴史的展開(2) 現代の教育方法
5 回	我が国における教育方法の変遷
6 回	教育メディアの発達と教育技術の革新
7 回	授業の概念と学習指導の形態(1)
8 回	授業の概念と学習指導の形態(2)
9 回	教育課程の構成原理とカリキュラムの分類
10 回	授業と生徒指導の実際
11 回	幼児教育の方法(1) 乳幼児の理解と保育方法
12 回	幼児教育の方法(2) 近代以降の保育方法
13 回	保育記録・省察・保育計画
14 回	保育内容と小学校の教育内容
15 回	教育方法の課題と展望
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育相談	2年・後期	講義	30時間 (2単位)	藤井太郎
授業概要	教育相談の究極的な目的は、いうまでもなく子どもの人間形成、人格形成にあります。幼児、児童、生徒を対象にした保育現場における教育相談に重点を置き、発達と成長の基礎理論、生活指導、しつけ、学習適応、進路指導等について学びます。また、カウンセリングの基本的態度を身につけ、様々な心理アセスメント（心理テスト）を活用しよう。			
授業科目の目的	教育相談とは、一人ひとりの子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親や保育士、教員などに助言、指導、そして場合によってはカウンセリングを行うことです。このような働きかけを通して、子どものもつ悩みや問題の解決を援助し、さらにはその子どもの望ましいあり方や人格の成長をめざしていくことです。安心してよりよい教育を受けられるよう指導助言ができる基礎理論の理解と実際について学びます。			
到達目標	カウンセリングの基本の態度「共感的理解の態度」「受容・肯定的尊重の態度」「純粹・自己一致の態度」を身につけ心理アセスメントについて知り、活用できるようになろう。また、自らがカウンセラーとしての望ましい人格①「自己を確立している人」②「自己を理解している人」③「権威主義的でない人」④「感受性が高く、しかも情緒的に安定している人」をめざします。			
テキスト	「教育相談」／澤田 瑞也・吉田圭吾 著／近畿大学豊岡短期大学			
参考書	「教育相談の実際」／中野明德 著／東洋館出版社			
成績評価基準	出席態度、意欲、関心20%。レポート20%。プレゼンテーション10%。期末試験50%。総合評価をする。			
受講の心構えとメッセージ	心理テストはいろいろなものがあります。自分の興味のあるものを探し自分の得意技にしたいですね。人物画、樹木画、ロールシャッハ・テスト、S-M社会性発達検査、WISC-R知能検査、乳幼児発達検査、YG性格検査などを活用してどんな人にもどんな相談にも応じられる力（心構えとカウンセリングの態度）を身につけて欲しい。また、調べ学習を通して自分の興味のある教育相談の分野を見つけ深め発表してほしい。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	教育相談の基本(1) 教育相談の概要
2 回	教育相談の基本(2) カウンセリングの基本
3 回	教育相談の基本(3) カウンセリングにおける共感
4 回	教育相談と心理アセスメント
5 回	子どもの自己理解を進める技法 (1) 自己表現と自己理解
6 回	子どもの自己理解を進める技法 (2) 自己理解の技法
7 回	保育園・幼稚園における園児への心理的援助および保護者との教育相談
8 回	小学校における児童への心理的援助および親の教育相談
9 回	教育相談の実際 (発達障害・知的障害)
10 回	教育相談の実際 (不登園)
11 回	教育相談の実際 (いじめ)
12 回	教育相談の実際 (虐待)
13 回	教育相談の実際 (非行)
14 回	教育相談と家庭・学校・地域
15 回	復習 (カウンセリングの基本と心理アセスメント)
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育・教職実践演習(幼稚園)	2年・後期	演習	30時間 (2単位)	赤木公子 宿南久美子
授業概要	<p>本授業では大学での活動を通じて学生自身の教員としての資質能力がどの程度形成されているかを確認し、教員になるうえで自らの課題を自覚し、その克服と習得に努め、教職生活を円滑にスタートできることを目的としています。</p> <p>そこで、学校現場の視点を十分に取り入れながら、教員として働く意味や使命感を再確認し、様々な場面を想定した事例検討や保育カンファレンス、模擬保育を通して教員としての実践力の獲得を図ります。</p>			
授業科目の目的	<p>本授業では、短期大学で学んだ学習知と教育実習等で得られた実践知との統合を図り、教師・保育者として使命感や責任感のある実践的指導力を身につけるとともに、教員としての資質能力の形成と、研修などを通じた自己研鑽に努めることの自覚をもち教職生活の円滑なスタートを目指すことを目的としています。</p>			
到達目標	<p>①教員として働く意味や使命感について理解できます。</p> <p>②教員としての資質・能力を確認し、高めることができます。</p> <p>③教員としての実践的な指導力を身につけることができます。</p>			
テキスト	上長 然・國光みどり 保育・教職実践演習 近畿大学豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	<p>以下の3つの到達目標について課題発表とレポート、期末試験により理解度を評価します。</p> <p>①教員として働く意味や使命感について理解できます。</p> <p>②教員としての資質・能力を確認し、高めることができます。</p> <p>③教員としての実践的な指導力を身につけることができます。</p> <p>定期試験60% 課題・発表20% レポート提出20%などにより総合的に数量化して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育・教職実践演習は、教職課程の総まとめに位置づけられています。</p> <p>本授業を通して自らの実情を確認し、克服すべき点を意識しながら克服し、さらに習得すべき点は習得すると言うように、よりよい教員になるための授業にいきましょう。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 授業の概要と到達目標の確認、学生自身による自己目標の設定
2 回	教職の意義と学級経営の概要
3 回	保育における学級経営① 課題のあるこどもへの対応
4 回	保育における学級経営② 保育者自身の指向性
5 回	保育における学級経営③ 人間教育の観点から
6 回	保育カンファレンス① まなび
7 回	保育カンファレンス② かかわり
8 回	保育カンファレンス③ いのち
9 回	保育カンファレンス④ 魅力ある保育者
10 回	特別支援教育への理解 特別支援教育と教師・保育者
11 回	模擬保育①
12 回	模擬保育②
13 回	模擬保育③
14 回	保幼小連携
15 回	異校種・他機関・地域との連携
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
乳幼児保育	2年・前期	演習	30時間 (2単位)	長尾和美
授業概要	<p>本授業では、乳児保育の歩みと現状、乳児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにします。また、集団における乳児保育の内容と方法について学び、保育者の役割について考えていきます。</p>			
授業科目の目的	<p>わが国の乳児保育の変遷と、現代社会における家庭や子育ての現状を学び、その意義を理解します。また、乳児期の発達を理解し、保育者として必要な知識や技術を身につけます。そこから、乳児保育の実践に向けたイメージを掴み、保育観を養っていきます。</p>			
到達目標	<p>①「乳児保育」の意義と重要性を理解します。 ②乳児の発達を理解し、保育者として必要な援助の方法や技術を身につけます。</p>			
テキスト	<p>『演習 乳児保育の基本』 阿部和子編、萌文書林、2011年(第2版)、2,100円 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省、フレーベル館、2008年、190円+税</p>			
参考書	<p>『乳児保育』 CHS子育て文化研究所編、萌文書林、1,890円 『乳児保育』 大橋貴美子編、(株)みらい、2009年、2,100円 他</p>			
成績評価基準	<p>出席状況と授業への参加態度20%、課題・レポート等提出物20%、定期試験60%で総合的に評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>現代の日本社会では、核家族化、都市化などによって家族の形が多様化しており、待機児童問題、虐待などの問題が顕在化し、乳児保育に対する必要性は日増しに高まっています。乳児期の重要性を充分理解した上で、将来保育者として乳児と関わることが出来るよう授業に取り組んでください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<オリエンテーション> 乳幼児保育とは
2 回	<乳幼児保育の歴史、背景と制度> 乳児保育の意義、制度化、その背景
3 回	<現代社会と乳幼児保育> 現代社会における乳児、乳児保育の場
4 回	<乳児の発達とあそび①> 6ヶ月未満児
5 回	<乳児の発達とあそび②> 6ヶ月～1歳3ヶ月未満の乳児
6 回	<乳児の発達とあそび③> 1歳3ヶ月～2歳未満の子ども
7 回	<乳児の発達とあそび④> おおむね2歳の子ども
8 回	<乳児の生活> 遊ぶ・食事・睡眠・排泄など
9 回	<保育演習> 乳児の生活への援助
10 回	<集団保育における安全と健康> 健康管理・清潔・事故・病気への配慮と処置
11 回	<乳児保育の計画> 保育計画と指導計画、保育の記録と反省・評価
12 回	<乳幼児保育における連携> 家庭と連携、職場内での連携、他機関との連携
13 回	<乳幼児保育と子育て支援> 現代社会における地域子育て支援
14 回	<乳幼児保育の課題> 待機児童、虐待、外国人児童（多文化共生）、保育者の労働環境、等
15 回	<まとめ> 今までの復習、補足説明など
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
社会的養護内容	1年・後期	演習	15時間 (1単位)	橋本好広
授業概要	『社会的養護』で学んだ知識を踏まえ、要保護児童の問題について、いかにして取り組めばよいのかという考え方を教授する。また、自立支援との関係についても触れることとする。			
授業科目の目的	社会的養護の問題についての取り組むこと、また、自立支援との関係についても理解する。			
到達目標	社会環境の変容は家庭や地域社会に影響を与えているが、なかでも家庭の変容は子どもの心身の成長・発達に影響を与え、不適応行動を顕在化させている子どもが増加している。厳しい社会を生き抜く力を育て円滑な人間関係を持つことが出来るよう子どもを育てる社会的養護内容という視点で基本理念を理解することを目標とする。			
テキスト	櫻井奈津子 『子どもと社会の未来を拓く 社会的養護の実践』 青踏社			
参考書				
成績評価基準	定期試験を80%、平常点（講義中の態度・意欲など）を20%とする。なお、定期試験は3回以上講義を欠席（遅刻および早退は20分未満とし、それ以上は欠席、また遅刻・早退2回につき欠席1回として取り扱う）すると受験できないものとする。			
受講の心構えとメッセージ	テキストを中心に講義を進めるのでテキストを忘れないこと。 学生の主体的参加を望む。			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	養護における基本的理解 児童の権利擁護
2 回	保育士等の倫理および責務 支援者として資質について
3 回	施設養護の特性および実際① 児童養護の体系と児童福祉施設の概要について
4 回	施設養護の特性および実際② 児童養護施設の暮らし
5 回	施設養護の特性および実際③ 乳児院と母子生活支援施設の暮らし
6 回	施設養護の特性および実際④ 障害児入所施設に暮らし
7 回	施設養護の特性および実際⑤ 児童自立支援施設と情緒障害児短期治療施設の暮らし
8 回	心の傷を癒し、心を育むための援助 虐待された子どもへの援助、子どもと家族への支援、児童相談所との連携について
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 (有) ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習	1年・後期 2年・前期	実習	180時間 (4単位)	宿南久美子
授業概要	<p>保育現場で幼児との関わりを数多く経験しながら、幼児理解を深めます。また、実践力を養うとともに幼稚園教諭の役割を理解します。1年次附属幼稚園での4日間の実習経験を基に、2年次4月～7月にA・Bクラスに分かれ1日実習を実施します。さらに、9月に学外（主として出身園）での実習を2週間実施します。</p>			
授業科目の目的	<p>実習は、幼児や保育に関して習得してきた内容を保育の実際の中で確認し、体験的に学ぶ機会です。「実習で何を学びたいか」という明確な目的や学習課題をもち、保育者をめざそうとする心構えで積極的に臨むことを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児の観察や関わりを通して、幼児への理解を深めます。</li> <li>2 幼稚園教諭の専門性と職業倫理について、具体的な実践に結び付けて理解します。</li> <li>3 幼稚園教諭としての自己課題を明確化します。</li> </ol>			
テキスト	<p>保育実習・教育実習第6版／待井和江・福岡貞子編／ミネルヴァ書房／2,520円</p>			
参考書				
成績評価基準	<p>各実習園からの評価80%、実習日誌等提出物の状況20%</p>			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育現場では学生であっても保育者としての自覚をもち、わきまえのある態度で臨んでください。</li> <li>• 保育者としての身だしなみを考え、常に自己責任を意識しながら実習現場に立ってください。</li> <li>• 幼児をさまざまな視点から観る目と、感性を養う努力をしてください。</li> <li>• 先生が楽しければ幼児も楽しいです。何よりも保育の楽しさを見つけましょう。</li> </ul>			
その他				

## 授業内容及び回数

### 1 実習期間

実習期間は、以下の予定である。ただし、実習先の状況により変更する場合もある。

#### ○平成24年度入学生

〔附属幼稚園での実習〕 4日間

平成25年2月12日(火)～3月14日(木)のうち4日間

平成25年4月12日(金)～7月23日(火)のうち8日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習する)

〔学外幼稚園での実習〕

平成25年9月2日(月)～9月14日(土) 2週間

#### ○平成25年度入学生

〔附属幼稚園での実習〕 4日間

平成26年2月10日(月)～3月13日(木)のうち4日間

平成26年4月11日(金)～7月25日(金)のうち8日間

(A・Bクラスに分かれ、隔週の金曜日に実習する)

〔学外幼稚園での実習〕

平成26年9月1日(月)～9月13日(土) 2週間

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
教育実習事前・事後指導	1年・後期 2年・通年	実習	45時間 (1単位)	宿南久美子
授業概要	教育実習は、学生の立場から幼児を導く立場に立って考える機会です。1年次2月～3月・2年次前期に行われる実習（附属幼稚園）、9月の学外実習（主に出身園）に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育について知識・技能、態度等を総合的に学びます。			
授業科目の目的	教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学びます。また、幼児の発達の特徴や発達過程を踏まえ、観察の視点と方法、指導案の作成等を習得することを目的とします。 また実習後、総括と自己評価を行い、課題や目標を明確にすることを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児教育の基礎理論を学びます。</li> <li>2 実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学びます。</li> <li>3 保育者の専門性と職業倫理について学びます。</li> <li>4 観察や幼児との関わりを通して、幼児への理解を深めます。</li> <li>5 指導案を作成し、幼児理解や教師の援助の方法、環境構成等について学びます。</li> <li>6 事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にします。</li> </ol>			
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習・教育実習第6版／待井和江・福岡貞子編／ミネルヴァ書房／2,520円</li> <li>・幼稚園教育実習事前・事後指導／近畿大学豊岡短期大学</li> </ul>			
参考書				
成績評価基準	受講態度・意欲（出席状況も含む）40%、観察記録・指導案等の提出物60%			
受講の心構えとメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で保育の楽しさを体験するために、事前指導で大切なことをしっかり学びましょう。</li> <li>・教育実習事前指導用ファイルを作っておいて下さい。毎回持参すること。</li> </ul>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	<p>〈実習の意義と目的〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習とは何か</li> <li>・実習で学ぶこと</li> </ul>	16 回	<p>〈保育指導案の作成〉</p> <p>③ 4歳児の指導案立案</p>
2 回	<p>〈実習の内容と方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・参加・責任実習</li> </ul>	17 回	<p>〈保育指導案の作成〉</p> <p>④ 5歳児の指導案立案</p>
3 回	<p>〈子どもを取り巻く様々な環境〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちと新幼稚園教育要領との関係</li> <li>・幼稚園・保育園・認定こども園の役割</li> </ul>	18 回	<p>〈研究保育の映像記録から〉</p> <p>「子どもとともに深める」</p>
4 回	<p>〈教育課程・指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期指導計画</li> </ul>	19 回	<p>〈研究保育の映像記録から〉</p> <p>「子どもの遊びを探る」</p>
5 回	<p>〈教育課程・指導計画〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期指導計画</li> </ul>	20 回	<p>〈実践における事故防止のポイント〉</p>
6 回	<p>〈保育観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境構成</li> <li>・幼児理解</li> </ul>	21 回	<p>〈実習直前指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生としての心構え</li> <li>・準備物</li> <li>・身だしなみ等の確認</li> </ul>
7 回	<p>〈実習日誌の記録方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境構成</li> <li>・幼児理解</li> </ul>	22 回	<p>〈学外実習の振り返り〉</p> <p>①自己評価と課題</p>
8 回	<p>〈保育観察〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境構成</li> <li>・幼児理解</li> <li>・教師の援助の在り方</li> </ul>	23 回	<p>〈学外実習の振り返り〉</p> <p>②自己評価と課題</p>
9 回	<p>〈実習日誌の記録方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境構成</li> <li>・幼児理解</li> <li>・教師の援助の在り方</li> </ul>	24 回	
10 回	<p>〈実践的音楽演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に即した歌・弾き歌い・手遊び</li> </ul>	25 回	
11 回	<p>〈実践的保育演習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本・紙芝居等の導入からの方法</li> </ul>	26 回	
12 回	<p>〈研究保育の映像記録から〉</p> <p>「保育士・幼稚園教諭になるために」</p>	27 回	
13 回	<p>〈1年次の実習の振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義と目的</li> </ul>	28 回	
14 回	<p>〈保育指導案の作成〉</p> <p>①指導案とは何か</p>	29 回	
15 回	<p>〈保育指導案の作成〉</p> <p>②3歳児の指導案立案</p>	30 回	
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅰ	1年・通年	実習 (おおむね20日)	4単位	栗岡 あけみ 井上 美由紀 橋本 好広
授業概要	既習の科目で学んだ理論が実践の場でいかに具体化され、総合化されるかを実践現場で子どもと関わったり、保育士の役割などを体験することで理解していきます。 実習については・保育所12日間・保育所以外の児童福祉施設10日間実施します。			
授業科目の目的	児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解します。 子ども、家庭、保育士とのかかわりを通して、保育士としての職業倫理や子どもにとっての最善の利益の具体化について学びます。			
到達目標	<p>【保育実習Ⅰ（保育所）】（2単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の生活に参加し、保育所及び乳幼児への理解を深めます。</li> <li>・保育所の機能とそこで働く保育士の職務について理解します。</li> <li>・生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を身につけます。</li> </ul> <p>【保育実習Ⅰ（保育所以外の児童福祉施設）】（2単位）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住型児童福祉施設の生活に参加し、居住型児童福祉施設及び利用者とその家族について理解を深めます。</li> <li>・居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について理解し身につけます。</li> <li>・生活や援助の一部分を担当し、養護技術を習得していきます。</li> </ul>			
テキスト	保育実習指導/近畿大学豊岡短期大学			
参考書	「障害児保育」 藤永 保 監修 萌文書林 「保育士のための福祉施設実習」 小野澤 昇 他 ミネルヴァ書房			
成績評価基準	実習の成果10%、各実習評価90%で総合評価します。			
受講の心構えとメッ セー ジと	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場でどんなことを知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。</li> <li>・記録はとても大切です。自分の考えや感想など文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>・体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。</li> </ul>			
その他				

## 授業内容及び回数

### 実習期間

以下はおおよその日程です。ただし、実習先の状況により前後する場合があります。

**【保育実習Ⅰ（保育所実習）】** 12日間

平成25年9月2日(月)～9月7日(土) 6日間の観察実習

平成26年1月6日(月)～1月11日(土) 6日間の参加実習

**【保育実習Ⅰ居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習】** 10日間

平成26年2月中旬～3月下旬 観察実習・参加実習

＜履修上の注意事項＞

- 保育実習の詳細については、保育実習指導Ⅰで提示します。
- 保育実習指導Ⅰの履修が必要です。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅰ	1年・通年 2年・前期	演習	60時間 (2単位)	栗岡 あけみ 井上 美由紀 橋本 好広
授業概要	<p>保育実習指導では、1年次に実施される保育実習Ⅰ（保育所・施設）及び2年次に実施される保育実習Ⅱ（保育所）・保育実習Ⅲ（施設）の事前学習を行います。児童福祉法に規定される施設（・保育所2週間・乳児院・養護施設・障害施設など10日間）の実習において要求される事前手続きから基礎的な知識や社会人としてのマナー、実習生としての学びや配慮などを学びます。各実習の直前及び終了後には補習（事前・事後学習）を行います。</p>			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設における保育実習を円滑かつ効果的に進めるために、実習の意義、目的、方法などを明確にし、保育士の専門性について理解を深める。また、子どもへの理解を深め、保育士の役割や仕事について学習します。</p> <p>実習の結果について自己評価を行い、今後の保育士としての自己課題を明確にしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育実習の意義や目的・実習姿勢について理解します。</li> <li>• 保育実習の計画や記録が記述できるようにします。</li> <li>• 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にします。</li> </ul>			
テキスト	<p>保育実習指導／近畿大学豊岡短期大学 保育所保育指針解説書／フレール館</p>			
参考書	<p>「障害児保育」 小河晶子他 近畿大学豊岡短期大学 「福祉施設ハンドブック」 小野澤 昇 他 ミネルヴァ書房 授業の中でプリント、資料を配布します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度20%、提出物やレポート30%、実習施設評価・発表態度や内容など50%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実際に子どもたちと共に生活する実習では、机上の学びでは体験できない出会いや、感動がたくさん待ち受けていることでしょう。同時に自分が試されたり、揺らぎを感じることもあります。子どもの傍らにある保育者として、共感すること、子どもを受け止めていくこととはどういうことか一緒に考えていきましょう。実りある実習にするために、基本的な知識を身につけながら、自身の保育感を養ってください。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション 実習の意義と目的について 実習の段階について	16 回	施設実習に向けての施設実習の概要
2 回	保育所について 保育所の概要 機能と目的について 身上調書の書き方	17 回	保育計画・指導計画 保育計画に基づく指導案の作成
3 回	乳幼児の発達と保育 0. 1. 2歳児保育とその実際 年齢別保育技術の習得	18 回	施設実習に向けての施設の実際
4 回	乳幼児の発達と保育 3. 4. 5歳児保育とその実際 年齢別保育技術の習得	19 回	実習課題の明確化 保育実践演習 手遊び 絵本 紙芝居 パネルシアター等
5 回	オリエンテーションに向けて 実習生としての心構え 守秘義務	20 回	後期保育所実習直前指導 まとめ 準備事項の確認
6 回	保育所実習の課題 実習事前の自己課題の明確化	21 回	施設実習に向けての施設の機能と役割
7 回	保育内容 一日の保育の流れと保育の展開例	22 回	施設実習に向けての実習簿の書き方
8 回	実習日誌の記入方法 ① 実習日誌の意義 記入の諸注意	23 回	施設実習直前指導・準備事項の確認
9 回	実習日誌の記入方法 ② 記録の取り方 記入の仕方	24 回	実習体験の振り返り（保育所） 反省と実習事後課題 体験発表
10 回	前期保育所実習直前指導 準備事項の確認（保育所）	25 回	実習体験の振り返り（福祉施設） 実習事後課題の明確化 体験発表
11 回	前期保育所実習を終えて ① 報告会 自己評価	26 回	実習体験の振り返り（保育所） 子ども理解 ①
12 回	施設実習の心構え、オリエンテーション	27 回	実習体験の振り返り（福祉施設） 利用者と施設の概要の理解
13 回	前期保育実習を終えて ② 観察実習をとおして子ども理解	28 回	実習体験の振り返り（保育所） 子ども理解 ②
14 回	施設実習の課題の明確化	29 回	全体総括（福祉施設） 保育実習課題の明確化
15 回	保育計画の意義 環境構成・保育者の援助、配慮の記入方法	30 回	全体総括（保育所） 保育実習課題の明確化
《定期試験》 有 ・ 無		《定期試験》 有 ・ 無	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅱ	2年	実習 (おおむね10日)	2単位	栗岡 あけみ 井上 美由紀
授業概要	保育実習Ⅱは保育所実習で、2年次に行ないます。1年次の保育実習Ⅰの保育所実習で学んだことを発展的に深化させることを目的にします。実習内容としては、実習Ⅰで行った観察・参加・部分実習に加え、実際に一日指導計画を立案し保育を実践します。			
授業科目の目的	保育実習Ⅱは保育実習Ⅰを基礎とした指導実習となります。 保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得します。 家庭と地域の生活実態に触れて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養っていきます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育全般に参加し、保育技術を習得します。</li> <li>• 保育計画を立案し実際に実践することで、保育士としての必要な資質・能力・技術の習得に努め、自身の課題を明らかにします。</li> <li>• 子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について学びます。</li> <li>• 地域社会における保育所と保育士の役割について理解します。</li> </ul>			
テキスト	保育実習指導/近畿大学豊岡短期大学			
参考書				
成績評価基準	実習の成果10%、各実習評価90%で総合評価します。			
受講の心構えとメッセー	<p>実習はこれまでの講義や演習で得られた知識や技術のもとに、多くの学びが得られるものです。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現場ではどんなことが知りたいのか、自分の課題を最初に立てておきましょう。</li> <li>• 記録はとても大切です。自分の考えや感想など文章で適切に表現できるようにしましょう。</li> <li>• 体調管理をしっかりと行い、諸注意を厳守し、責任を持って行動しましょう。</li> </ul>			
その他				

## 授業内容及び回数

### 実習期間

以下はおおよその日程です。ただし実習先の状況により前後する場合があります。

**【保育実習Ⅱ（保育所実習） 11日間】**

平成25年8月19日(月)～8月30日(金)      •参加実習   •責任実習】

＜履修上の注意事項＞

- 保育実習Ⅱの詳細については、保育実習指導Ⅱにて提示します。
- 保育実習指導Ⅰ・保育実習Ⅰの履修が必要です。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅱ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	栗岡 あけみ 井上 美由紀
授業概要	<p>保育実習Ⅱは保育所実習の準備と事後学習のためのものです。</p> <p>「保育実習Ⅰ」「保育実習Ⅱ」の継続性を理解し、指導実習に必要な保育指導案の立て方について学んでいきます。また、保育所実習全体をとおして、子ども、家庭、地域への理解を深め、子育て支援の必要性や内容を学習します。</p>			
授業科目の目的	<p>保育士にとって望ましい資質や適性、職業の理解、子どもの理解を深めるとともに、専門職の保育士としての自覚と態度を養成することを目的とします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習Ⅰで学んだことを発表やグループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得します。</li> <li>指導実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にします。</li> </ul>			
テキスト	<p>一年次に購入したテキストを継続して使用します。</p>			
参考書	<p>必要に応じて随時紹介します。</p> <p>授業の中でプリント、資料を配布します。</p>			
成績評価基準	<p>受講態度20%、提出物やレポート30%、実習施設評価・発表態度や内容など50%を総合して評価します。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>保育士を目指すためには、子ども、家庭、地域への理解まで求められます。</p> <p>「専門職になる」という意識を常に持ち、授業に出席してください。これからの授業の学びと実体験を繋げていきましょう。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

1 回	保育実習Ⅱの目標と内容 保育実習Ⅰの自己評価 保育実習の実際
2 回	保育技術の実践 保育士の職務 保育技術について
3 回	保育指導計画の作成 ① 部分実習の指導計画の立案
4 回	保育指導計画の作成 ② 一日実習の指導計画の立案
5 回	指導案の実践 グループディスカッション
6 回	実習直前指導 実習課題の明確化 実習日誌の記入方法確認
7 回	実習体験の振り返り 自己課題の明確化
8 回	全体総括 自己課題の明確化
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 有 ・ (無)	

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習Ⅲ	2年・前期	実習	80時間 (2単位)	橋本好広
授業概要	福祉施設実習であり、8月中旬～下旬の10日間（80時間以上）の実習を行う。			
授業科目の目的	<p>児童福祉施設の内容・機能等を、実践現場での体験を通して理解する。また、子ども・家庭・保育士とのかかわりを通して、保育士としての職業倫理や子どもの最善の利益への具体化について学ぶ。保育実習Ⅲは、保育所以外の多様な種別の児童福祉施設や社会福祉施設が対象である。児童福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。家庭と地域の生活実態に触れ、子どもの家庭福祉のニーズに対する理解力・判断力を養う。また、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護全般に参加し、養護技術を習得する。</li> <li>・援助計画を立案し実際に実践することで、児童福祉施設等の保育士として必要な資質、能力、技術の習得に努める。また、自分自身の課題を明らかにし、子どもの個人差やニーズについて理解し、その対応について学ぶ。そして地域社会における児童福祉施設と保育士の役割について理解する。</li> </ul>			
テキスト	<p>「保育実習指導」／戸江 茂博 他 著／近畿大学豊岡短期大学  「保育所保育指針解説書」／厚生労働省編／フレーベル館</p>			
参考書	<p>「福祉施設実習ハンドブック」／小野澤 昇 他 著／ミネルヴァ書房</p>			
成績評価基準	<p>実習の成果10%。 各実習評価90%。 実習時間数80時間以上。総合評価をする。</p>			
受講の心構えとメッセージ	<p>実習は、これまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものである。そのためにも、以下のことに注意し実習に臨むこと。体調管理には十分気をつけ、遅刻や欠席はしない。身だしなみをきちんとする。諸注意を厳守し、各自が責任をもって行動する。自立した人間としての自覚の上に職業実習として捉えてください。詳細や各種連絡事項は、保育実習指導Ⅰで提示をする。必ず出席すること。</p>			
その他				

## 授業内容及び回数

実習期間（以下はおおよその日程である。実習先の状況により、前後する場合もある）

- 1 〔保育実習Ⅰ（保育所実習）〕 12日間  
平成25年7月～9月までの1週間の観察実習及び平成26年1月上旬の実習。
- 2 〔保育実習Ⅰ（居住型児童福祉施設等及び障がい児通所施設等における実習）〕 10日間  
平成26年2月中旬～3月下旬
- 3 「施設実習Ⅲ」は、8月中旬～下旬 10日間で80時間以上。

### ＜履修上の注意事項＞

- 保育実習Ⅰの詳細については保育実習指導Ⅰ（実習ガイダンス）にて提示する。
- 保育・幼児教育コース在籍者でなければ履修できない。
- 保育実習指導Ⅰの履修が必要である。

教科名	開講年次	授業形態	時間数(単位)	担当教員
保育実習指導Ⅲ	2年・通年	演習	15時間 (1単位)	橋本好広
授業概要	保育実習（施設）の事前および事後学習を行う。児童福祉法に規定される施設での2週間の実習において要求される事前手続きから基礎的な知識や社会人としてのマナーを身につける。保育実習Ⅲは、福祉施設での実習を通して保育士としての業務を身につけ、実践力を養う。			
授業科目の目的	保育実習Ⅲは、保育所以外の多様な種別の児童福祉施設や社会福祉施設が対象となる。児童福祉施設で養護の方法を知り、深め、保育士としての職務を身につける。また、職業実習として捉え、職業人として何が必要かという立場・心構えで施設実習を深める。特に、「利用者の最善の利益は何なのか」を考えながら支援の方法を探り、創意・工夫をこらし施設実習に向けて学んでいくことにする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護全般に参加と養護技術の獲得。</li> <li>・支援計画を立案し実際に実践することで児童福祉施設等の保育士として、①必要な資質・能力・技術の習得に努め ②利用者一人ひとりの個人差やニーズについて理解し、③一人ひとり対応（スキル）について学ぶ。また、地域社会における児童福祉施設と保育士の役割について理解し実践を行う。</li> </ul>			
テキスト	「保育実習指導」／戸江 茂博 他 著／近畿大学豊岡短期大学 「保育所保育指針解説書」／厚生労働省編／フレーベル館			
参考書	「福祉施設実習ハンドブック」／小野澤 昇 他 著／ミネルヴァ書房			
成績評価基準	事前指導25%。 実習評価50%。 事後指導25%。			
受講の心構えとメッセージ	実習は、これまでの講義や演習で得られた知識や技能のもとに、多くの学びが得られるものである。さらに、保育実習Ⅰで得た学びを発展させる場でもある。80時間以上の施設実習をやり遂げるためには何が必要だろうか。また、社会人としての職場体験実習にもなる。①社会的ルール：守秘義務、勤務時間の厳守など社会人としての自覚がかかせない。特に、体調管理には十分気をつけ、遅刻や欠席をしない。また、諸注意を厳守し、責任をもって行動することが大切である。身だしなみにも気を付けること。			
その他	施設実習に期日は、平成25年8月中旬～下旬の10日間（80時間）以上の予定。			

## 授業内容及び回数

1 回	オリエンテーション
2 回	施設実習事前指導（福祉施設の概要）
3 回	施設実習事前指導（福祉施設の利用者）
4 回	施設実習記録簿の作成の仕方
5 回	施設実習記録簿の作成上の留意点
6 回	実習直前指導・自己課題の明確化
7 回	実習体験の振り返り
8 回	施設実習体験論文集
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	
15 回	
《定期試験》 有 ・ ①無	

